

現代中国における宗族の現状と再構築：都市化が進む珠江デルタの宗族村落の事例から

劉，梓華 / LIU, Zihua

(開始ページ / Start Page)

1

(終了ページ / End Page)

73

(発行年 / Year)

2022-03-24

(学位授与年月日 / Date of Granted)

2022-03-24

(学位名 / Degree Name)

修士(国際文化)

(学位授与機関 / Degree Grantor)

法政大学 (Hosei University)

修士論文

指導教員 曾 士才 教授

論文題名

現代中国における宗族の現状と再構築
——都市化が進む珠江デルタの宗族村
落の事例から

国際文化研究科国際文化専攻修士課程

氏名 劉 梓華

要旨

現代中国における宗族の現状と再構築 ——都市化が進む珠江デルタの宗族村落の事例から

指導教授 曾 士才

国際文化研究科 国際文化専攻 修士課程

劉 梓華

宗族集団とは、中国、特に東南中国の漢族社会においてよくみられる血縁関係に基づいて集中居住する父系出自集団であり、おおむね自然村と重なっていることが多い。本研究の調査地である珠江デルタの南海区は宗族文化が栄えてきたところであり、嶺南民俗文化の中心地と目されている地域である。しかし、血縁関係、祖先崇拜を重んじることや、こだわりが強い人間関係と排他性などの特徴から、現代中国においては、宗族や宗族文化は時代遅れのものとされてきた。一方、南海区を含めた珠江デルタは、中国で最も経済力があり、都市化が進んでいる地域であり、大量の外来移住者が流入、定住している地域である。そして、都市化が進む農村部においては、元からの農民、都市民、外来移住者からなる「三元化コミュニティ」が見られるようになっている。本研究では、都市化が進む珠江デルタの宗族村落において、宗族文化が新たな機能を持ち、宗族が再構築される様子と、地元政府が目指す三元化コミュニティの社会統合に宗族文化が果たす役割を明らかにすることを目的としている。

第一章は、これまでの宗族に関する先行研究がどのような視点から行われ、どのような結論が出されたかをまとめた。そのうえで、農村の都市化と宗族集団の変遷との関係を考察することの重要性を指摘し、仏山市南海区の宗族集団を事例に、21 世紀における宗族の再構築と新たな機能を考察することが本論文の研究目的であることを述べた。

第二章では、宗族を取り巻く 80 年代以降の社会的背景の変化を、経済的・政治的・文化的側面から述べた。経済面では、20 世紀 80 年代以降に土地の使用権が認められたこと、政治面では、農村の都市化を推進するために戸籍制度が改革され、農民は身分転換に伴い、多くの人の生活方式が変わったこと、文化面では、伝統文化の復興、地域文化の保護と維持などの政策が打ち出されるなか、従来排除されてきた宗族文化が新たな意味づけをされ、再生したことを指摘した。また、調査地である南海区は、各方面の改革のパイオニアであるが、家族文化と宗族文化が盛んであること、都市化の進展に伴い移民問題が生まれており、社会統合が大きな課題になっていることを指摘した。

第三章は、都市化が進む行政村 A の宗族村落の現状を紹介した上で、龍船競漕と関連する活動を詳細に記述・分析した。そして、①宗族村落のシンボルとして龍船競漕活動が再び活性化していること、②ドリフト技術や龍船を使った結婚式、ネットでの受発信など現代社会にマッチした龍船競漕の活動内容になっていること、③都市化による「郷村振興計

画」を進め、移住者問題の解決も図りたい地元政府や上級政府は、本来は宗族の活動である龍船競漕を利用しようとしていることなどを明らかにした。また、純粋に宗族の活動として龍船競漕を行う宗族集団側と地域管理者として農村改造を進める政府側との間に思惑のズレが生じていること、外来移住者と宗族成員との間には距離感があることも指摘した。

第四章では、宗族文化としての龍船競漕が活性化した背景にあるより大きな社会変化を踏まえ、新たに生まれた宗族の経済的、政治的、文化的機能について述べるとともに、都市化が進み、多元化する珠江デルタ南海区の農村社会における社会統合と宗族の再構築について考察した。

仏山市南海区では、農村株式合作制度により宗族村落ごとに集団経済組織を設立し、まとまった土地を企業や工場に貸して、その賃貸料の収入から各成員に配当金を給付するようになった。これにより宗族は新たな経済的機能を有することになった。また、宗族は元来血縁集団に対する責任感から村落レベルでの自治機能を有していたが、新中国になり、中央政府が末端行政の村落まで管理するようになり、宗族や宗族文化は唾棄すべきものであるとされたこともあった。しかし、21 世紀に入って上記のように新たに集団化したことにより、結束力と凝集性を高め、宗族村落内の人間関係の維持、調整などの自治機能を再び持つようになった。また、個人と国家との間に立って、仲介的な役割も担うことになったことも述べた。

しかし、改革開放以降、大量の外来移住者の流入により、宗族村落の互いに見知った者どうしからなる「熟人社会」は崩壊しつつある。地元政府や上級政府はこのような多元化したコミュニティの再統合のために、本来は宗族文化の一部であった龍船競漕を活用しようとしているが、宗族が持つ排他性とどう折り合いをつけられるかが課題である。一方、地元政府や上級政府は、本来 A 村の宗族文化の一部である龍船競漕をより広い南海地域の郷土文化として位置づけ、包容力に富みながらも、一丸となって果敢に立ち向かっていく「南海精神」を提唱するようになっている。これは南海地域が元の農民（宗族村落の成員）、元からの都市民、外来移住者などからなる多元化社会になっているなか、出自の違いに関係なく、龍船競漕を南海人の集合的記憶にし、南海人としてのアイデンティティを形成させようとする意図があるからである。

また、地元政府や上級政府は社会統合を推し進めるため、小中学校のカリキュラムのなかに、龍船競漕文化、宗族文化を共有できるプログラムを入れたり、各宗族村落ごとに祠堂とは別に文娛楼（コミュニティの活動センター）を建設して誰でも来ることができるようになっていることや、龍船競漕というローカルな宗族文化を国家が進める愛国社会主義教育や観光資源化などにつなげようとしていることについても指摘した。

本論文は、都市化が進む珠江デルタの宗族村落を事例にして、現代中国における、特に 21 世紀に入ってから宗族が、政治、経済、文化面でさまざまな機能を加えられながら再構築されている状況を考察した。先行研究では都市化する村落社会と宗族に焦点

を当てたものがほとんどなかったが、まさにこの点が本研究の特徴と言える。多元化する村落社会において、宗族文化に由来するものが社会統合の機能を果たせるかどうか今後も見えていく必要がある。また、農村の都市化は全国的に展開されており、珠江デルタ地域以外における状況を把握することが今後の課題である。

目次

はじめに.....	1
第一章 先行研究と研究目的.....	3
一 先行研究.....	3
二 研究目的.....	6
第二章 研究背景と調査地の概要.....	7
一 宗族を取り巻く 80 年代以降の社会的背景の変化.....	7
1 経済的側面の変化——生産責任制と土地の使用権の登場.....	7
2 政治的側面の変化——都市・農村の一体化.....	9
3 文化的側面の変化——伝統文化の復興計画、地域文化の保護と開発.....	11
二 調査地の概要と調査方法.....	12
1 調査地の概要.....	12
1.1 珠江デルタの都市化と移民問題.....	13
1.2 珠江デルタの宗族文化と家族文化.....	14
1.3 仏山市南海区——改革のパイオニア.....	14
1.4 仏山市南海区の社会統合の問題.....	17
2 調査方法.....	19
第三章 都市化が進む珠江デルタにおける宗族文化.....	19
一 A 村の宗族村落の現状.....	19
1 A 村の宗族村落の概況.....	19
2 都市化が進む A 村の宗族村落.....	22
二 A 村の宗族村落の龍船競漕（宗族側）.....	23
1 A 村の龍船競漕について.....	23
2 なぜ龍船競漕大会で優勝したいのか.....	27
3 現代文化と融合した A 村の龍船競漕.....	28
3.1 A 村の龍船競漕の見どころ.....	28
3.2 A 村の龍船競漕と結婚式.....	29
3.3 インターネット上の A 村の龍船競漕のフォーラム.....	30
三 龍船競漕文化と農村改造への動き（政府側）.....	34
1 現地の都市化と「郷村振興計画」.....	37
2 地域管理者としての役割を増す地元政府/上級政府.....	38
2.1 「皇権不下県」の廃除.....	38
2.2 A 村の改造とグラフィティ.....	39
四 龍船競漕をめぐる宗族側と地元政府側の関係.....	40
1 A 村の学校における民俗文化カリキュラム.....	40
2 A 村の龍船競漕に関する活動の開催.....	41
3 「A 村小鎮」プロジェクト.....	43
4 マスメディアに描き出された A 村の龍船競漕.....	46

第四章 宗族の再構築とコミュニティの再統合	48
一 宗族が果たす政治的・経済的・文化的機能と再構築	48
1 経済的機能——宗族集団の集団経済組織化	48
1.1 「新集団主義」について	48
1.2 観光業によって得られる新たな経済的利益	51
2 政治的機能——宗族成員間の自治	51
2.1 血縁集団に対する責任感	51
2.2 個人と国家との間の仲介機能	52
2.3 多元化コミュニティの社会統合と宗族集団	53
3 文化的機能——より広い郷土文化として	53
3.1 集合的記憶と帰るべき故郷の創造	53
3.2 愛国主義教育の一環としての新たな意味づけ	56
3.3 観光資源化	58
4 社会福祉的機能——高齢社会への対応	58
二 多元化コミュニティの社会統合に向けて	59
1 外来移住者の二代目のアイデンティティと学校のカリキュラム	60
2 祠堂や文娛楼の利用について	61
3 三元化コミュニティから多元化コミュニティへ	64
おわりに	65
謝辞	68
参考文献	69

はじめに

共通始祖からの父系出自によって形成された集まり住む集団は「宗族」と呼ばれる。宗族の共有財産である族田、宗族成員（男性）の系譜が書かれている族譜、祖先祭祀等宗族活動を行う場所である祠堂は、宗族集団が形成される重要な要素である。宗族成員は、同じ開基祖、始祖を祭祀することにより、血縁関係に基づくアイデンティティを確かめ、同姓不婚を守り、財産を共有し、相互扶助を行い、結束して他者集団に侵されないように共通の利益を守る。東南中国漢族社会においては、父系出自を基本的紐帯として一つの村落に集住する傾向が依然として顕著な特色である。

しかし、宗族集団は過去から変わらぬ姿で存在しているわけではなく、中国の社会変遷に適応しながら変遷してきた。文化人類学者瀬川昌久、川口幸大は、15 世紀から 21 世紀までを宗族の変遷によって四つの段階に分け、「宗族形成」「宗族衰退」「宗族復元」「宗族復興」と呼んでいる。その中で、2000 年代以降の地元政府や宗族内の成功者によって新しい意味や価値をまとった宗族の再生現象を「宗族復興」と呼んでいる。宗族の再生現象は、海外移住者が多い東南中国において際立っている。

改革開放以降、飛躍的な経済発展とともに、中国社会の都市化¹が広範囲にしかも急速に進行している。2020 年、中華人民共和国住宅都市農村建設部²が公表した調査データによると、中国の都市化率³は 63.89%に達した⁴。要するに、中国において、都市開発用地の拡大につれて、多くの農村地域は都市地域に組み入れられ、農民は非農民、都市民とされるようになっていく。都市開発を背景として、最も激しい変化にさらされている地域の一つは、広東省珠江デルタである。この地域では、都市化による人口流入や生産方式の変化、また、80 年代以降の土地使用権の登場、都市と農村の二元構造の崩壊、伝統文化の復興など、経済的・政治的・社会的・文化的な問題によって宗族集団は大きな影響を受けている。特に都市と農村との境界にある城中村⁵における宗族村落は激しい変

¹都市化：都市への人口集中、および都市に特有な生活様式が累積・強化され、都市周辺や農村に浸透・拡大していく過程をいう。

出典：都市化<<https://kotobank.jp/word/都市化-105097>>（参照：2021-09-19）

²中華人民共和国住宅都市農村建設部：中華人民共和国の国家行政機関で、建築・建設の行政管理を担当する。最高国家行政機関である国务院の構成部門の一つ。日本の旧建設省（現在の国土交通省）に相当する。

出典：中华人民共和国住房和城乡建设部（中華人民共和国住宅都市農村建設部）

<<https://zh.wikipedia.org/wiki/中华人民共和国住房和城乡建设部>>（参照：2021-10-28）

³都市化率：中国国家統計局によると、都市化率（城鎮化率）＝城鎮人口／総人口（常駐人口のデータを使用する）、外地人（地元出身ではない）は、半年以上にわたって当該地域で居住すると、常駐人口とされる。

出典：<http://finance.ce.cn/rolling/201811/14/t20181114_30781470.shtml>（参照：2021-10-19）

⁴出典：2020 年に公表された中国の都市化率

<<https://www.chinanews.com/gn/2021/08-31/9554999.shtml>>（参照：2021-09-19）

⁵都市開発の過程で、都市周辺の農村地域が政府により収用された。このような都市に組み入れられた農村を特別な地域として、2000 年以降、「城中村」というオフィシャルな呼び方が使われ出した〔刘、傳 2010：177〕。

化にさらされている。都市化率を高めるため、多くの農村は「農転非」（「村改居」と同じ）政策⁶が実施されるにつれて、村民の身分は「居民」となった。しかし、農民の新しい身分に対する認知度は低い。一方、城中村、宗族村落等の地域は、外来移住者のような他者の転入につれて、「熟人社会⁷」から「半熟人社会⁸」へと変貌しつつある。特に、調査地の珠江デルタ仏山市の村落は、三元化（市民、農民、外来移住者）コミュニティ⁹と呼ばれている。そして、城中村では、住民の多様化によるコミュニティ危機、宗族集団のアイデンティティの喪失、外来移住者の帰るべき故郷の喪失などの問題が起こっている。

筆者は、珠江デルタ仏山市における宗族集団に属する成員であり、出生以降、自分の属する宗族村落及び周辺の宗族村落の変遷を経験している。筆者は故郷の仏山市にある宗族村落を事例として、珠江デルタの村落でいま何が起きているのかを明らかにしたい。具体的には、文献調査と現地調査によって 80 年代以降の、特に 21 世紀に入ってから宗族村落を取り巻く社会変化（宗族の集団経済組織化、都市・農村の一体化政策、ローカルな地域文化を中華文化の一部として発揚させる動き）を背景として、21 世紀における宗族の新たな機能と再構築を明らかにしたい。この研究目的を明らかにするために、複数の宗族集落から構成される行政村 A で行われている宗族文化としての龍船競漕を事例に取り上げる。

結論として、伝統文化の一部である宗族文化は、コミュニティの管理者である政府（居民委員会、市区政府）によって、新たな文化的な意味付けがされ、再利用されている。もちろん、この過程において、宗族集団は自集団の利益を守るために、いろいろな対応策を取ることも見て取れる。こういう宗族側と政府側との相互交渉を重ねるなかで、宗族文化は変遷してきた。変遷し、再利用されている宗族文化は、三元化しているコミュニティ、ないし今後さらに多様化するコミュニティの統合に重要な役割を果たす可能性があり、今後、「半熟人社会」（見知らぬ者どうしの社会）などの社会問題の解決の糸口となるかもしれない。

⁶村改居：2/3 以上の村民が農業生産をやめたという条件を満たす農村に対して、「農転非」、あるいは「村改居」と呼ばれる政策を実施する。この政策は、農民の戸籍を農村戸籍から居民戸籍（非農村戸籍）へ変更し、役所である村民委員会を居民委員会へ変更することである。

出典：村改居<<https://baike.baidu.com/item/村改居/2251379>>（参照：2021-10-28）

⁷中国の伝統的な農村社会の構造である。村落の中に、全員が知り合いで、赤の他人はいない [費 1948]。

⁸「半熟人社会」と定義される 21 世紀以来の中国農村社会は三つの特徴がある。一つ目は、村落社会が多様化し、村民間の同質性が減りつつあること。二つ目は、地域の共通認識が喪失しつつあり、従来の村落の慣習法は村民の行動様式を制限しにくくなること。三つ目は、村民の村落に対する主体性が喪失しつつあること [賀 2003]。

⁹三元化コミュニティは三つの身分の人々から構成される。一つ目は、従来、農村戸籍を所有し、村落、特に宗族村落に暮らす人々であるが、現在、「農転非」、「村改居」等の政策のため、彼らは「非農村戸籍」、村落集団経済組織の成員という身分を所有するようになった。二つ目は、当該地域における従来の都市戸籍を所有する人々、市民とも呼ばれる人々である。三つ目は、戸籍が転入されずに、当該地域で働いている人々、外来移住者とも呼ばれる人々である [高 2015]。

第一章 先行研究と研究目的

一 先行研究

中国社会の研究において、宗族を研究対象とし始めたのは20世紀前半であった。主に、歴史学、社会学、文化人類学など各分野において宗族研究が行われてきた。

まず、宗族という概念について整理しておきたい。中国漢族社会の父系親族集団を指すときには、一般的に「宗族」という語を用いる。ただし、日本語の文献では、

“Lineage”の音写である「リネージ」が用いられることもある。海外と中国の研究者による宗族の概念は、四つの側面から言及されてきている。一つ目は、家族と宗族との関連性を強調し、宗族は家族の規模の拡大だという見解である。例えば、費孝通は、宗族は多くの家族からなるコミュニティだと述べている。二つ目は、宗族は宗法、合意、首長という要素に基づく血縁団体だという見解である。三つ目は、宗族集団には分散居住と群居居住という二種類があるという見解である。四つ目は、姓氏の重要性を強調する見解である。以上の四つの見解から、宗族集団は、父系出自、基盤となる家庭、集まり住むことという三つの条件を満たし、祠堂、族譜、族田（族産）などの要素がセットになって存在する組織だと言える [冯 2009]。中国村落の家族に関する研究を行った王は、「村落家族文化は中国社会の基本的特質を構成した」と指摘した [王 1961 : 3]。宗族の研究は中国社会の研究にとって重要な部分であることが分かる。

宗族および宗族文化に関する研究であるが、これは時代ごとに各分野の理論に影響されている。戦前、清水盛光、平野義太郎、牧野巽ら日本の研究者は、進化主義の理論を用いて、産業革命が進行している欧米各国および日本と比べ、血縁的な紐帯で形成される宗族文化ないし中国社会が後進的なものだとして認識していた。20世紀初期に、機能主義と家族研究の影響で宗族は研究者にとって中国の漢族社会を理解する重要なキーコンセプトとなった。その中で、社会学者D・カルプ、林耀華は東南中国の宗族村落を調査地として、家族・親族・宗族に注目し、村民たちの生活の諸側面を詳しく記述した [カルプ、林 1925、2000]。カルプらの全面的な調査はその後の研究者に中国の郷土社会に対する調査方法を提供した。

戦後、中国国内の政治運動による影響で、外国人研究者は、中国本土で長期滞在型の実地調査を行うことが不可能になった。彼らは、慣行調査と「残された中国」と呼ばれる香港、台湾で行った調査に基づいて宗族研究を行った。東南中国の宗族を研究したフリードマンは、宗族文化が東南中国において発展し得た要因は、当該地域の基本的な条件に関わっているという論点を出した。その基本的な条件とは、①中国の辺境という位置と、②稲作経済、または③先進的な灌漑施設である。その上で、フリードマンは、「中国社会に対する単一の鍵などは存在しない」と指摘した [フリードマン 1995 : 209]。モーリス・フリードマンと彼のフリードマン・パラダイムは、今に至るまで中国の宗族研究に深い影響を与えている。

当時、中国大陆の宗族文化に関する調査は行えなかったため、香港や台湾社会に基づく研究結果を中国大陆の宗族文化の解釈に当てはめる傾向があった。しかし、フリードマンが「単一の鍵は存在しない」と述べたように、香港と台湾の宗族文化は、単なる中

国大陸の宗族文化のコピーではなく、ローカルな影響を受けており独自性がある。この論点は現在の宗族研究において参考にすべき点である。

1980年代に入ると、改革開放政策が実施され、中国大陸が再び海外に向けて開かれた。政府は、宗族文化に対して依然ネガティブな評価を持っていたが、宗教と信仰活動への統制を緩和し始めた。海外居住者や香港在住者たちは、故郷の宗族復興に力を入れるようになり、宗族文化は新しい局面を迎えた。宗族再生現象がみられるようになると、人類学者らによる宗族研究が再開され、1940年代以降の中国大陸の宗族研究の欠如が補填されるようになった。その中で、日本の人類学者瀬川や川口は、東南中国の宗族の再生現象に注目し、15世紀から21世紀までの珠江デルタにおける宗族の変遷を「宗族形成」「宗族衰退」「宗族復元」「宗族復興」という四つの段階に分けた¹⁰。瀬川が、宗族の再生現象には、再生する主体の二つの希求が含まれていると指摘した。一つ目は、自分の由緒をたどり、他者から差異化することである。二つ目は、観光開発や地域復興することである〔瀬川 2014: 82〕。同様に、川口は「宗族復元」期と「宗族復興」期との重要な相違点が担い手の違いにあるということを指摘した。「宗族復興」の担い手は、香港在住者から国内の成功者や地元政府へと変わったのである〔川口 2013: 275、2016〕。

ワトソンが論じた「宗族集団は適応的社会機構」と論じたように、宗族の再生現象は偶然のことではなく、宗族集団は強く柔軟な適応性をもって社会変遷に応じて変化しながら持続していることが分かる〔ワトソン 1995: 219〕。つまり、宗族が中国社会の変遷にともなう変容してきた。逆に、宗族の変容に関する研究を通じて、社会的な変遷、宗族集団が所在する地域の人間関係などを考察することができる。一方、2000年代以降の宗族研究の内容について、まさに瀬川が指摘したように、宗族の復興・再生現象から中国の社会的・文化的持続性を論じること自体にはあまり意味はなく、むしろ宗族に新たな意味を付与しながら、新たな社会状況を生きている人々の実践を具体的に記述していくことに意味がある〔瀬川 2014: 81〕。なお、宗族再生の現象は、東南中国の農村における宗族集団に新たな統合機能をもたらすことになった（詳しくは第四章で論じる）

¹⁰ 宗族再生の現象：瀬川らは、2000年前後の東南中国の宗族集団による祠堂の再建、族譜の再編、祖先祭祀の復活などの現象を「宗族復興」と呼んだ。1970年代末から1980年代初期まで、珠江デルタの海外移住者たちは、改革開放政策の実施を契機として地元政府と祠堂や墓などの再建について交渉した。ただし、宗族復元段階における担い手は、海外在住者と香港在住者であった。当時、宗族の活動は政府から公的に認可されていなかったが、海外在住者が故郷における宗族の施設の修繕に全部の費用を出すことで、地元政府から祖先祭祀を再開する許可をもらうようになった。一方、2000年を過ぎると、国家レベルで「伝統的な文化」の称揚が進められる中、宗族も肯定的に評価されるようになった。海外に生まれた1世、2世の海外在住者による故郷と宗族集団に対する感情とアイデンティティが薄くなるにつれて、故郷への寄付、援助も少なくなった。一方、改革開放の実施につれて、珠江デルタの経済が飛躍的に発展した。宗族成員の香港への憧憬が薄れ、宗族を再生する役割を果たす担い手も変わった。東南中国における地元の成功した企業家と政府が宗族再生のプロジェクトを支えたことで、「偉大な中華民族の復興」という政治的な働きとつながるようになった〔川口 2013: 275、2016〕。

宗族文化が、建国後のイデオロギーに影響され、男女平等などの思想の進歩を妨げる高い排他性をもつ「後進的」な文化であると認識している人々は現在でも多くいる。ただし、多方面から宗族を論じる中国の研究者も多くなっている。現在、中国の学界において、中国の宗族文化がどういうふうに存在しているかについて、構造主義と実践主義（原文のまま）などの視点において異なる見方があると李がまとめた [李 2019]。具体的に言えば、王は構造主義の視点から、新中国成立後、集団経済時期において、家族、宗族の役割が弱められたが、改革開放以後、宗族集団は当時欠けていたオフィシャルな組織の役割を補ったとする見方をしている [王 1991]。しかし、実践主義的な学者は、これとは異なった見方をしている。集まり住む習慣が維持されている集団経済時期、宗族集団はむしろ持続していたが、改革開放以降、都市化、出稼ぎ労働者の流入のため、宗族集団と農民との血縁関係は、国家と公民との社会契約関係に替わってしまったとする見方である [王、陳 2004]。従来の宗族研究は、一つの理論を用いて行われることが多かった。研究者は、単に一面から宗族の性質を判断する傾向にあった。近年、人類学者は宗族文化が復興されたか、あるいは衰退したか、「いいもの」か「よくないもの」か、という二項対立の考え方から脱却し、複眼的な視点から宗族と当地の社会状況をつなげて論じるようになっている。

近年、中国の都市化と農村地域との関係に注目する研究者が多い。中国の都市化は政府主導型、あるいは、政府が強大な組織体系と行政の力を駆使しながら都市化を計画し推進するものと考えられている。多くの中国農村は、自発的に都市へ変更するわけではなく、政府がその都市化のプロセスを遂行し、完成させている。従来の都市化推進の中で、多くの問題が出てきた。例えば、「紋切型（一刀切）」、短時間で強引な都市化を促進することである。それに対して、政府や学者は、中国の人口の多さ、地域の多様性、発展レベルの格差などから、各地域の特徴に応じた規模の多元化、つまり、「多元的都市化モデル¹¹」という都市化の推進方針を提唱するようになった [李 2013 : III]。一方、研究者は、都市化の過程にあるコミュニティとコミュニティ内の人間関係に注目するようになった。費孝通は中国の農村社会を「熟人社会」と呼んだが、それに対し、賀は現代中国農村社会は「半熟人社会」だという見方をしている。また、華中地域の農村が原子化社会（村民どうしのつながりがない社会）であると指摘されることが多いが、賀は宗族再生以降の華南地域の農村は（集団）結束型の非原子化村落だと指摘している [賀 2003]（p12～13 の注 18 参照）。珠江デルタの都市化、外来移住者の転入の増加につれて、宗族村落は「半熟人社会」へと変更しつつある。宗族集団は、宗族村落においてマジョリティとして生活しているとは限らなくなっている。外来移住者とともに生活するようになっており、あるいは、村落においてマイノリティとなっていることも珍しくない。このような社会変化過程において、現在、再生した宗族文化は半熟人社会においてどのように機能して得るのか、農民、市民、外来移住者という出自や属性の異なる人々

¹¹多元的都市化モデルについて、様々な角度から異なる理解が示されている。例えば、都市規模の多元性、都市発展形態の多元性、人口移動モデルの多元性、都市化推進原動力の多元性、都市化主導産業を多元性、等々である [李 2013 : 29]。

を統合する上でどのように機能するのかを研究することはとても意義があることだと言える。

このように国内移民の時代の到来とともに、異なる文化的背景にある人々が同じ場所で生活するようになっていく。近郊農村が都市化するなかで、宗族村落は一層多様化してきており、研究者にとって宗族集団への関心が一層高まっている。また、当該地域の伝統文化の持続や、多元化コミュニティの調和と統合は、地元政府、地元民、移民にとっても重要な課題となっている。周大鳴氏らの調査から、珠江デルタの農村地域における宗族集団には、農村部の都市化、外来移住者との統合等のプロセスにおいて、新しい意味が付与され、重要な役割を果たすようになっていくことが分かった。周は、『『伝統』というものは、社会が停滞した産物ではなく、逆に社会変遷において創造された文化である。この創造された文化が内包する再生と選択メカニズムに対する研究は、都市農村の二元構造下にあつて、農村の都市化を合法的に進める上での整合のとれた方法を探求する助けとなる』と指摘した〔周 2019 : 31〕。中国の農村が都市へ転換する過程において、その郷土文化は危機に瀕しがちである。かつて、都市というものは地域の文化の基礎の上に建設されたものであるが、今日では都市は画一化しがちである。しかし、そうであっても、都市ごとの文化的特色は依然として存在している〔周 2019 : 1〕

中国各地における宗族村落ごとに、歴史概況、地元政府の政策、地理状況などの影響で、宗族の変化は異なっている。そのため、各地域の諸要素は、どのように宗族集団の変遷に影響を与えるのかについて研究することは意義がある。鳳凰村（カルプ 1925）、南景村（C.K. ヤン 1959）などの代表的な村落研究は、今日の中国村落の研究にも大きな影響を与えているのは事実だが、近年の東南中国の宗族村落を取り巻く社会環境の変化を考慮すると、従来の研究成果はあまり参考にはならない。宗族成員がいかんして「よそ者」と認められる人々とともに生活しているのか、宗族文化が都市化が進む地域においてどのような役割を果たしているのかという側面から珠江デルタにおける宗族村落の変遷を考察することは新しいアプローチである。

本研究の意義は、宗族文化が現代化、都市化を推進する中国において、なお持続している宗族文化がどのような役割を果たしているのか、なぜ宗族文化が持続できるのかを論じ、都市化と宗族との関係に関する知見を豊かにすることにある。

二 研究目的

本研究では、宗族復元、宗族復興の動きが顕著で、今でも宗族の規範が生きている珠江デルタの仏山市南海区において、都市化が進む宗族村落から構成される行政村 A に対して考察を行っている。80 年代以降の、特に 21 世紀に入ってからの変化（宗族の集団経済組織化、都市・農村の一体化政策、ローカルな地域文化を中華文化の一部として発揚させる動き）を背景に、21 世紀における宗族の再構築と新たな機能を明らかにすることが本研究の目的である。

具体的には、宗族文化としての龍船競漕を主たる事例として取り上げ、①宗族の集団の経済組織化とともに、宗族文化としての龍船競漕が、宗族成員の結束を高めたり、ア

イデンティティを強化させたりすることを明らかにする、②都市・農村の一体化政策により、宗族村落に外来移住者や都市民が流入し、コミュニティの多様化が起きている。地元政府はこうしたイベントを通して、多元化コミュニティの統合に寄与することを期待しているが、この行事に関わる宗族側と地元政府側双方の思惑やズレを明らかにする。③地元政府は龍船競漕文化を愛国教育、社会主義教育や現地の都市化、郷村振興計画の任務達成につなげようとしているが、ローカルな文化をめぐる宗族側と地元政府側の協力関係や競合関係を明らかにする。その上で、再構築される宗族、宗族文化の各方面の新たな機能を明らかにしたい。

第二章 研究背景と調査地の概要

一 宗族を取り巻く 80 年代以降の社会的背景の変化

1 経済的側面の変化——生産責任制と土地の使用権の登場

建国前、農村地域で宗族内部のハイラーキーの高い地位にいる有力者（地主階層とも呼ばれる）が数多くの土地を所有し、ハイラーキーの低い地位にいる宗族成員に貸すことはよく見られた。この土地制度は、封建制度を背景として、封建地主階層による寡占状態の制度（中国語：封建地主階層土地所有制）と定義される。

1950 年、「中華人民共和国土地改革法」が公布された。内容としては、地主階層を打倒して土地を全部平等に農民に配り、封建半封建の土地私有制から農家を単位とする個人土地所有制へと変更させるという政策である。1953 年以降、社会主義の改造を背景として、農業合作化運動や人民公社運動が行われた。土地所有制は、農家を単位とする個人所有制から、農業生産合作社を単位とする集団所有制¹²、そして、人民公社を単位とする集団所有制へと変更された。1978 年の改革開放以降は、土地集団所有制はそのままにして、所有権と経営権を分離する生産請負権¹³が認められた。一方、都市・農村二元構造下の土地所有権という方面からみると、都市部の土地は国家所有で、農村部の土地は集団所有である [趙 2013 : 86]。要するに、建国以来、土地政策が何回も変更されたが、その軸は、土地所有権が私有制から公有制に変わったということである（表 1 参照）。

表 1 中華人民共和国の土地制度の変遷

各段階	事件	土地の所有権	
-----	----	--------	--

¹²中国の農村では、生産手段の社会主義公有制を前提とした集団所有制がとられており、農民個人（あるいは家庭）は土地を所有することができず、理論上は農村のすべての土地は集団所有となっている。この「集団」に関する規定は曖昧であるが、一般的に郷鎮（人民公社期の人民公社に相当）、最末端の行政単位である行政村（同じく生産大隊）、行政村の補助組織である村民小組（同じく生産隊）を指す。地域によっては一つの行政村の管轄下にいくつかの自然村（自然に形成される集落）がある [賈 2018 : 89]。

¹³ 1978 年の改革開放により土地の請負経営権が農民に与えられた。農地の土地は集団所有地ではあるが、自分が請け負った土地に関する収益は農民個人のものであるとして認められ、請け負った生産量以上の収穫物は農民自らが処分できるようになった [岡本 2018]。

建国前		封建地主階層による寡占状態	私有制
建国後	土地改革	農家を単位とする個人所有制	公有制
	農業合作化運動	農業生産合作社を単位とする集団所有制	
	人民公社運動	人民公社を単位とする集団所有制	
	改革開放	土地の集団所有制 *所有権と経営権を分離する生産請負権 都市部の土地は国家所有、農村部の土地は集団所有。集団に属する個人は土地の使用権が与えられた ¹⁴	

表2 現段階における中国の土地制度

都市部の土地	国家所有制	都市部の土地が国家所有制、農村部の土地が集団所有制、農村土地を都市土地に転換させるためにまず各都市政府の買収/国有化を経なければならぬ [羅 2019 : 62]
農村部の土地 (三つの種類 : 農業用地、集団の建設用地、住宅用地)	集団所有制	

フリードマンによると、宗族集団は農業生産に基づいて発展してきた。すなわち、宗族集団にとって重要な要素は、土地と財産であり、つまり族田と族産である。「族田は宗族集団を維持する経済的ベースとして機能を果たしている。族田が存在するなら、宗族は持続していける」と麻が述べている [麻 1999 : 84]。一方、土地の所有権は、宗族集団の集まり住む慣習にも関わっている。開基祖から開墾した土地が子々孫々によって受け継がれていく。彼らは時代ごとに異なる手段で土地を利用しながら財産を築く。宗族成員は祖先から受け継いだ土地に定住する権利を有し、その土地を使用する権利がある。それに対し、外来移住者は、常に仮住まいという身分で宗族村落に暮らしている [楊 2021 : 35]。

族産であった土地の所有権がなくなったことにより、多くの研究者は、農業の集団化以降の宗族集団はそれ以前の宗族集団とは異なったものとなったと指摘した。ジェームズ・ワトソンは、宗族の維持にとり、祖先祭祀などの伝統的な活動と比べ、宗族成員が族産から享受できる経済的、社会的利点が重要な要素だと指摘した [ワトソン 1995 : 219]。従って、宗族集団は相変わらず土地に対して高い依存度を持っている集団であり、宗族の変遷を考察する時には土地政策の変更を見落としてはいけないのである。

建国後、封建勢力の一部と目された宗族集団の地主階層は打倒され、宗族文化も崩壊の局面に陥ってしまった。農業合作化運動や人民公社化運動の影響で、宗族成員の身分は公社成員へ変更させられた。一方、1960年代の文化大革命期において、宗族文化は儒教思想の象徴と目され、数多くの祠堂が解体され、祖先の位牌と墓が破壊された。改革

¹⁴都市部の土地は、国家所有に属する。農村及び都市郊外区域の土地は、法律により国家所有に属すると定めるものを除いて、集団所有に属する。

出典：『中華人民共和國憲法』第10条。

開放までに、宗族成員というアイデンティティは消えてしまったと言われた。1980年代には改革開放政策が採られ、中国の土地制度は再び重大な転換点を迎えた。土地の所有権の主体は、全体の人民の意志と利益を代表する国家だと決められたが、土地の使用権が個々の農家に認められるようになった〔符 2006：102〕。土地の使用権、運営権の制限が緩められるにつれて、宗族集団の経済的機能が復活してきた。具体的にいうと、改革開放の実施によって、珠江デルタの多くの村落は、農業生産をやめ、土地を集め、村民委員会（村役場）が統一的に開発利用するようになった。農民は、土地の再開発利用から得た利益を配当として受け取るようになった。こういう方式は、「新しい集団化」、あるいは「農村株式合作制」と呼ばれる。利益配当は、村民に村落共同体としての一体感を持たせ、「自分の村」と「他の村」との境界を明らかにするようになっている〔周 2019：3〕。

ところで、21世紀に入り、政府は農村の土地を収用して国有化し（表2参照）、その土地を開発業者に任せるという手法で都市化を急速に進めてきたが、その過程で強引な土地収用や強制的な立ち退きが問題になっており、一時的に中央政府、地元政府と農村、農民との関係が陰悪になっている。

2 政治的側面の変化——都市・農村の一体化

多くの学者は、都市化がもたらす核家族化や分散居住が、宗族集団の集まり住む習慣を壊しており、都市化が宗族集団を瓦解させていると考えている。

改革開放を境にして、現代中国の社会構造は変動した。改革開放以前は、中国の社会構造は縦構造と横構造という二つの構造に分けられていた。縦構造とは、「単位」制度を中心として、社会が「国家—単位—個人」から構成されるという意味である（単位とは所属、勤務する機関や国営企業のこと）。横構造とは、「都市・農村二元構造」ということを指す。すなわち、建国後、中国本土は都市と農村に分けられ、中国人は「都市戸籍」と「農村戸籍」のいずれかに属している〔田中 2006：26〕。すなわち、戸籍は居住地に一致しなければならない。都市と農村には、役所としてそれぞれ「居民委員会」と「村民委員会」が設置された。「農村戸籍」を持つ人は、公務、大学に進学するなどの場合を除いて、都市へ移住することは許可されなかった。しかし、「都市戸籍」を持つ人は、農村へ移住することは制限されていなかった〔田中 2011：75〕。戸籍制度は、社会的排除の根源であると劉が見なしている。個人流動、資源分配、社会的地位の取得は戸籍制度による制限された〔劉 2018：12〕。

1980年代から、都市化率を高め、地域間における労働力の移動を促し、農村から都市へ移住する制限を弱めるため、中央政府は戸籍制度改革を執行した。すなわち、「都市戸籍」と「農村戸籍」を最終的には統一し、城郷二元構造（都市農村の二元構造）を次第に改造していくというものである。改革開放以降、農村部では市場メカニズムを部分的に導入し、農業生産をやめ、第二次・第三次産業に従事する農民が多くなり、地域間における労働力の流動がブームになった。労働力の流入、都市化の進展につれて、都市用地が足りなくなり、政府は農村用地を収用するしかなかった。しかし、政府は、土地を収用された

農民の生活と就職を確保することができなかった。それで、政府は農民の生活現状を保つため、農地を収用した農民の住宅用地や旧農地は集団所有のままにし、農民の戸籍も「農村戸籍」のままにした。このような都市に組み入れられた農村を特別な地域とした。最初、こういう農村は、「都市中の農村」と呼ばれていた。2000年代以降、「城中村」というオフィシャルな呼び方が使われ出した〔刘、傅 2010：177〕。

「城中村」には、農村戸籍と都市戸籍を所有する人々が居住している。都市と農村との境界にある「城中村」は、「都市性」と「村落性」という二つの性質があると考えられる。国内外の研究者は、「城中村」について様々な研究を行った。傅は、制度から城中村の概念を説明した。ある農村では、農地が政府に収用され、そこに暮らす農民は農業生産をやめた。彼らは、「都市戸籍」へ転換することが許された。しかし、こういう農村には、農村管理制度が依然として適用されている〔傅 2006：43〕。小野寺は、都市化が進む中で島のように取り残された村落が城中村だと指摘している。そして、城中村の元からの住民たちは、より多くの部屋を外来移住者に貸すために、自分がコントロールできる範囲で家屋に増改築工事を行っている〔小野寺 2018：71〕。城中村には五つの特徴がある。一つ目は、混沌たる景観的特徴である。次に、家屋を貸し出すことで収益を得るという経済的特徴、三つ目は農村管理制度という制度的特徴である。四つ目は、低所得者層の外来移住者により豊かな元からの住民からなる人口構成上の特徴である。最後は、城郷二元文化という文化的特徴である〔刘、傅 2010：179〕。しかし、城中村は都市と農村との間のバッファプールであるから、単にネガティブな視点から考察することはできない。

2013年の全国人民代表大会において、「国家新型都市化計画（2014—2020）」が公表された。岡本によると、「国家新型都市化計画」とは、人口移動と土地の転換を通じて、都市・農村という二元構造を超えて一体化していくことだと指摘している〔岡本 2018〕。

「新型都市化」の要点は、農民を都市人口に転換させること、つまり、「人口の都市化」と「農民の市民化」であると賈は指摘した〔賈、岡本 2018：84-85〕。また、農民身分の転換、城中村の管理問題を解決し、都市開発による土地の需要に追いつくために、政府は、「農転非」、「村改居」政策（以下の内容で「村改居」と総称する）を実施しはじめた。具体的にいうと、2/3以上の村民が農業生産をやめたという条件を満たす農村に対して、「村改居」と呼ばれる農村戸籍から居民戸籍（非農村戸籍）へ変更することである。そして、そういう村落に居住する移住してきた出稼ぎ労働者と元からの住民をともに管理しやすくなるため、地元政府（役場）を村民委員会から居民委員会へ変更した。

「村改居」政策は、「徹底的な都市化」を完成させるための政策である〔周 2015：25〕。都市化率が高いところは、より多い労働力の流入を引き付けることができる。そのため、各地の地元政府は、労働力を奪うため、都市周辺の城中村、農村を収用して都市建設を続けている。そして、都市化の進展は、地方政府の業績として評価されるのである。現在、広東省の各地でも「村改居」と呼ばれる政策が継続して推進されており、2005年、広東省では280万の農民の土地が収用された。また、2021年上半期だけでも、仏山市で16か所の村が改造された。仏山市では、都市化改造は激しい勢いで進行している。

空間的都市化、制度的都市化の推進につれて、人々の意識や生活様態の都市化も注目されるようになった。実際に、人の都市化に関して、都市に生活している人々の社会統合問題も重要であると考えている。例えば、李は、広州市における農転非団体の現状を「半統合¹⁵⁾」、外来移住者団体の現状を「不統合」と呼ぶ[李 2013]。各種属性や階層の人々を統合することは、都市・農村の一体化にとっては解決しなければならない難問である。

3 文化的側面の変化——伝統文化の復興計画、地域文化の保護と開発

1970年代末から1980年代初期まで、珠江デルタの海外移住者たちは、改革開放政策の実施を機に故郷に戻って、地元政府と交渉した後、故郷の宗族文化の再生、例えば、祠堂、祖先の墓の再建、族譜の再編、祖先祭祀の再開などの活動に力を入れた。80年代から2000年代までの間、宗族復元の担い手は海外在住者と香港在住者であった。こういう段階は、川口らによって「宗族復元」と呼ばれている。2000年を過ぎると、国家レベルで「伝統的な文化」の称揚が進められる中、宗族も肯定的に評価されるようになった。この段階は「宗族復興」と呼ばれている。「宗族復元」と「宗族復興」との重要な相違点は、担い手の違いである。宗族復興の担い手は香港在住者から国内の成功者や地元政府へと変わった[川口 2013: 275]。一方、宗族文化は国内の成功者、地元政府により再解釈されながら、新しい意味が付けられてきた。その例の一つは、珠江デルタの「珠璣巷伝承」の発祥地、珠璣巷公園である。

2017年1月25日に、中華人民共和国国務院弁公室により「中華民族の優れた伝統文化を継承・発展させるプロジェクトを実施することに関する指示(以下には「指示」と呼ぶ)」が發布された¹⁶⁾。中央政府は、2025年までに、中華民族の優れた伝統文化の継承と発展のためのシステムを基本的に形成させることを求めている。研究、教育の普及、保護と継承、革新と開発、コミュニケーションなどの方面を促進し重要な成果を収めることを求めているのである。中国の特色、中国のスタイル、中国の気品を含む文化産品を豊富にすること、国民の中華文化に対する自覚と自信を強化すること、文化面におけるソフトパワーの土台をより一層固め、中華文化の国際的な影響力を強化することを2025年までに成し遂げることを目指している。これは、建国後初めて中央政府が主導し、地方政府が執行する中華民族の伝統文化の復興活動である。「指示」には、全面的に中華の伝統文化を復興させるという重要なタスクが謳われている。それは、まず伝統文化の精髓を深く明らかにしていくことである。地方史、歴史文物のカタログ、典籍などを細かく編纂することで、中華民族の文明史を正しく叙述し、開放的な中華文化資源のデータベースを作る。次に、伝統文

¹⁵⁾「農転非」者は、すでに都市戸籍を取得しているが、仕事(25%は失業、頻繁に転職)、社会保障、所得、社会交流、都市社会への心理的統合、アイデンティティなどすべての側面において、従来の都市戸籍者と比べて劣っている[羅 2019: 62]。

¹⁶⁾出典：中共中央办公厅 国务院办公厅印发《关于实施中华优秀传统文化传承发展工程的意见》(中華民族の優れた伝統文化を継承・発展させるプロジェクトを実施することに関する指示)

<http://www.xinhuanet.com/politics/2017-01/25/c_1120383155.htm> (参照：2021-11-28)

化遺産を保護することである。消失する危機に瀕している文物、都市化されつつある地区の文物を保護する。また、歴史的な住居、建物、革命文化に関わる記念地等の物質遺産を保護することである。少数民族は中華民族の一部であるから、少数民族の伝統文化を保護することも指示に書かれてある。重要なのは、少数民族の伝統的な文書と漢族の伝統的な文書に関する翻訳、出版等の作業を促進することである。最後に、中国と海外との文化的な交流を促進することである。外国との文化的な交流と協力を強化したり、交流の方法を革新したり、交流の内容を充実させたり、交流の水準を高めたりすることである。どんな文化が伝統文化として認められるかは判断しにくい、地方政府は、以前なら封建文化や無用な文化とされたものを再解釈することで「指示」を執行することが少なくないだろうとみられる。

地元をベースに共有できるアイデンティティを構築するというやり方は従来から存在していた。伝統文化の重要な特徴は、その地域性だと考えられる。地域共同体は伝統社会の基本的な構成要素である〔費 1998〕。しかし、都市化の進展、人口流動の増加、流動範囲の拡大により、地元のつながり、地元に対する心遣いが薄められた。そのことによって、共同体の解体、コミュニティの衰退やアイデンティティ危機をもたらした。この危機を解決するために、アイデンティティの再構築が必要となった。一方、地域住民に認められるものこそが、住民のアイデンティティの再構築にはもっとも重要な要素だと考えられる〔包 2004：4〕。宗族文化、宗族成員が参加する伝統活動は、当地の人々の帰属意識を引き起こす重要なものである。その上で、外来移住者が納得でき、中央政府の政治的要求に矛盾しない範囲で宗族文化、伝統活動を再構築した地域文化は、周が指摘したように、当該地域に生活している人々の心を一つにすることができるのではないだろうか。これこそが、中央政府そして地元政府が地域の伝統文化を保護、開発し、「中華民族の優れた伝統文化」の一部に位置づけ、文化面から人々を統合しようとする理由なのではないだろうか。

二 調査地の概要と調査方法

1 調査地の概要

従来、多くの宗族研究は、東南中国の村落を中心に行われた。中国大陸における宗族の再生現象に伴い、華北、東北、少数民族の宗族村落研究も多くなってきた。ただし、東南中国に位置する宗族集団は強い団体的な性格を持っているという認識は多くの研究者に認められている。賀は中国の村落分類について、「村落構造からみると、中国の農村は、南部、中部と北部から構成されるといえる。その中で、南部には結束型（宗族村落）の村落が多く、北部には分裂型村落¹⁷が多く、中部には原子化村落¹⁸が多い」という見方をして

¹⁷一つの自然村落には、いくつかの競い合っている小規模の親族集団が存在する村落を分裂型村落と呼ぶ〔賀 2012：108〕

¹⁸丸山真男がまとめていたように、共同体から解放された個々人が「社会的な根無し草」状態の中でそれぞれ互いに切り離された「原子」となり、不安や孤独など心理的に不安定な状態に陥ることを指している〔澤井 2011：228〕。村落内部には、村民のつながり、集団で行動する人たちあるいは機構が

いる [賀 2012 : 108] (表 3 参照)。

表 3 中国各地域における農村村落の構造¹⁹

	居住形態	血縁関係	村落構造	宗族の規範、地元のこだわり
華南地域 (南部)	集中居住	大きな宗族集団	結束型	強い
長江流域 (中部)	分散居住	小さな同族集団	分散型	弱い
華北地域 (北部)	集中居住	小さな親族集団	分裂型	強い

強い団体性という性格の形成に影響を与えた要素は、主に東南中国の稲作経済や中国の辺境という地理状況等であると考えられている。近年、自然経済（稲作経済）が商品経済に取って替われ、従来野蛮な地域と見なされた中国の辺境に位置する珠江デルタ地域は、いま中国の経済中心の一つとなった。伝統と現代、農村と都市、農業と商業というような二項対立的な考えで珠江デルタの宗族村落を捉えることは妥当ではない。例えば、伝統的な宗族文化は現在の珠江デルタにおける農村、城中村、都市でも見られ、機能を果たしている。宗族成員は、現在農業だけでなく、商業なども営んでいる。すなわち、宗族村落の人々はもっと多様で多角的な環境のなかで生きているといえる。

1.1 珠江デルタの都市化と移民問題

北京、上海、広州、深圳は、中国における四つの最も影響力がある都市であり、「一線都市—北上広深」と呼ばれている。日本社会の「上京」のように、中国の若者は「北上広深」で働いたり、生活したりすることに憧れる。そのため、「北上広深」は、中国における人口の増加が最も多い地域であり、移民問題が最も深刻な地域だと言える。ただし、北京と上海では、徹底的に宗族のような封建文化が打倒されたから、いまこの二つの都市とも宗族文化が希薄である。珠江デルタ地域は、中国珠江河口に位置する中国南部最大の沖積平野であり、広州、深圳、仏山、東莞等の主な都市から構成される地域である。2021 年の中国の国勢調査によると、広東省で都市に居住する人口比率は 74.15% に達しており、都市化率が高いことが分かる。その中で、広州市の総人口は 1861 万人、仏山市の総人口は 950 万人である。2020 年まで、深圳市の都市化率は 100% に達し、広州市、仏山市などの都市化率は 95% に達したと報告されている²⁰。

ない。個々の村民は独立的、原子的、分散的である [賀 2012 : 108]。

¹⁹表 3 は「中国各地域における農村村落の構造」[賀 2009 : 114] をもとに筆者作成

²⁰2019 年仏山市の常住人口は 25.29 万人増え、城鎮化は 95%。そのうち、城鎮人口は 77.06 万人、常駐人口の 95% を占め、農村人口は 40.80 万人、常駐人口の 5% を占める。

出典：佛山常住人口近 950 万 十年増加 230 多万人（2019 年仏山市の常住人口）

<<https://new.qq.com/omn/20210517/20210517A01HXR00.html>>（参照：2021-09-19）

1.2 珠江デルタの宗族文化と家族文化

広州と深圳は、ともに珠江デルタに位置する。ただし、深圳は、中国のテクノロジーのパイオニア都市として、都市の発展計画には、伝統的な文化は相対的に重んじられていない。それに対して、広州および隣の仏山市は、「広府文化」の発祥地だと考えられている。広州市、仏山市において、伝統的な文化とビジネス、テクノロジーなどのような現代的なこととの間には、バランスがよくとれている。要するに、珠江デルタにおける広州市、仏山市は、外来移住者の大量流入と伝統的な文化、特に宗族文化が同時に見られる都市だと言える。仏山市を調査地として研究を行ったフォールは、「広州市に比べ、仏山市はほとんど中央政府のコントロールがきかなかったと言える（明清時代の時）。16世紀頃、実際に仏山市をコントロールしたのは、地元のいくつかの宗族グループのリーダーたちであった」と指摘した。また、仏山市は、16世紀中国における最も早く「資本主義萌芽」が見られた地域の一つであった[科 2010: 8]。要するに、稲作経済を基にしながら、稲作経済だけに拘らずに、土地と財産に依存した仏山市の宗族グループは数百年にわたって、粘り強く社会変遷に適応しながら持続してきた。

この数百年中国の宗族文化の発展からみると、他の地域の宗族文化より、珠江デルタ地域の方が強い連続性を持っている。建国後の社会主義改革のため、宗族文化は一度打撃を受けた。改革開放以降、東南中国の海外移住者は伝統的な宗族文化を故郷にもたらし、宗族文化を復興させた。一方、現代の仏山市に本拠を置く有名企業について言及しなければならない。中国のリッチピープルランキングのトップ20名には、3人が仏山市に居住している。彼/彼女らは、家電業や不動産業や食品業の理事長である²¹。この3人を率いる三つのグループの共通点は、家族グループである。家族グループ、宗族グループ文化は、どんな分野、どんな産業、どんな地域においても、仏山市の人々の生活に重要な位置を占めていると推測できる。そういういくつかの特徴を踏まえて、珠江デルタ仏山市を本研究における調査地とした。

1.3 仏山市南海区——改革のパイオニア

調査対象は、仏山市南海区の城中村である行政村Aに生活している宗族グループである。仏山市南海区は、「土地改革」のパイオニアだと考えられている。改革開放の実施につれて、1990年代以降、南海区政府は「南海区モデル²²」と呼ばれる「農村株式合作制度改革」という特異な土地改革、農村工業の方式を模索した。改革の肝は、資源を配置する権力を農村（地元政府、農村グループとも呼ばれる）に譲り、農村グループ、政府、投資家がそれぞれ最大限の利益をシェアすることである。改革された後の農村村落はグループ経済組織

²¹出典：胡潤百富榜 2020 < <https://www.hurun.net/zh-CN/Rank/HsRankDetails?num=QWDD234E> >（参照：2021-09-19）

²²①土地の種類を機能別に田畑保護区、経済発展区や商業住居区に分け、土地資源を効率的に再利用し、②農村のグループの財産、土地や農民の請負権を株として運用する。株の持ち分、配当など内容を規程化する。この規定を農民は「村の憲法」と呼んでいる[刘 2019]。

とも呼ばれている²³。「農村株式合作制度改革」という土地改革や都市化改革政策は、血縁関係を基に形成される集団意識にも関わっている。王によると、南海区農村を改造させる方針は、私有制ではなく、新しい社会意識、人間関係や組織体系を含んだ「公有制」を基礎とし、共同富裕を目指す新集団主義である。新集団主義の核心とは、汎家族意識²⁴や集団意識に基づいて形成されるコラボレーション意志や集団行動意識である [王 1994、1996]。他の地域と異なり、土地改革、工業発展、都市化が進んでいるため、高い配当金がもらえる南海区の農村は豊かな地域となった。南海区農村村民の土地利用方式は、「田畑を耕作する（中国語：種田）」から「住宅を建てる（中国語：種房）」、「工廠を開設する（中国語：種工廠）」へと変わった。

「農転非」と「村改居」政策は同じ役割を果たす政策である。「農転非」「村改居」政策によって、村民が居民戸籍を有し、村落が社区居民委員会により管理されるようになった。つまり、村民（宗族成員）は宗族成員、村民という身分以外、この政策により居民（非農民とも呼ばれる）という身分を持つようになった。また、村民（宗族成員）は外来移住者と同様に居民委員会に管理され、同じ権利と義務を果たすようになる。2011年、南海区の123個の村落に対する「村改居」政策を実施する上で、区政府はスムーズに進むために、地域の実情に応じて政策を調整した。具体的には、「村改居」政策の対象者である元の農民に対して「六つの権利の保持」という対策を出した²⁵。それで、①元の村民委員会、党組織をそのまま居民委員会、社区党組織へと転換させ、地元政府の管理範囲を保持すること、②地元政府の構成を保持すること、③元の集団経済組織の資産の所属を保持すること、④元の集団経済組織成員が所有する使用権、経営権、配分権、収益権を保持すること、⑤元の村民が所有する農村戸籍の優遇政策を保持すること、⑥計画生育政策の優遇政策（第一子が女の子であれば、もう一人の生育が許される）を保持することである。

21世紀に入ると、南海区の工業発展につれて、無秩序な土地開発が起こったため、土地の有効利用率が低下しつつある。従って、2007年、南海区政府は「三旧（旧城鎮、旧工場、旧農村）改造²⁶」と呼ばれる新たな土地改革を実施した。その目的は、土地資源

²³2004年7月1日以降、仏山市の城郷二元戸籍制度は撤廃され、一元的な戸籍制度が打ち出された。つまり、戸籍制度改革以降、都市戸籍であるか、農村戸籍であるかを明らかにするシンボルがなくなり、一方、農民の身分は曖昧になった。農民の身分は集団経済組織の成員となったが、この身分は農民としての権利や利益を依然として保持することができる。集団経済組織成員ごとには赤い証明書をもち、この赤い証明書は集団経済組織の株を持っている証拠となる [高 2015]。

²⁴汎家族意識：集団、コミュニティ内部の人間関係をつなぐ、血縁関係を超えて拡大した家族意識 [王 1996]。

²⁵ 出典：南海123个村推进“村改居”（南海区の123個の村落に対する「村改居」政策を実施した）
<<http://news.sina.com.cn/o/2011-03-04/031222048967.shtml>>（参照：2021-10-25）

²⁶2008年、産業モデルチェンジ、都市改造や環境のサステナブルの実現、土地使用率、有効率を高めるために、広東省政府は「三旧改造」という特有の都市改造方法を打ち出した。三旧とは、旧城鎮、旧工場、旧農村である。仏山（南海）モデルは、政府主導と土地所有者（集団）の自発改造という二つのパターンから構成されている [刘 2019：270]

出典：三旧改造<<https://baike.baidu.com/item/三旧改造#3>>（参照：2021-09-19）

の利用を効率化することである。もう一つの改革は、「村改居 2.0」と呼ばれる、地元政府の「政経分離」政策である。従来、村落のリーダーは、政治権や経済権とも握っていたから、汚職などのような事件が多かった。南海区の経済発展につれて、政治方面の改革も行われるようになった。筆者は A 村の宗族成員や居民委員会関係者を主な調査対象としたが、実は、聞き取り調査はなかなかうまくいかなかった。調査を行う日に、筆者は宗族成員によって構成された「経済社」の社長に、「宗族に関する資料、例えば人口調査、生産方式、歴史資料等が閲覧できないか」と聞いた。社長は、「我々は資料を持っていない、居民委員会のスタッフに聞いた方がいい」という答えだった。どうも宗族に関する資料も居民委員会に保管されるようになってきているようなのだ。実は、2011 年から南海区農村地域で実施された「政経分離」、つまり、集団経済組織の政治権や経済権を分離する政策が関係しているようである。南海区は全国で初めて「政経分離」政策を実施した地域である。

表 4 南海区の主たる制度改革²⁷

時間	改革内容
1980 年代	農業生産請負制改革
1992 年	農村株式合作制度改革
1993 年	南海区全区、それから仏山市、広東省で農村株式合作制度を実施する
1995 年	「株数の固定化」改革、「新生児に株を与えず、亡くなった人の株を保持する」ことにした
2003 年	集団内部で株の売買、合理的流通を許す
2004 年	仏山市（南海区を含む）すべての「農村戸籍」「非農村戸籍」が「居民戸籍」へと転換される
2007 年から	「三旧改造（土地を効率的に利用する）」
2008 年	法・理・情・利（法律、理性、感情、利益）を基礎として、外に嫁いだ娘及び子どもの合理的な権利を保障する規定が提出される
2011 年	従来の改革を基礎に、農村集団経済組織の市場化を促進する
2011 年頃から	「村改居」政策の実施と改革 （六つの権利の保持）
2011 年頃から	地元政府の「政経分離」改革
2015 年	「確権到戸，戸内共享，社内流転，長久不変（家庭を単位として株数を固定化する。集団経済組織内部での株の売買を認める。（第四章一・1 で詳しく論じる）」、「家庭内部の株の均等化を提唱する」

²⁷出典：「南海农村股份合作制改革大事記」（南海区農村株合作制改革に関する年表）

<http://epaper.fsonline.com.cn/fsrb/html/2018-12/06/content_22029_124198.htm>（参照：2021-10-25）

	改革を推進する
2015 年	南海区集団土地交易センター、集団産権交易センター及び集団経済株額権の管理交易センターの成立
2017 年	農民は集団経済の資産に対する占有権、収益権、有償退出権、継承権、抵当権、担保権が与えられた

南海区の土地改革、集団経済組織の改革から、地元の村民、宗族成員は自集団の土地の権利を最大限に守るために政府と対抗した。地元の村民、宗族集団の強い凝集力は、政府を妥協させ、政策の制定を調整させる力であると考ええる。

1.4 仏山市南海区の社会統合の問題

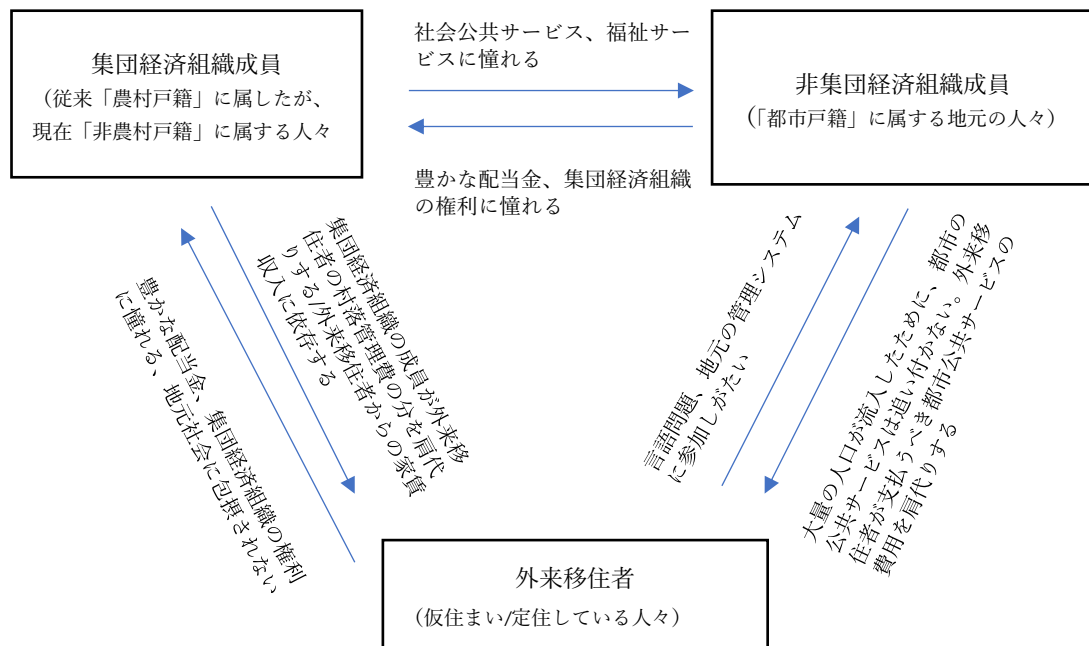
珠江デルタで働いている省内/省外から来る労働者は非常に多い。お正月に、外来移住者の帰郷に伴い、珠江デルタの多く村落、城中村は「空城」になる。道路では普段の渋滞状況は全然なく、多くの商店も営業休止という状態になる。

南海区は三元化コミュニティ²⁸であるとある指摘する学者もいる [鄭 2012、高 2015]。収入や社会福祉面の格差のために、三元化コミュニティ内さまざまな軋轢が日々厳しくなっている。村籍を有する村民について見てみると、彼らは宗族集団の成員であり、集団経済組織の成員でもある。村籍は集団経済組織から配当金がもらえるかどうかの身分証明である。従来の「農村戸籍」の優遇、「六つの権利の保持」と比べ、「居民戸籍」にはメリットが少なく、村民にはアピールできていない。「村改居」政策は、本来は地元政府、市区政府によって村落全体を対象として実施するものであるが、居住地の保持、六つの権利の保持、情報が徹底するまでの遅れなどが原因で、身分転換されたことに気づかなかったり、新たな身分に対する低い認知度しか持っていない農民が多くいる。政府のアンケート調査によると、仏山市において、「村改居」された人々の 20.6%しか新しい身分、つまり居民という身分を心理的に認めていない²⁹。南海区のある村落の集団経済組織は、毎年、管轄地域の行政、衛生管理、学校、道路等の公共施設に 1000 万元以上を負担しないとイケない。しかし、外来移住者の場合は負担金のごくわずかである。例えば、村落の学校に通う生徒の 80%以上は外来移住者の子弟であるが、彼らの親は学費以外には少額の賛助費を負担するだけである。このように負担が過度に村民にかかっていることや、生活習慣の違いや外来移住者に対する管理不足などが原因で、多くの村民は都市へ移住した。ただし、彼らは依然として村籍、つまり集団経済組織成員という身分を保持している (図 1 参照)。

²⁸鄭によって三元化コミュニティと呼ばれている南海区において、農村の都市化により、城中村にも元の都市民も住むようになってきているが、その数はまだごく僅かであることや、調査ではこの点についてはまだ十分には把握できていない。そのため、本論文の分析の重点は元の農民である宗族成員と外来移住者との関係に焦点を当てて論じる。

²⁹出典：广东省政协聚焦珠三角村改居“最后一公里”问题（珠江デルタにおける「村改居」の問題と解決）<http://cppcc.china.com.cn/2020-12/29/content_77061905.htm>（参照：2021-09-25）

図1 三元化コミュニティの概念をもとに筆者作成³⁰



一方、都市民（従来から都市戸籍を有する人々）は、集団経済組織の豊かな配当金に憧れ、戸籍を農村へ転入しようとする者も多くいる。多くの珠江デルタで働いている外来移住者は家賃が安い城中村で仮住まい、定住している。しかし、彼らは結束力が高い宗族村落にはなかなか包摂されないと感じている。また、彼らは定住する村落の集団経済組織に加入することもできない。つまり、労働力として珠江デルタの経済発展、都市化進展に貢献したが、同等の社会的地位は得ていないと多くの外来移住者が感じている。

もちろん、南海区の社会には、三元だけでなく、各集団の中はさらに細分化されている。例えば、宗族内の娘さんは、結婚すると元の集団経済組織のメンバーシップを解除しなければならない。それで、多くの「外嫁女（中国語：外に嫁いだ娘）」は、集団経済組織に戻りたいと訴えた。しかし、大量の「外嫁女」が集団経済組織の身分を回復すれば、他の村民一人当たりの配当は減っていく。そのため、村民と「外嫁女」との間にも軋轢が生まれることになる。多くの村民は、村落における外来移住者の増加につれて、衛生状況、治安状況の悪化を原因として村落から転出していった。ただし、工場などの労働力である外来移住者がいなければ、村民の収入は激減していくことも事実である。それで、村民と外来移住者との関係は、互いに見くびりながらも相手に依存するという状況である。各集団の要望に応えるために、政府は続けて集団経済組織の改革政策を打ち出した。（南海区政府の集団経済組織の改革政策は本論文の第四章で論じる）。

宗族文化は、伝統文化の一部として、農村の文化と定義される傾向にある。そのため、宗族文化が「人の都市化」の実現と矛盾していると考えている人も多くいる。都市

³⁰出典：舒泰峰，尹冀鲲，黎诚（2014）『村治之变——中国基层治理南海启示』

化の推進は、村落文化から都市文化へと変遷していく過程だと考えられている。都市文化には、宗族文化のような村落文化が存在できないという考えもあるが、筆者はこの考えには同意できない。宗族文化は、宗教や民俗とともに漢族文化の一部をなすものである。宗族文化は数百年にわたって社会変遷に適応しながら変化してきている。現代社会においても、宗族文化は適応しながら存続し、むしろ現代化社会の建設にも機能を果たしていると考えている。本論文は、まさに宗族文化が三元化コミュニティの統合において、どのような機能を果たし得るのか、いかなる役割を期待されるのかを考察対象としている。

2 調査方法

筆者は、2021 年に十回ぐらい、珠江デルタ仏山市南海区の、複数の宗族集落から構成される行政村 A の宗族村落で短期的な調査を行った。宗族村落を考察した際に、宗族村落に居住する宗族成員、外来移住者、村落を管理する村民委員会の職員にインタビューし、族譜・宗族集団の移住史、祠堂の数量、人口のデータなどを集め、宗族集団内の物語、伝承や宗族成員同士の雑談も記録した。文献調査と現地調査以外、コロナ感染の流行のために、長期間の現地調査は難航した。それで、筆者はインターネットで情報収集を行った。例えば、政府がインターネットで公表した政策、ニュース記事、インターネットのフォーラム、WeChat と呼ばれる中国の主要な SNS アプリ上の情報を活用した。

第三章 都市化が進む珠江デルタにおける宗族文化

一 A 村の宗族村落の現状

1 A 村の宗族村落の概況

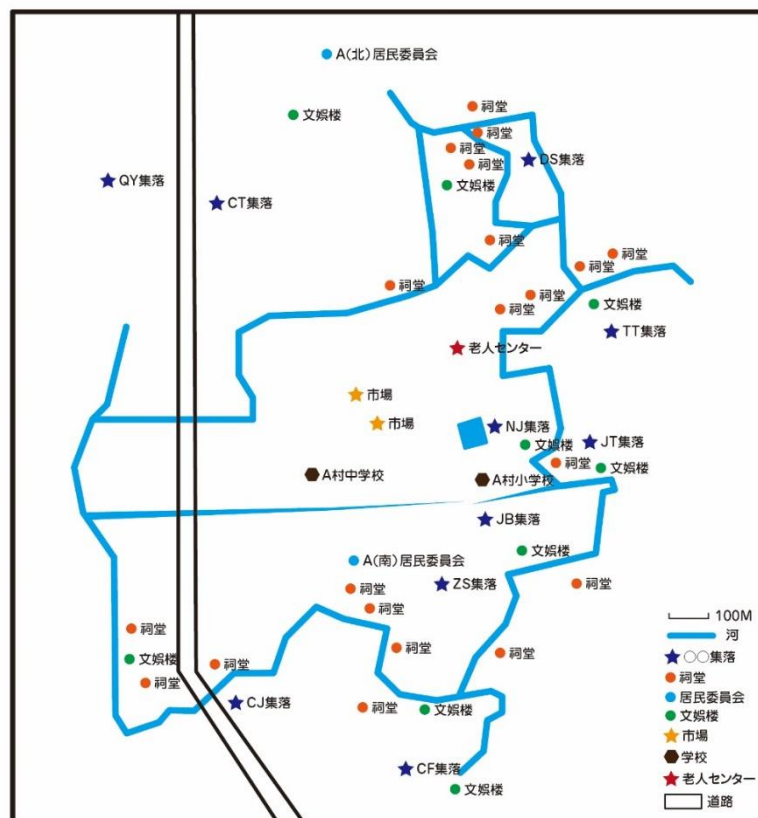
宗族村落の調査対象である行政村 A は、珠江デルタ地域の北部、仏山市南海区の中央部に位置し、行政上は仏山市南海区の一社区（コミュニティ）である。北宋時代の 1101 年頃、A 村の開基祖が現在の所在地で開墾を始めた。幅 5 メートル、長さ 1200 メートルほどの河が村の中を流れているが、この河は A 村の村民の「生命の源」となっている。開基祖は許氏と温氏の祖先であった。明朝に至るまで、A 村に移住してきた開基祖、あるいは、宗族集団が 28 個ある。現在、28 の宗族集団、約 7000 人の宗族成員が 24 の集落³¹に居住している。宗族村落には「単姓村」と「雑姓村」という二つの種類がある。一つの宗族がそのまま一つの集落を形成しているような場合を単一宗族村落、中国語で「単姓村」と呼ばれる。複数の姓の住民を含む「雑姓村」においては、同姓の者たちは村の一角に集まって住み、祠堂や祖先祭祀のための共有地、いわゆる「族田」などを有して、小型の宗族としての体裁を整えている場合がある〔瀬川 2004 : 124〕。多くの宗族集団から構成される A 村であるが、集落単位でみると、単姓村もあれば、雑姓村もある（表 5、図 2 参照）。なお、『A 村志』によると、現在、集団を形成するに至らない小規模な家族も含めると、128 の姓氏の人々が A 村に定住している〔孔 2006〕。

³¹これらの村落も「~村」と呼ばれているが、本論では、便宜上「集落」「宗族集団」「〇〇集落」と呼び、行政村の A 村と区別しやすいようにした。

表 5 A 村の宗族集落³²

集落	宗族姓氏	集落	宗族姓氏	集落	宗族姓氏
ST 集落	孔、盧、劉、何、陸、陳	CF 集落	孔、盧、劉、何、陸、陳	QY 集落	孔、許、楊、羅、黃、彭、溫
MC 集落	楊、冼	SL 集落	麥	CJ 集落	何
GC 集落	黃	QT 集落	黃	ZS 集落	孔、張
TX 集落	譚	CT 集落	龐	YLL 集落	孔、高
CB 集落	孔	JT 集落	江	JB 集落	李、黃
HC 集落	孔	CP 集落	孔	DJ 集落	陳
YB 集落	孔	LB 集落	盧	AB 集落	顧、黃
DS 集落	孔、麥、李、何、羅、梁、黎、潘	DN 集落	陳、招、譚	TT 集落	孔、麥、李、陳、姚、黃、梁

図 2 行政村 A の地図³³



³²出典：孔樹（2006）『A 村志』A 村郷志編纂領導組、p1.

³³図 2 の製作：筆者

歴史上、A 村の各宗族村落に属する合計 38 人が科挙試験で進士と挙人に合格し、功名を挙げている（例として表 6 に孔氏一族の歴代の進士、挙人リストを挙げる）。

表 6 A 村孔氏宗族集団の歴代の進士、挙人リスト³⁴

孔思儒	ZS 集落	元朝	進士	孔毓介	ZS 集落	清朝	挙人
孔克慧	ZS 集落	元朝	進士	孔 榮	ZS 集落	清朝	挙人
孔貞玘	ZS 集落	明朝	進士	孔广田	ZS 集落	清朝	挙人
孔兴琰	YLL 集落	清朝	進士	孔仁台	ZS 集落	清朝	挙人
孔传大	ZS 集落	清朝	進士	孔石香	ZS 集落	清朝	挙人
孔昭京	DS 集落	清朝	進士	孔弘蚕	DS 集落	清朝	挙人
孔美发	ZS 集落	清朝	挙人	孔昭保	DS 集落	清朝	挙人
孔兴梧	ZS 集落	清朝	挙人				

孔氏は、A 村に定住している大規模な宗族集団の一つである。『A 村志』によると、

孔子の第 48 世代の子孫（南宋）、孔瑜は A 村に定住し始めた。

孔子の第 51 世代の子孫（南宋）、孔元演、孔元派は A 村 ZS 集落、YLL 集落に移住してきた。

孔子の第 63 世代の子孫（明朝）、孔貞瓘は A 村 ST 集落に移住してきた。

孔子の第 65 世代の子孫、孔衍敬は A 村の DS 集落の所在地に移住してきた。

——A 村の孔氏宗族の系譜³⁵

このことから、孔氏宗族は A 村に波状的に移住していることが分かるが、A 村で生活している大部分の同姓の宗族集落は一つの宗族の分節集団であることが多い。

A 村における多くの祠堂は、有名な祖先を祭祀する場所として仏山市の歴史文化遺産リストに登録されている（表 7 参照）。

表 7 A 村村落における代表的な祠堂³⁶

JT 集落の江氏宗祠	清朝康熙年間に建てられ、乾隆年間、1991 年に再建、補修された。	仏山市文物保護単位 ³⁷
JT 集落の遁叟江公祠	清朝嘉慶年間に建てられ、1995 年に再建、補修された。	仏山市文物保護単位

³⁴ 出典：南海宗亲情意浓——参观叠滘罗格孔家村及拜谒孔氏宗祠印象（A 村の孔氏宗族に対する印象）
<<http://www.kongjia.org/web/gdyw/20210326/1691.html>>（参照：2021-10-23）

³⁵ 出典：南海宗亲情意浓——参观叠滘罗格孔家村及拜谒孔氏宗祠印象（A 村の孔氏宗族に対する印象）
<<http://www.kongjia.org/web/gdyw/20210326/1691.html>>（参照：2021-10-23）

³⁶ 出典：孔樹（2006）『A 村志』A 村乡志编纂领导组

³⁷ 文物保護単位：建築物など人工物に関する文化財

DS 集落の麦氏大宗祠	清朝に建てられ、1999 年に再建された。
DS 集落の信存何公祠	清朝道光年間に建てられ、1927 年、1996 年に再建、補修された。
TT 集落の李氏大宗祠	建てられた時期は不詳で、清朝咸豊年間に再建、補修された。
TT 集落の桓庚李公祠	清朝乾隆年間に建てられ、民国、2000 年以降再建、補修された。
CJ 集落の何氏宗祠	清朝初期に建てられ、清朝同治年間、1998 年に再建、補修された。
CF 集落の劉氏宗祠	清朝に建てられ、1914 年、1993 年に再建、補修された。
CF 集落の文昇劉公祠	清朝に建てられ、1905 年、2001 年に再建、補修された。
CJ 集落の成庄何公祠	清朝光緒年間に建てられた。

A 村内の異なる宗族集団の間には通婚関係が多かった。数百年にわたって各宗族集落は姻戚関係で繋がっていると言える。現在 A 村の各宗族間の違いはほとんどわからない。対外的に、A 村を一つのまとまりと見なす傾向にある。ところが、龍船競漕や利益をめぐる紛争の時には、各宗族集落間の違いが強調されるようになる。

2 都市化が進む A 村の宗族村落

A 村は、数年前に「村改居」政策が執行された。A 村に移住してくる外来移住者が多くなっているが、A 村から都市へ移住していく村民も少なくない。ただし、A 村の多くの宗族成員、特に年配の宗族成員は、依然として城中村に定住している。彼らは農業生産をやめて、家賃収入を主な収入源としている。宗族成員は、家屋の下層階を外来移住者に貸し、自分たちは上層階に住んでいる。城中村の家賃は安く、出稼ぎ労働者にはうってつけの居住地となっている。外来移住者は、中国各地から来ており、異なる職種・学歴・生活習慣・宗教信仰を持っている。こうして、城中村に居住する宗族成員は、都市部の人々や外来移住者にとって「他者」となる〔儲 2012 : 73〕。拡張された違法建築物と流入人口が多くなるにつれて城中村の衛生状況・居住環境・治安管理は悪化しがちである。宗族成員は、宗族村落が城中村になる前は、仲良く宗族同士で暮らしており互いの距離感は今よりずっと近かった。しかし、現在は宗族成員人口の数十倍の外来移住者が到来したために、元来の居住空間と交際空間は分割されてしまった。従来、宗族成員は自分が宗族成員と村民であるというアイデンティティを持っていた。現在は、宗族成員としてのアイデンティティが弱まっている。なお、城中村が発展するにつれ、宗族成員と外来移住者の関係には言語、環境、治安などの問題に関する摩擦、軋轢が生じるようになっている。そのために、地元政府は、村民と移住して来た外来移住者は同じ住民であるとし、共同体意識や社会統合を強調するようになっている。宗族文化の変容について考察する際、宗族村落に暮らす外来移住者のアイデンティティ、宗族成員との人間関係を見落とすことはできない。

改革開放以来、南海区、A 村に暮らす外来移住者は急速に増加し、総人口の半分以上

を占めている。南海区の人口調査、A村の総人口調査とA村における二つの大規模な宗族村落の人口調査に基づくデータを次の表8、表9、表10で示しておく。

表8 南海区、仏山市の総人口調査（2019年）³⁸

項目	単位	南海区	仏山市（五区）	割合
2019年末の常住人口	万人	303.17	815.86	37%
2019年末の戸籍総数	戸	495,094	1,407,963	35%
2019年末の戸籍総人口	人	160,0617	4,612,756	35%
広東省内から転入する人口	人	62,653	113,608	55%
広東省外から転入する人口	人	44,559	96,121	46%

*割合：各項目において、仏山市に占める南海区の割合

表9 A村の労働力人口³⁹

年	総労働力	地元労働力	外来労働力
1998	12,007	6,188	5,819
2000	16,527	4,701	11,826
2002	17,100	5,088	12,012

表10 A村のST、TT、QY、DS集落の戸籍別人口（2015年）⁴⁰

村	総人口	戸籍人口 (宗族成員とA村の戸籍を持つ外来移住者)	非戸籍人口 (A村に仮住まいする人)
ST集落	3,146	1,106	2,040
TT集落	3,467	2,287	1,180
QY集落	1,668	1,018	650
DS集落	3,171	1,971	1,200

二 A村の宗族村落の龍船競漕（宗族側）

1 A村の龍船競漕について

A村において、宗族成員を集めて過ごす伝統的な節句には、お正月、清明節（お墓参り）、端午節などがある。ここで取り上げる龍船競漕は、中国の伝統的な節句である端午節に行われる行事として全国各地で見られる。中華民族の龍に対するトーテミズム信仰が龍船競漕の起源だと指摘する学者もいる。雷と雨水は、農作物の収穫に関わっている。そのため、農耕時代の農民たちは、雷、稲妻のような自然現象は龍がコントロール

³⁸出典：開放广东「各区人口基本情况（2018-2019）-03800590」「市人口规模及分布情况（2010-2019）」（2019年度の南海区、仏山市の総人口調査）

<<https://gddata.gd.gov.cn/search?t=1636981232705&keyword=人口>>（参照：2021-11-13）

³⁹出典：孔樹（2006）『A村志』A村郷志編纂領導組、p135.

⁴⁰出典：広東省人民政府地方志办公室（2019）『全粵郷情・仏山市南海区卷・四』p101.

していると信じ、龍を神様として祭祀している⁴¹。他に、龍船競漕の起源については、屈原を記念すること、水神に雨と豊穰を祈ることなどの説がある [川口 2004 : 212]。

祖先祭祀と龍船競漕（宗族集団間の競技活動）の再開は、宗族文化の復興を示す重要な活動であると考えられる。祖先祭祀と宗族復興との関係は分かりやすいが、なぜ龍船競漕が宗族復興のシンボルなのかというと、男性宗族成員のパワー、ないし宗族集団のパワーを龍船競漕のような競技活動で表すことができるからである。「ギアツがバリ島で考察した闘鶏活動のように、宗族集団の龍船競漕は、宗族集団の文化の特性を示した。勝った宗族集団は、宗族成員（男性）の自律とパワーを誇り、負けた宗族集団は自分が「ダサイ男」と見なされ、妻を娶ることができないおそれがある」とポッターが指摘している [蘇拉米茲、杰克 1995 : 89]。

現在の広東省、海南省、広西省東南部、福建省の南部という地域は秦朝の時には南海郡と総称された。つまり、文字からわかるように、中華の一番南、海に隣接する地域である。その時、珠江デルタの大部分の土地はまだ形成されておらず、海、河などが多かった。当時南海人は海辺や河辺で生活していたと言える。昔の南海の位置からみれば、海に接し、そのために、龍船競漕活動も「出海」と呼ばれていた。

現在の南海区は、仏山市の一つの行政区である。龍船競漕は、仏山市南海区の特色ある民俗活動となっている。500 年以上の歴史を有する A 村の龍船競漕文化は、文化大革命において、封建文化として打倒されることは避けられなかった。『A 村志』によると、1968、1969 年に、紅衛兵の命令で、A 村に代々伝えられてきた龍船が徹底的に壊された。改革開放までは、A 村における龍船競漕活動の開催は禁止された。1978 年、CJ 集落と QY 集落は龍船を作り直し、龍船競漕活動を開催することを提議した。これにより、A 村の龍船競漕文化は再生できるようになった。

A 村の村民は、A 村の龍船競漕の正しい呼び方に強いこだわりをもっている。龍の姿に基づいて作られた細長いボートに対しては、ドラゴンボート、龍船、龍舟などの呼び方がある。しかし、A 村村民にとって、龍舟と龍船は全く異なるものである。龍が飾られている細長いボートを「龍船」と正しく呼べることは、生粋の A 村村民、A 村の伝統文化を把握したかどうかを判断する基準となるらしい。では、一体どういうふうに「龍舟」と「龍船」を区別するか、この点について、「A 村龍船アカウント」によると、

長さ 25 メートル、64 人ぐらいが載せられる長い船は、「龍船」と呼ばれる。

長さ 0.6 メートル、龍みたい船の木彫品は、「龍舟」と呼ばれる。昔、この小型の木彫は大道芸人が物乞いをする際に持ちる道具であった。

「龍舟」は、粵劇（広東語の伝統演劇）のある歌い方である。

「龍舟」と「龍船」は異なる二つのものである。「龍船」は、耒みたいパドル（耒は農具の鋤である）を使って船を漕ぐ。「龍舟」は、耒を使って歌う。

そのため、A 村の龍船競漕を話題にするときに、A 村の龍船競漕の正しい呼び方を尊重してください。「A 村の龍船競漕」、「A 村カーブ龍船競漕大会」、「A 村龍船ドリ

⁴¹出典：祁軍（2011）『南海龍獅』中山大学出版社、p1.

フト」などの呼び方を使ってください。

——A 村の WeChat 個人アカウント「A 村龍船アカウント」⁴²

ネット上で数回にわたって「龍船」という呼び方についての説明をしていることから、A 村村民は、龍船の呼び方の正しさに対する強いこだわりが見られる。

現在、A 村の 18 の集落がそれぞれチームを作っており、毎年の端午節に、この 18 チームが自分の集落を代表して龍船競漕大会に参加している（表 11 参照）。

表 11 例年の龍船競漕に参加する集落チーム⁴³

1	A 村南 LQ 集落チーム	10	A 村北 SY 集落チーム
2	A 村南 DF 集落チーム	11	A 村北 QY 集落チーム
3	A 村南 NJ 集落チーム	12	A 村北 CT 集落チーム
4	A 村南 JT 集落チーム	13	A 村北 AB 集落チーム
5	A 村南 JB 集落チーム	14	A 村北 TT 東約（集落）チーム
6	A 村南 ST 集落チーム	15	A 村北 TT 三約（集落）チーム
7	A 村南 ZS 集落チーム	16	A 村北 DS 東約（集落）チーム
8	A 村南 CJ 集落チーム	17	A 村北 DS 集落——JXT チーム
9	A 村南 CF 集落チーム	18	A 村北 DS 集落——SYT チーム

試合に参加する龍船には、「〇〇集落」と書かれた旗が掲げられている。他所で暮らす A 村の宗族集団の分節集団のメンバーは、ゲストとして参加できる。また、一番強いチームが A 村を代表して各地の龍船競漕大会に参加している。ただし、A 村の各集落は常に競い合う関係でいるわけではない。A 村には、集落の間には「上契（義理の兄弟、義理の父子、同盟関係を約束する）」という習俗がある。例えば、CJ 集落と ST 集落、CF 集落と DS 集落、TT 集落と QY 集落とは義理の父と義理の子という関係である（現在、まだ持続されている習俗は、端午節に、「上契」した村落どうしが互いに誘って食事を行うことである）。

従来、男性しか龍船競漕に参加できなかった。龍船が清潔なモノであり、女性は「ケガレ」と見なされていたからである。女性が漕ぐなら、龍船は沈没してしまうと考えられていた。一方、妊娠期の女性の夫も龍船を漕ぐことはできない。1953 年の端午節に、A 村の CF 集落は、初めて女性が龍船競漕に参加することを認めた。それから、A 村の他の集落でも、女子龍船競漕チームを設けるようになり、毎年の龍船競漕大会に女子龍船競漕チームによる龍船競漕のパフォーマンスが行われるようになった。女子の漕ぎ手は、常に A 村の宗族集落に嫁入りした人である。女子龍船競漕チームに加入するこ

⁴²出典：A 村の WeChat 個人アカウント「A 村龍船アカウント」（参照：2021-10-20）

地元政府が運営するアカウントと区別するために、以下では、個人が運営するアカウントを「A 村龍船アカウント」と呼び、地元政府が運営するアカウントを「A 村龍船公式アカウント」と呼ぶ。

⁴³出典：A 村居民委員会（2015）『A 村龍船』p2.

とにより、トレーニングを積むだけでなく、嫁どうしが付き合う機会にもなった。

大多数の中国人にとって、家族と親戚を全員集めて、挨拶回りするお正月は最も重要な節句である。ただし、A村村民には、「端午節大過年（端午節はお正月より重要である）」という話が口伝えされている。毎年、端午節に、A村の各村落の村民が親戚、友人や海外、香港へ移住していった宗族成員を誘って龍船競漕大会を觀賞し、A村の祠堂に集まって「龍船飯」を楽しんでいる。

A村で龍船に関するもう一つの伝統的な民俗活動は、「扒旱龍」と呼ばれる陸上で龍船を「漕ぐ」活動である。毎年、旧暦の四月初八の日に、A村では300年以上の歴史ある「元仔節」、「A村のこどもの日」とも呼ばれるフェスティバルがある。この日に、QY集落で「扒旱龍」活動が行われている。村民は龍船競漕用の龍船の龍頭と龍尾を取り外し、祭祀を行う。その後、村落の男たちは、龍頭と龍尾を掲げ、籠を担いで、銅鑼、太鼓を鳴らしながらA村全村を巡り、各家庭に祝福を送って一年の順調な生活を祈る。そして、各家庭から米とお金を供出してもらう。供出してもらった米は「百家飯」と呼ばれる。そして、もらった米を炊いて、村の若い男性、子供に食べさせる。子供が食べることによってすくすく成長していけることを祝福する⁴⁴。「百家飯」は、A村村民が一丸となるという機能も果たしていると考えられている。「百家飯」を含む龍船競漕文化はA村村民の精神に刻み込まれているといえる。「今年、私は60歳である。しかし、私は（母のお腹にいたときから）61年にわたってA村の龍船競漕文化を体験した。私はA村の『百家飯』を食べながら成長した」とA村のお年寄りが言った。

現在のA村の龍船競漕は、もう一つの新たな特色をもっている。それは世界唯一、A村ならではの「龍船競漕のドリフト技術⁴⁵」である。村民たちは「扒旱龍」などの伝統的な活動に対する意気込みが少し薄くなったが、その代わりに、多くの若者は現代的な龍船競漕のドリフト技術に夢中になっている。こうした違いと変化はあるものの、A村の龍船競漕活動は、各年齢層のA村村民にとって、依然として宗族成員を主体とする伝統活動である。

A村の各宗族集落の龍船競漕チームは、「純種（血統の純正性）」のA村成員やせめてA村と関係性がある人（「非純種」）から構成されるべきである。「純種」のA村村民とは、父母両方ともA村の原住民から生まれた人である。そういう人々の数は少ない。「非純種」のA村村民とは、父母のいずれかがA村の元からの住民で、相手が他の集落から嫁入りしたか婿入りした人との間に生まれた人という意味である。

「純種」や「非純種」のA村村民ではなければ、原則として龍船競漕チームに参加することは許されない。われわれは、「血統優先」という原則に則っている。どうしてかというと、A村の龍船競漕文化は、A村宗族集落の特有なものであるから、必ず参加の機会は優先的に宗族成員に譲らねばならない。小さな規模の村落では、参加

⁴⁴出典：A村のWeChat個人アカウント「A村龍船アカウント」（参照：2021-10-20）

⁴⁵A村では、モータースポーツにおいて横滑りさせながら走行させるテクニックを龍船の操作技術に活用している。A村村民はこの技術を「龍船競漕の漂移（ドリフト）技術」と表現する。

人数が足りなかったのも、外来移住者を参加させたこともある。しかし、宗族成員の参加機会を保障していかなければならない。

——インフォーマントの TT 集落の村民 T さん

実は、インフォーマントへのインタビューからわかったことだが、A 村に暮らし続けている村民にとっての「よそ者」は、外来移住者だけではない。A 村に生まれたが、A 村を離れてしまった宗族成員も A 村に暮らし続けている村民にとっては「よそ者」である。昔馴染みの対面的な関係を持っている A 村に暮らし続けている人々から構成される集団こそが、彼らにとっての「内」なのである。

我々 A 村に暮らし続けている村民と異なり、多くの同世代の宗族成員は、子供の時から父母に連れられて、都市へ移住していった。豊かな家庭に生まれた彼らは、高級な学校に通ったり、都市の子供と友達を作ったりするから、あまり龍船競漕という古めかしい伝統活動に触れていない。彼らが A 村に戻るときに、龍船競漕の訓練に誘ったことがあったけど、「河の水が汚い」、「水泳ができない」等の理由で断られた。その時、彼らはわれわれと異なるのだと認識した。

——インフォーマントの TT 集落の村民 T さん

『熟知の赤の他人（熟悉的陌生人）』の著者楊は、「村落の構造の変化につれて、村民の『内』の範囲が縮まっている。もともとの『内』はどんどん他者化されるようになる。血縁関係を持っている人々でも『他者』になる可能性がある」との見方をしている[楊 2021]。インフォーマントの答えから、A 村に暮らし続けている宗族成員が龍船競漕を機会に、「内」と「外」の違いを意識することが多いと分かった。A 村の宗族成員（A 村に暮らし続けている宗族成員）の閉鎖性は龍船競漕において顕著に表されている。基本的にはこれまで、宗族成員が自発的に外来移住者を龍船競漕のチームに参加させたりすることではなく、A 村の宗族集団の閉鎖性が伺える。

2 なぜ龍船競漕大会で優勝したいのか

龍船競漕のチャンピオンを競うチームは、常に「QY 集落」、「DS 集落」と「TT 集落」という三つの集落である。宗族集団のパワーと龍船競漕の勝負強さからみると、A 村で競争力が最も強い宗族集団は「QY 集落」、「DS 集落」と「TT 集落」だと言える。

「QY 集落」、「DS 集落」と「TT 集落」の宗族成員が最も多い。実は、龍船競漕に優勝しても、何の賞品もないが、漕ぎ手と宗族成員は自分の集落に誇りを感じる。近年、この三つのチームが、試合で優勝するために、プロのボートレースの漕ぎ手、宗族村落に在住する外来移住者を雇用するようになった。それで、他の集落の人々は、「QY 集落」、「DS 集落」と「TT 集落」のことを、龍船競漕の初心、意味を忘れた行為だと批判している。それに対して、「QY 集落」、「DS 集落」と「TT 集落」の

代表は、「われわれがプロの選手を雇ったことは、チームの競争力を強め、龍船競漕の見どころを増やすためである。また、こういうふうに、宗族以外の人々もわれわれの龍船競漕の文化を体験できるようになる」と述べた。たしかに、A村の龍船競漕の見どころは増えたが、龍船競漕文化を受け継ぐ若者が少なくなっている。われわれA村ならではの龍船競漕文化を失いたくない。

——インフォーマントのDS集落の村民Hさん

私も、龍船競漕に参加する漕ぎ手は、自分の宗族成員のほうがいいと思う。しかし、龍船競漕に参加したい宗族集団の漕ぎ手が減っていることは事実である。龍船競漕文化を受け継ぐため、外来人にも参加させて、龍船競漕文化を感じさせることも方法の一つだと思う。私のお隣さんは、他のところからA村に移住してきた人である。彼は龍船競漕チームの訓練に参加したがっていたので、私が彼をつれて、平日の訓練に参加させた。龍船競漕大会の時、彼は漕ぎ手の一員として参加した。その時、われわれは、自分の村落のために優勝するという信念をもって結束した。そして、彼もわれわれ集落の一員であることを認識するようになった。

——インフォーマントの村民Sさん（村名不詳）

実際のところ、われわれA村の龍船競漕は他のところと比べても引けを取らないと思う。近年、地元政府が力を入れて宣伝をしている。そして、国家テレビ局の宣伝もあり、ついにA村の龍船競漕が中国各地に知られ始めた。しかし、宣伝し始めたばかりで、新型コロナウイルスが爆発して、大規模な龍船競漕の開催は禁止された。運命かな…世界にA村の龍船競漕をもっと見てもらいたいと思う。

——インフォーマントの村民Sさん（村名不詳）

3 現代文化と融合したA村の龍船競漕

3.1 A村の龍船競漕の見どころ

他所の龍船競漕は、同時に何艘かのボートを河で競い合わせる方式で行うが、A村の河は非常に狭いため、計時競争という方式を採用している。つまり、一回に一つのボートを始点から終点まで漕がせ、審判員がタイマーを使って、時間を記録するのである。なお、A村の河は狭いだけでなく、数メートルごとに90度ぐらいのカーブがある。一つの龍船はおよそ25メートルの長さがあり、50人の漕ぎ手を載せている。長い龍船を操作する漕ぎ手は、パドルを漕ぎながら巧みにカーブを曲がらなければならない。そのため、A村の龍船競漕は、頭脳、勇気、パワー等を組み合わせた競い合う試合だと目されている。2008年頃、A村の龍船競漕は大きく変わった。漕ぎ手たちは何回もの失敗を重ねるうちに、カーブを曲がるときにレース試合でよく見られるドリフトという技術を会得して用いるようになった。伝統的な習俗と現代的な技術を融合した龍船のドリフト技術は、A村の龍船競漕の見どころとなった。A村の「龍船を操作するドリフト技術」は、全国唯一の水上カーブレースの競争項目と認められている。

他所の龍船競漕と比べ、A村の村民は、それほど龍船の「龍頭」を大切にしてい
ない。もちろん、村落の中には、代々にわたり龍船、龍頭を作る工芸を継承した職人がい
る。どれほど練習を重ねても、カーブを曲がるときに岸の石壁にぶち当たることは珍し
くない。しかし、石壁に衝突して龍船が壊れ、全員が河に落ちたとしても、村民は拍手
を送って応援してくれるから、漕ぎ手はやり甲斐を感じることができる。彼らは自分の
宗族集団を代表しているから、岸で応援する同じ宗族集団のメンバーと一体化する。宗
族集団として参加するので、龍船競漕大会は、同じ宗族集団のメンバーを統合させ、宗
族集団同士が交流する場となっている。

3.2 A村の龍船競漕と結婚式

1949年以前、A村の龍船競漕大会は、「相親（お見合い）」という機会をA村の若者に
提供していた。昔は儒教の影響で、漢族には、「父母之命、媒妁之言⁴⁶」という決まりが
あった。つまり、若者は父母の許可がないままに付き合うことが許されなかった。その
ため、普段宗族村落の若者たちは異性に会う機会が少なかった。龍船競漕大会は若い男
女が出会えるごく限られた機会であった。そのため、多くのA村村民は龍船競漕大会で
交際相手や結婚相手と出会った。そのため、同じA村内の異なる宗族間の異性同士が結
婚することが珍しくなかった。

2000年以前、宗族村落間の通婚が多かった。社会の発展につれて、より多くのA
村村民が外へ就学、就職するようになった。それで、宗族村落間の通婚が減ってい
る。現在もあるが、少なくなった。

——インフォーマントのTさん

実は、龍船競漕の「縁結び」機能は今日も果たしている。コロナのため、大規模な龍
船競漕を開催することは許されていないが、A村村民は積極的に龍船を活用している。
2020年10月に、A村のJT集落で、新郎Xと新婦Jとの結婚式が行われた。ちなみに、
新郎新婦はともにA村村民であり、そのうち、新郎XがJT集落の一番前の街に暮らし、
新婦Jは同じ村の一番後ろの街に暮らしている。伝統的な中国の結婚式には、「迎新
娘」というプロセスがある。要するに、新郎が親戚とともに新婦の実家から新婦を迎
え、そして一緒に新郎の実家へ戻るというものである。新郎新婦はともにJT集落の人で
あるから、実家の距離が短くて、JT集落の家屋が河に沿って分布されている。それで、
元々JT集落の龍船チームの一員だったXさんは、婚礼を盛り上げるために龍船を使って
新婦を迎えに行くことにした。ある村民は、自発的に自分の小さなボートを漕ぎ、「迎新
娘」の龍船に伴走して新郎新婦に祝福を送った。当日、洋服を着ているXさんと龍船競
漕の訓練用ユニフォームを着ている親戚（半分はJT集落の漕ぎ手である）が龍船をXさ
んの実家からJさんの実家に向かって出発した。週末であるから、A村の人々は、河の
沿岸部に立って、新郎新婦に祝福を送った。洋服を着ている新郎Xさんとウェディング

⁴⁶父母之命、媒妁之言：婚姻関係は、父母と仲人によって決められる。

ドレスを着る新婦 J さんが龍船に乗っているシーンは、まさに伝統的な文化と現代的な文化、中国文化と西洋文化との融合だと言える。

昨日の結婚式、A 村は端午節のように賑やかであった。人々が河岸まで押し寄せ、龍船競漕が中止されたことの穴埋めを十分に果たしたと思う。龍船競漕は、われわれ A 村の文化遺産であるから、ぜひ受け継ぎたいと思う。

——新婦のお父さん

たくさんの親戚と友人が結婚式に来てくれた。そこで、彼らは A 村の龍船競漕文化を感じるようになる。私と妻は、子供時代から両親の影響で、龍船競漕を好きになった。軍隊に入って他の地で働いていたから、あまり故郷に戻らなかった。龍船競漕をみると、懐郷の念が溢れた。結婚という人生の大事なことと自分にとって最も重要な龍船競漕をつなげてよかったと思う。

——新郎 X さん

X さんと J さんが結婚式に龍船競漕を活用したことで、多くの若者に影響を与え、これから A 村の龍船競漕には明るい未来があると感じた。

——A 村のお年寄り

3.3 インターネット上の A 村の龍船競漕のフォーラム

従来、宗族集団を研究する場合には、つねに祖先祭祀、農業生産、族産の分配、祠堂の修築等のことに注目してきた。しかし、こうした宗族集団単位で行われる行事にも着目する必要がある。例えば、本論文で論じる A 村の龍船競漕活動がその例の一つである。A 村における宗族集落のほとんどの活動は、龍船競漕をめぐって行われていることである。

A 村の龍船競漕は、実際に河で行われていただけでなく、インターネット上でも行われていた。2009 年 3 月 15 日から、A 村村民である 12V（ユーザーネーム）は龍船競漕のフォーラムを運営し始めた（図 3、4 参照）。

図 3、4 インターネット上の A 村の龍船競漕のフォーラムのスクリーンショット⁴⁷

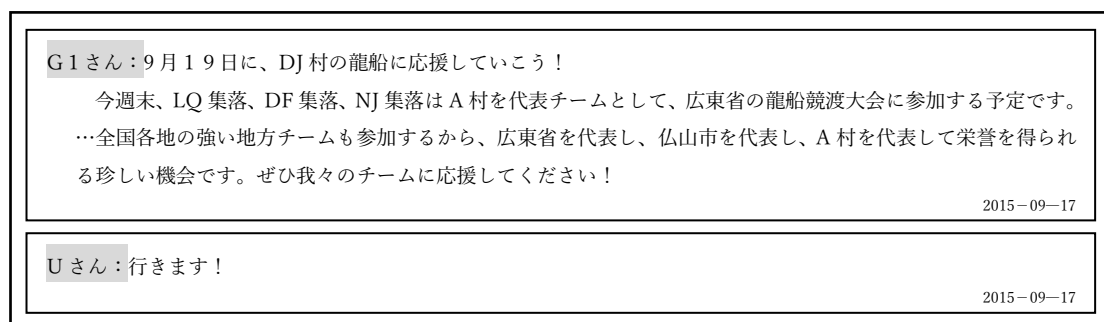


2007 年頃から、A 村の面白い龍船競漕を地元、地元の村民だけで楽しむことは惜しいと思い、いかにして端午節、龍船競漕の喜びを広めていくかを考え始めた。2008 年頃、新しい龍船競漕の見どころが登場したのに合わせて、私たちは、フォーラムで「ドリフト技術を用いた S カーブを曲がる龍船——端午節のおすすめの観光スポット」と題する文章を投稿した。しかし、おかしなことに、人々は村落の汚い河にしか注目しなかった。だから、A 村では汚い河だけでなく、誇れるすばらしい龍船競漕もあることを伝えていこうと私の決心が固まった。

——A 村の龍船競漕のフォーラムの創始者 12V

フォーラムを設立した目的は、民間の視点から龍船文化を発展させるためであり、A 村龍船文化を伝えたり、交流できる場所を提供したりすることであった。フォーラムは、A 村龍船文化、龍船交流区、A 村事務等いくつかの区画によって分けられていた。フォーラムの討論から分かるように、各龍船チームの成員はフォーラムで漕ぐ技術を交流しあっている（図 5、6、7 参照）。

図 5 A 村の龍船競漕のフォーラムの討論 (1)⁴⁸



⁴⁷図 3、図 4 の出典：A 村の龍船競漕のフォーラム<<http://djlc.joinbbs.net/>>（参照：2020-05-02）

⁴⁸図 5 の出典：A 村の龍船競漕のフォーラム<<http://djlc.joinbbs.net/>>（参照：2020-05-02）

図 6 A 村の龍船競漕のフォーラムの討論 (2) ⁴⁹

C さん：A 村の漕ぎ手の一人として、すでに 10 年以上龍船を漕いだ。しかし、最近、私だけでなく、周りの人々も龍船文化に興味をもつ若者は少なくなっていることに気づいた。子供、10 代の若者の両親たちは、子供を龍船訓練に参加するよう勧めてくださいますか？我々自身も龍船に関心をもたなければ、他の人が重視するわけがないでしょう？これから、一緒に A 村の龍船の発展に力を入れよう！	2015-12-11
D さん：賛成！A 村に間借りしていますが、私も DJ 村の龍船競渡チームに参加したい…いいですか？	2015-12-11
O さん：D さん、我々の訓練に参加することは問題ないですが、一緒に訓練する時間は短いため、試合に参加することはちょっと難しいですよ。D さんが訓練に参加することに期待しています！	2015-12-11

図 7 A 村の龍船競漕のフォーラムの討論 (3) ⁵⁰

Z さん：〇〇村の龍船競渡の実力、いつか蘇るか…期待しております…	2017-06-01
G さん：卒業した後、残業しない仕事を探し、宗族のチームに自分の力を貢献するぞ！	2017-06-01
……	
Y さん：勝つも負けるも時の運。〇〇村は弱いのではなく、団結力を欠いているのだと思います。頑張ったら大丈夫です。集団のために自分の力を貢献したらいいです。	

*Z、G、Y さんは〇〇村成員である

A 村のフォーラムの書き込みを読むと、筆者は、書き込みの内容はほぼ全部広東語の文字⁵¹で書かれていることを見つけた。

⁴⁹図 6 の出典：A 村の龍船競漕のフォーラム<<http://djlc.joinbbs.net/>>（参照：2020-05-02）

⁵⁰図 7 の出典：A 村の龍船競漕のフォーラム<<http://djlc.joinbbs.net/>>（参照：2020-05-02）

⁵¹広東語の文字：香港、マカオでは広東語は繁体字で書かれるが、広東省では簡体字の普及が進んでいる。広東語に特有の語彙を書き表すための方言字が発達しており、もともとは粵劇の台詞などを書き残すのに考案されたと考えられる。異体字も少なくないが、現在は、多くの字で自然に選別が進んで、香港の新聞や雑誌でも使われている。香港では香港増補字符集と呼ばれる広東語の表記に必要な方言字などを補充する、コンピュータ用の文字セットが作られ、使用されている。広東省ではこれを簡体字の規則に従って書き換えた方言字も一部で俗字として使われている

広東語の語気助詞：中国語の中で最も豊富な文末語気助詞を持ち、100 種以上が常用されている。例：啊（または 呀）a3：断定、強調、説明、疑問、反復など多くの語気の表し、最も多用される。㗎（口へんに架）ga3：疑問、説明を表す。㗎 me1：省略した「乜嘢」から。意外さや驚きを込めた疑問を表す。㗎 gwa3：推量を表す

出典：広東語の文字<<https://ja.wikipedia.org/wiki/広東語#文字>>（参照：2020-10-02）

「扒仔 X: 细细个就睇龙船睇到大, 大咗又去扒, A 村扒龙船嘅传统文化由细个已经形成, 我哋细细个就掣住碌竹周街走扒旱龙, 諗起都好怀念」

——ユーザーの書き込み（広東語の文字で）

「扒仔 X: 我从小就开始看划龙船, 一直到现在长大。长大了我就开始参与划龙船了。A 村划龙船这个传统文化从我小的时候就开始形成。我们小的时候就已经拿着细长的柱子当做龙船的划桨, 到处去划旱龙船。现在想起来都觉得很怀念」

——ユーザーの書き込み（標準語の文字で）

「漕ぎ手 X: 私は、子どもの時から龍船競漕を見始めた。その後、龍船競漕に参加するようになった。A 村の龍船競漕という伝統文化は、私が小さい頃から形成されてきたものだ。我々は小さい頃から、細い竹竿をパドルとして村落の至る所で「扒旱龍」を模倣していた。懐かしいね」

——ユーザーの書き込み（日本語版で）

（上記 3 種類の書き込みは同じ内容である）

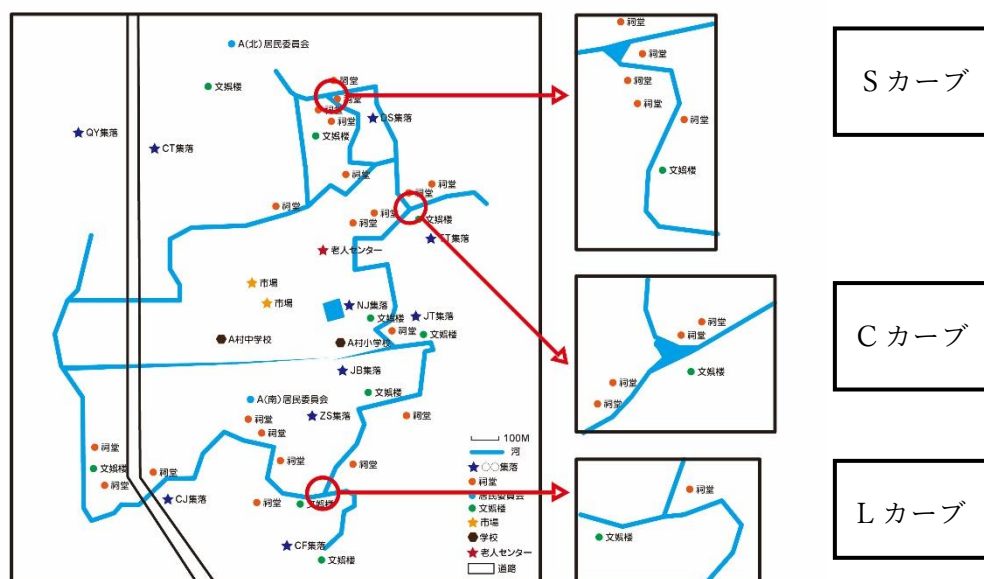
なぜ広東語の文字の書き込みを強調するかというと、広東語の文字を使つての交流は、広東語母語話者間のコード通話に相当する。珠江デルタでは、三つのサブエスニック・グループが存在し、それぞれ広東語を母語とする広府人、客家語を母語とする客家人、と潮州語を母語とする潮汕人である。そのうち、珠江デルタの広州市、仏山市に定住しているのは主に広府人である。広東語母語話者でなければ、文字の内容を把握しがたいのである。公共的な場面で、広東語の文字で書き込めば、相手に自分が「珠江デルタの地元の人」という身分を表明しながら、同じ身分を持っている人を引き付けることができる。しかし、2010 年、広州市の諮問機関、中国人民政治協商会議が地元テレビの広東語チャンネルを標準語に改めるべきだと同市に提案した⁵²。同時に広東語の母語話者が多くいる仏山市も、オフィシャルな場面で広東語をやめ、標準語を使うようにする指示を出した。例えば、学校では、標準語の使用を推奨しながら、広東語の使用は推奨しない指示も出された。それで、現在、珠江デルタにおける 10 代、10 代以下で、広東語が話せ、広東語の文字の書き込みができる地元の子どもは減りつつある。広東語の文字で書かれた書き込みの数量から、A 村の龍船競漕に参加する地元の村民と外来移住者との割合が分かると思う。広東語の文字の使用からは、なくなりつつある文化に対する地元の人々の思い入れが偲ばれる。また、彼らは特別な文字の使い方で自分の身分、外来移住者との区別を強調することにもなる。

A 村の龍船競漕の見どころの由来は A 村のフォーラムに掲載された紹介から分かる。2009 年頃、A 村の龍船競漕委員会、A 村村民は、龍船競漕の試合の見どころを増やすために、S カーブ以外、L カーブ（直角カーブ）と C カーブ（半円カーブ）という項目を

⁵²出典：広東語の制限と抗議行動 <<https://ja.wikipedia.org/wiki/広東語#広東語の制限と抗議行動>>（参照：2020-10-02）

増やした（図 8 参照）。フォーラムでの討論が熱を帯びるにしたがって、2011 年の端午節には、仏山市テレビ局が A 村から龍船競漕大会を生放送した。

図 8 A 村の龍船競漕の試合のスポット——S カーブ、C カーブ、L カーブ⁵³



WeChat のような SNS がまだ流行していなかった時、フォーラムは場所、時間に限定されずに自由に交流する場であった。ただし、フォーラムで掲載された討論内容や討論に参加する人の身分からみると、このフォーラムは、ネット上の A 村コミュニティだけの広がりしかなかったとみられる。つまり、A 村の龍船競漕と A 村の龍船競漕フォーラムは、A 村コミュニティを超えてより広い範囲へとは広がっていなかった。ただ A 村村民、宗族成員、または A 村の宗族集団の分節集團成員だけが交流する場になっていた。A 村の龍船競漕の名が売れ、仏山市、ないし全国まで知られるようになったのは、地元政府、政府の宣伝のおかげである。

しかし、2021 年 11 月 15 日に、A 村の龍船競漕のフォーラムは、バージョン更新の遅れなどの原因で運営中止を公表した。これ以降は、WeChat のアカウントが主要な宣伝 SNS とされるようになる。ただし、自由に龍船競漕を討論できるネット上の場所は、A 村村民にとって非常に重要である。それで、「A 村龍船アカウント」の運営者 Y さんは、WeChat でミニフォーラムを作った。

三 龍船競漕文化と農村改造への動き（政府側）

2018 年頃から、中国中央政府は農村の改造に注目し始めた。以下の文章は広東省の農村部を紹介した《全粵村情》シリーズのうちの《佛山市南海区卷》の序文の一節である。

⁵³図 5 の製作：筆者

習主席が指摘したように、郷村の文化は中華民族文明史の主体であり、郷村はこういう文化の担い手であり、耕読（農耕と教育）文化はわれわれのソフトパワーである。

……

広東省の自然村に対する歴史的・人文的調査記録の編纂は、中国、ないし世界で初めての試みだと言える。

……

広東省の大多数の自然村は、中原から広東に移住してきた開基祖により開墾され、発展するプロセスにおいて中原文化、土着文化と外来文化を融合して特別な嶺南文化を形成してきた。

……

都市化の進展で、多くの自然村と自然村にある重要な文化遺産が消えた。しかし、村落の消失は、村落文化の終わりだというわけではない。その村落の歴史、文化は、他の形で継承されていく。広州市のC村は全面的に改造され、整然とする高層マンション群になったが、C村の祠堂群が再建され、毎年龍船競漕活動が開催されている。人々の集合的記憶と帰属意識の共鳴を引き起こし続けている。

……

（郷村振興計画により）新農村建設を推進するプロセスで、必ず農村に合う道筋をたどり、農村らしいスタイルを保ち、十分に農村の特色を発揮することになる。

——《全粵村情・佛山市南海区卷》のまえがき

上記文章から、農村地域においては、従来の地域文化を基礎として新しい郷土文化、新しい地域文化とそれに伴う集合的記憶、共同体意識が作られるようにすることが分かった。A村に仮住まいしている外来移住者へのインタビューや多くの外来移住者の生活の現状から、戸籍の転入が認められていない農民工（外来移住者）⁵⁴も含めて住民の集合的記憶の形成と共同体意識の醸成がコミュニティにとって重要な課題かが分かるようになった。

A村で現地調査を行うときに、民家の前に立って、「竜眼（果物）」を販売している30代の女性に出会ったこととインタビューの内容を紹介したいと思う。30代の女性に出会った時に、私は、相手が外来移住者であると直感したので、尋ねてみた。

筆者：すみません。お姉さんは、ここA村において仮住まいしているのですか？

Qさん：そうです。来たばかりです。この近くの工場で働いています。

筆者：…どうしてA村を居住地としたのですか？A村に対してどう思っていますか？

⁵⁴農民工は都市戸籍を取得できないために、都市戸籍に付随する多くの社会サービスが受けられないでいる。とくに、子供の教育（公立学校への進学困難）、社会保障からの排除、住宅システムからの排除はより顕著である。このような状態は「不統合」と呼ばれている [羅 2019: 62]。

Qさん：ここの家賃は安い。A村の人々もやさしいし、環境もやさしい。住むのに
はいい居場所だと思います。

Qさんは、村民が植えた竜眼を勝手に摘んで、自分の商品として売っていた。そのため、私が政府の職員だとQさんに誤解された。Qさんはかしこまって、礼儀正しく私の質問に答えてくれた。実は、Qさんと彼女の夫はA村近くの工場で何年も働いて、A村にずっと暮らしている。広東省政府は、2012年に、広東省で定住したい外来移住者を対象として、「積分入戸⁵⁵」政策を公表した。その方法として、アパートを買うこと、有能な人材として認められ「入籍」のポイントを獲得する必要がある。ただし、Qさんの子供は仏山市に就学する資格がないから、故郷で生活しており、夏休みにはQさんに連れられてA村に滞在している。

数年前、私はA村に初めて来た。当時、河岸の家のグラフィティを見て、A村は人情味溢れる村だと思いました。一瞬にして、将来自分はA村の一部になるんだな
と思いました。

確かに、A村の本地人はやさしい。困っているときにも、彼らは助けてくれたことがある。社会人として、朝9時に家を出て、夜6時に家に帰るので、本地人と付き合う機会ほぼありません。龍船競漕大会は唯一の機会かもしれません。以前、私と夫は龍船競漕大会を観戦しました。各村落が一丸となって頑張る姿に、龍船競漕の魅力を感じました。本当にすばらしい活動だと思います。

しかし、本地人は、外来人に対して強い距離感をもっています。本地人は、われわれ広東語が話せない人とあまり雑談しません。もちろん、お年寄りたちは標準語が話せないから、われわれと交流できないという原因もあります。また、子供もここで就学できません。われわれはA村を愛しても、将来、仕事が変わるとA村を離れる日が来るかもしれません。もしも、子供がA村に入籍できたら、これからもA村に暮らしていこうと思っています。

——30代外来移住者の女性Qさん

しかし、子どもを連れていない外来移住者にとって、子どもの就学問題を考える必要がない。そのため、借屋を選ぶことに対して重要な要素は、家賃と距離となる。それで、外来移住者は長期間に固定的な村落に定住することは難しくなる。外来移住者の頻繁な流動は、市区政府、地元政府にとって管理上の難問となった。外来移住者のコミュニティ統合問題を解決し、帰属意識を醸成するために、政府は対応策を打ち出した。

⁵⁵出稼ぎ労働者は政策で指定された項目のポイント（60）を獲得すると、広東省（珠江デルタにおける広州市、深圳市、東莞市など）に移籍することができる。項目には、学歴、特殊技能、コミュニティにおけるボランティア活動、アパートを購入したことなどがある。

出典：積分入戸（積分入戸）<<https://baike.baidu.com/item/积分入戸/6306472>>（参照 2021-08-31）

1 現地の都市化と「郷村振興計画」

外来移住者に「帰属意識」を持たせるのは、政府が取り組んでいる任務である。なぜ外来移住者に「帰属意識」を持たせたいのかというと、出稼ぎの外来移住者を珠江デルタ、ないし広東省に定住させるという方針にも関わっている。中国の出稼ぎ労働者団体は、世界最大の「振り子移民」団体となった⁵⁶。人口ボーナスに潤っている広東省にとって、人口が多ければ多いほど経済発展に有利である。また、人口の増加は当該地域の住宅価格の平均額の上昇にもつながっている。人口が多ければ多いほど、都市化発展が推進されるようになる。また、人口の増加につれて、マンションのような住宅のニーズも多くなる。不動産開発業者が住宅を建てる土地は、政府から購入する。現在中国の多くの地方政府の財政収入は土地販売に依存している⁵⁷。2021年8月のデータによると、それまでの七カ月間に、土地販売から得た収入は、財政収入の56.7%を占めている⁵⁸。そのため、人口の増加、都市化率の上昇、地元政府の財政収入との間にはバランスが取れている。ただし、こういう都市化方針は、サステナブルな発展計画ではない。そのため、仏山市政府は、サステナブルな発展を模索するため、現地の都市化⁵⁹や出稼ぎ労働者の定住に取り組んでいる。現地の都市化には二種類ある。一つ目は、農村の土地が政府に収用され、改造された後、村落のインフラ施設、公共サービス、産業を都市レベルと同じように改造するタイプである。二つ目は、農村の土地の性質は依然として集団所有制の土地のままにし、村落のインフラ施設、公共サービス、産業を都市レベルと同じように改造するタイプである⁶⁰。現地の都市化は、人口流出が多い農村地域と人口流入が多い都市との差を縮めるための方策である。「村改居」政策下、南海区における旧来の

⁵⁶中国において、毎年およそ一億の農民工は都市へ出稼ぎに行き、世界最大の「振り子移民」となった。彼らは都市で働いているが、都市に融合できず、都市と農村との間を行き来している。それは、中国の都市化の質がよくない原因である。

出典：中国農民工群体已成世界上最大的“钟摆式移民”（中国の出稼ぎ労働者は、世界最大の「振り子移民」となっている）<<http://news.sina.com.cn/c/2010-05-12/020417495493s.shtml>>（参照：2021-10-11）

⁵⁷中国の「新型都市化」あるいは「都市農村一体化」に代表される政府の投資戦略は、基本的に大型インフラと大型の産業プロジェクトの方式で支えられている。…ここでは政府からの財政支出金や投資だけでなく、用地の確保、外資の誘致・導入と関連する財政支出も含まれる。都市化についていえば、政府の投資はインフラと産業プロジェクトを除けば、一貫して不動産業を支える形になっている。不動産業は今や収益が見込める数少ない貴重な基幹産業となっているが、不動産業も成長の限界が見えており、バブル経済に陥っている。バブル経済が弾ければ金融危機を引き起こし、中国経済に大きなダメージを与えることにもなりかねない [賈 2018: 85]。

⁵⁸出典：前7月土地出让收入占地方财政收入56.7%（2021年前半年の地方財源の収入統計）<<https://finance.sina.com.cn/tech/2021-08-19/doc-ikqciyzm2445921.shtml>>（参照：2021-10-11）

⁵⁹農村人口を都市へ移住させず、元来の居住地にそのまま定住させる。当該地域の自然村、行政村などを統合させ、新しいコミュニティとする。地域の経済発展、インフラ施設の完備、農民素質の高まりで、都市の人々と同様な生活を送らせるようにすること。

出典：就地城市化（現地の都市化）<<https://baike.baidu.com/item/就地城市化/9138610>>（参照：2021-10-11）

⁶⁰出典：就地城镇化（現地の都市化）<<https://wiki.mbalib.com/wiki/就地城镇化>>（参照：2021-10-11）

農村地域に暮らしている村民にも都市生活を送らせるようにすることは、現地の都市化政策を実施する目的の一つである。

従来の農村の都市化改造はといえば、地元政府、開発業者が農村地域の家屋を立ち退かせて、マンション群を建てていた。改造によって、地域の特徴ある建物も取り壊されてしまった。そのため、農村の都市化改造は、どこの都市でも見られる画一的な景観をした「千城一面」となってしまった。地元政府が農村の都市化を推進し、都市・農村一体化計画を進めるなかで、農村地域は依然として発展から取り残され、無秩序な開発が問題となっていた。これに対し、2018年、中国共産党と中央政府である国務院は、『乡村振兴戰略計画（2018年—2022年）⁶¹』を公表した。計画を実施する目的とは、農村地域に農業を優先的に発展させる軸を樹立し、産業を繁栄させ、住みやすい環境、やさしい郷土文化、効率的な管理、豊かな生活を実現するために、都市・農村を融合させる発展体制メカニズムやシステムを作り出し、農村経済建設、政治建設、文化建設、社会建設、生態文明建設や党の建設を全面的に推進し、鄉村管理システムや能力の現代化、農業発展の現代化を促進し、中国の特色ある社会主義農村振興の道筋をたどることにある。農業を有望な産業にし、農民にとり魅力ある職業にし、農村を住みやすい郷土となるようにすることにある⁶²。

この振興戰略計画には、中国の村落を発展させるための経済的・政治的・文化的・社会的分野における指針が示されている。豊かで美しい村落、インフラがよく整備される村落、和やかな村落を作り出すことを目指すことが目的である。計画中の第六篇、「住みやすく、美しい農村を建設する」には、農村の居住環境を改善し、村落のまちづくりを美化させるように、という指示が出された。また、第七篇「農村文化を発展させる」には、村民の思想、道德教育を向上させ、中華民族の優れた伝統文化を発展させ、村民の文化生活を豊かにさせる、という指示が出された。

「乡村振兴計画」の核心は、現地の都市化と類似しているところが多い。具体的にいえば、農村地域から農民を立ち退かせず、農村地域の文化を保存し、コミュニティの人間関係を統合しながら、村民の市民性を高まる方針だといえる。この乡村振兴計画に基づくなら、現地の都市化を促進する上で、農村の郷土文化、宗族文化が逆にその基礎になるといえる。では、仏山市南海区にあるA村の地元政府（居民委員会）やその上級政府（市区政府）はどのように「乡村振兴計画」を実施し、宗族文化、伝統文化をどのように扱おうとしているのか、次の節で見えていきたい。

2 地域管理者としての役割を増す地元政府/上級政府

2.1 「皇権不下県」の廃除

地元政府あるいは村落の管理機構は中国の社会改革につれて変化してきた。建国前、

⁶¹出典：乡村振兴战略（乡村振兴計画）<<https://www.163.com/dy/article/G125KPI00532BC1W.html>>（参照：2021-09-11）

⁶²出典：乡村振兴战略（乡村振兴計画）<<https://baike.baidu.com/item/乡村振兴战略/22168400#7>>（参照：2021-09-11）

宗族集団のリーダー、長老が全面的に宗族村落の経済・政治・文化面の管理を主導した。しかし、建国後の土地改革や人民公社化運動に伴い、「皇権不下県⁶³」という不文律が破られ、中央政府から地元政府（郷政府）に管理者を配属するようになり、宗族村落のリーダー、長老の権限が削減されるようになった [林 2020 : 46]。さらに、宗族復興以来、村落をより確実に統治するために、末端の行政村の職員にまで共産党員を配置するようになった。これにより中央政府は行政末端の政治・経済面をコントロールできるようになっただけでなく、文化面でも主導権を握るようになる。例えば、A村の地元政府（居民委員会）は、A村の宗族集団の活動、伝統活動をコントロールするために龍船競漕の主導権を握るようになった。地元政府のリーダーが龍船競漕に参加することで、伝統活動を行うときに、政府の権威を維持するようになる。すなわち、龍船競漕には、共産党と宗族文化がともに象徴機能を果たしている [苏拉米兹、杰克 1995]。

居民委員会、村民委員会という居民、村民によって自己管理する自治組織が設立されて以来、多くの宗族成員は手堅い就職先として、家から近くにある居民委員会に勤めるようになった。一方、地元政府にとっては、村の事情を詳しく知っている宗族成員を採用すれば、村の人間関係が調整しやすくなる。それで、居民委員会や村民委員会には共産党員である書記や村人が職員となり、共に村落を管理するようになってきた。もちろん、村外出身者が居民委員会の職員なることも珍しくない。それは、村落に移住してきた外来移住者に与えた村落を共に管理する権利である。

近年、A村居民委員会は次第にA村に対する実質的な管理権を持つようになっていく。居民委員会の職員の多くは村民であり、依然として村落に居住しているが、定期的に共産党に関する教育、思想を受けなくてはならないようになっており、共産党員になることによって政府に対する忠誠心がさらに増すものと考えられている。

2.2 A村の改造とグラフィティ

A村を改造することは、前に言及した南海区の「三旧改造」政策（旧城鎮、旧工場、旧農村を対象に改造する）や「郷村振興」計画に関わっている。ただし、現在、中国の大多数の村落を改造するときに、居民委員会、村民委員会はよく、道路に面した民家の壁にグラフィティを描いている。グラフィティの起源について、松村は「何らかの構造物に人間が存在感を示すため描いたものの総称である。グラフィティがグラフィティであるための条件は、他人のまなざしを意識しているのか否か、誰かに何かを伝えようとしているか否かである」と指摘した [松村 2018 : 26]。社会に対する不満を表し、権威に挑戦することで流行り始めたグラフィティの発祥地である西洋と異なり、中国においてグラフィティを描く目的は、特色をピーアールすることだと思われる。

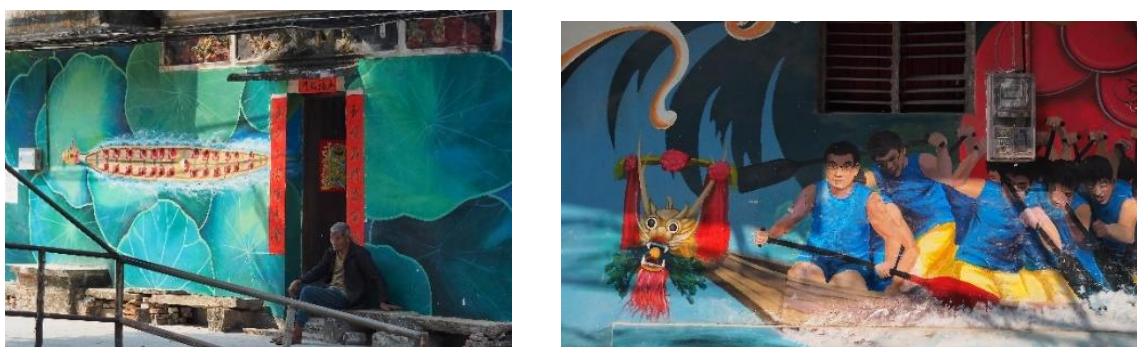
例えば、広東省において、ある恐竜の卵化石の遺跡が発見された村の街づくりを改造する方法の一つとは、民家の壁に恐竜に関するグラフィティを描くことである。しかし、大多数の村落は、村の歴史文化を代表するシンボルがないので、常に「嶺南文化」

⁶³皇権不下県：費孝通ら研究者は、「伝統的な中国社会では、県以下の行政村落が宗族や郷紳による自治が行われ、宗族のリーダーや郷紳が倫理（儒教）に基づいて村落集団を自己管理する」と指摘した。

に関するグラフィティ、あるいは、中国共産党、社会主義核心価値観などの内容を描くようになる。例えば、南海区のCH村においては、「嶺南文化」を代表する獅子舞い、龍舞等のモノが村民の民家の壁に描かれた。なぜ大多数の地元政府は、グラフィティという形で村を改造した証とするかという、それは一番目につく表現であると地元政府（居民委員会、村民委員会）の役人が言った。美術分野の研究者が指摘したように、「グラフィティアートはわかりやすく、郷土文化を融合した直感的な表現方式である。グラフィティアートは郷村振興計画の実施を促し、村民の生活環境を改善する役割を果たしている」[沈 2020：4]。実は、村落の改造計画は、街をきれいにすることだけでなく、村落のインフラ施設の改造も含まれている。従来、龍船競漕が開催されるその日に、河の水は「龍船水」と呼ばれる。「龍船水」に濡らされると、好運がもたらされるといふ民俗があった。しかし、工業発展のため、A村の河の水質が悪くなった。村民は子供の健康を理由として、龍船競漕に参加することを許さなくなった。近年、環境改善は仏山市、南海区政府にとって眼目となる任務である。区政府は産業転換に努めて、多くの工場を郊外へ移転させた。これによってA村の河を含む仏山市の水質がよくなった。龍船競漕の場所が抱える問題がある程度解決された。水質浄化によって、南海区の他の多くの村落でも龍船競漕という伝統行事が復活するかもしれない。

しかし、政府側としては、公費を使って下水道の改造、電力施設の改造、ゴミ問題の改善等を行ってきたが、その成果を直感的に表現できるグラフィティという手段でアピールしたいものと思われる（図9、10参照）。

図9、10 民家の壁に描かれたグラフィティ⁶⁴



四 龍船競漕をめぐる宗族側と地元政府側の関係

1 A村の学校における民俗文化カリキュラム

A村小学校、A村中学校は、政府の出資やA村香港同郷会の寄金で建てられた学校である。2009年、嶺南水郷文化環境や豊かな民俗文化に基づいて、A村中学校は、家庭—学校—コミュニティという「1+1+N」教育理念を提出し、「A村水郷の魅力」カリキュラムを設置した。このカリキュラムは、教科書という知識教育と課外活動という実践教育から構成されている。学生たちは、A村の歴史、龍船競漕文化、A村の他の伝統文化を習

⁶⁴図9、10の出典：2020年 筆者撮影

得できるだけでなく、身をもって龍船競漕を体験することもできるようになる。2009 年から 2021 年までの間に、学生、学生の両親、居民委員会関係者、村民などが集まり、獅子舞い、龍船競漕、武術、十番パフォーマンス（A 村の伝統的な歌謡）という豊富な郷土文化を含む諸活動に参加してきた⁶⁵。

2 A 村の龍船競漕に関する活動の開催

2017 年、「A 村カーブ龍船競漕大会」が仏山市の六番目の非物質文化遺産リストに登録された。2019 年、A 村の龍船競漕大会が中国の SNS で幅広い反響を呼んだ。ネットに載せられた写真から分かるように、河幅 5 メートルぐらいの小河で、漕ぎ手の選手が船体が非常に細い龍船に乗って懸命にパドルを漕ぐ。河の兩岸には、大勢の人が集まって各チームを応援する。その映像を見て、中国各地の多くの人々が、A 村の独特な龍船の操作技術であるドリフトに魅了されたのである。幅広い反響を呼んだ背景には A 村の戦略があると考えられる。それは、龍船競漕を A 村のブランドとして宣伝し、観光業を発展させるという方針である。一方で、A 村に暮らす人々、ないしは嶺南地方に暮らす人々に、伝統文化に対する「文化的自信」を呼び覚まさせるという方針も発展計画の一部になっている。

都市化が進行している A 村の発展について、地元政府は、新たな計画を作成した。水郷としての A 村と周りの都市とを融合させるために、まず A 村の水質レベルを改善することを決めた。そして、龍船競漕の知名度をアップさせ、周りの都市に暮らしている人々にも、龍船競漕の魅力を認識してもらえるようにした。A 村居民委員会の中には、文化宣伝部が設置されているので、A 村の龍船競漕を宣伝する責任も居民委員会が負うようになっている。WeChat の普及につれて、ウェブサイトのフォーラムは下火になった。居民委員会は、WeChat で「A 村龍船公式アカウント」を作成して運営し始めた。しかし、公式アカウントは「お知らせ」のようなものであるから、A 村の村民が交流できる場所が消えてしまったと考えられる（図 11 参照）。「A 村龍船公式アカウント」への投稿を見れば、大部分の内容はコミュニティ管理に関するお知らせである。エンターテインメントの不足は、Y さんが個人的に「A 村の龍船競漕アカウント」を運営する理由である。

コロナのせいで、2021 年に龍船競漕大会の開催が禁止された。その代わりに、「A 村の龍船競漕アカウント」では、龍船競漕文化に関するクイズ試合や記述問題試合が行われた（表 12、表 13 参照）。A 村村民全員がクイズ試合に参加することができる。この活動の主催者は、「A 村の龍船競漕アカウント」の運営者 Y さんである。スポンサー探し、クイズの出題も全部 Y さんが行った。

⁶⁵出典：A 村中学校の特色カリキュラム <<https://3g.163.com/ntes/article/GH9VT5JA04179HUN.html>> (参照：2020-10-02)

図 11 A 村の龍船競漕のフォーラムの討論⁶⁶

Z2さん：どうしてこのフォーラムのニュースはあまり更新されていないの？	2019-05-06
Tさん：みんなが忙しいのかもしれない…	2019-05-17
Z3さん：今 WeChat が流行っているから。最近、みんなは WeChat で DJ 村社区居民委員会が運営する公式アカウントで記事を読むようになっている。	2019-05-30

表 12 クイズ⁶⁷

1.	A 村の端午節で開催される世界唯一の活動は何ですか？
2.	2021 年まで、A 村の DS 村、TT 村、ST 村、CJ 村で龍船競漕カップが行われました。各村落で行われたのはそれぞれ何回目の龍船競漕カップだったのでしょうか？
3.	A 村初の女子龍船競漕は何年に開始されましたか？
4.	清末民初、A 村にはいくつの龍船がありましたか？
5.	A 村の龍船の龍頭は何の木材で彫られますか？
6.	2020 年の A 村龍船巡遊で、いくつの龍船が参加しましたか？
7.	ST 村の龍船観光楼はいつ建てられましたか？
8.	A 村のどの集落が一番広いですか？どの集落が一番狭いですか？
9.	石壁に衝突しないことを祈るために、何を龍船の龍頭あるいは龍尾に掛かるべきですか？
10.	龍船競漕チームには何人のメンバーから構成されますか？

表 13 記述問題（Y さんとスポンサー⁶⁸が出題する）⁶⁹

1.	いつ龍船競漕と出会いましたか？
2.	何の龍船競漕活動に参加しましたか？
3.	今まで一番印象深いことは何ですか？
4.	A 村の龍船競漕文化の核心は何だと考えていますか？
5.	どのような活動が A 村の龍船競漕文化の維持、継承に役立つと思いますか？
高い得点をもらった答え	
1.	われわれ 20 代、30 代の人々は、確かに A 村の龍船競漕文化の伝承を感じ

⁶⁶図 11 の出典：A 村の龍船競漕のフォーラム<<http://djlc.joinbbs.net/>>（参照 2020-05-02）

⁶⁷出典：「A 村龍船アカウント」（参照：2021-06-20）

⁶⁸クイズ試合の優勝者に景品を提供する企業

⁶⁹出典：「A 村龍船アカウント」（参照：2021-06-20）

	た。私の出生年月日はちょうどA村の新しい龍船が河に入った日であった。そのため、自分は新しい龍船と密接に関連していると感じている。現在、自分はよく弟に龍船競漕への参加を勧めている。家族の者が龍船競漕に出場できればこの上もない喜びである。ただし、地元政府が河の衛生状況を改善する必要があると考えている。
2.	父親の影響で、龍船競漕に触れるようになった。一番印象深い記憶は、チームメンバー全員と一緒に頑張って訓練することであった。A村の龍船競漕文化の核心とは、「宁可煲爛、不可扒慢 ⁷⁰ 」であると考えている。われわれA村村民は、龍船競漕文化の核心精神のように、困難に直面しても、前向きに突き進む。A村の龍船競漕を継承するためには、三つの要があると考えている。一つ目は、宣伝力を高めることである。できれば、広東省のテレビ局を誘って、龍船競漕を生放送してもらおう。二つ目は、A村の龍船競漕をブランド化して、様々な商品、お土産品を作り出すことである。また、定期的にコミュニティにおいて龍船競漕パフォーマンスを行い、観光客、外来移住者を引き付ける。三つ目は、小学校に龍船競漕コースを開設し、子供たちに小さな頃から龍船競漕の知識や技術を身に付けさせるようにすることである。

優勝者は龍船競漕文化Tシャツ、龍船型のキーホルダーなどの商品がもらえるが、物質的な褒美よりも、A村村民としての一体感が高まることに生きがいを感じているようだ。個人の日常活動のすべてが龍船競漕につながっており、生きていることの価値や願い、夢までも龍船競漕と結びついているようだ。村民の夢は、A村の龍船競漕をA村から世界へ広めていくことだと分かった（表13参照）。しかし、クイズに回答した人を見ると、外来移住者の参加率が低いということも分かった。

3 「A村小鎮」プロジェクト

地域開発は前の節で言及した「新型都市化」計画に関わっている。賈の研究で指摘されているように、「中央政府の『新型都市化』計画をみると、経済を牽引するための広大かつ長期的な政府による投資計画になっている。中国の『新型都市化』あるいは『都市農村一体化』に代表される政府の投資戦略は、基本的に大型インフラと大型の産業プロジェクトの方式で支えられている。例えば、『特色ある小さな鎮』の建設、『特色ある古い村落』の保護、または『撤鎮建市（鎮を廃して市に昇格させる）』計画などである」[賈、岡本 2018: 85]。

2021年7月、中国共産党中央弁公室、国務院弁公室が、『更なる非物質文化遺産を保護するタクスについてのコメント』を正式に公表した。中華文化を基礎に、非物質文化遺産を保護することで、人民に参与感、獲得感、一体感を増加させるという趣旨である。そのうちの第13、15、16条に、「非物質文化遺産を郷村振興計画につなげ、国民教

⁷⁰A村の龍舟競渡のスローガン。石壁に衝突しても、遅く漕いではいけないという意味である。

育体系に融合させ、非物質文化遺産が文化一体感の増加、国家統一の維持にとって十分に独特な役割を果たさせるように」と指摘した。この正式な指示が出る前から、仏山市南海区政府、A村地元政府は、すでに龍船競漕文化を観光業、政治的な教育、中華民族の伝統文化の復興計画と結び付けていた。

では、南海区における政府の投資戦略を代表する「A村小鎮」プロジェクトをみてみよう。

2020年、南海区共産党委員会第13期第9回全体会議において、南海区政府の区長は、「広東省の都市と農村を融合させる改革の試行を重要な任務とする」と指摘した。同時に、仏山市南海区政府は、南海区の都市と農村を融合させる改革の試行の重要なプロジェクト、すなわち、「A村小鎮」文化旅行プロジェクトを企画、発表した⁷¹。このプロジェクトは、浙江省の烏鎮観光地開発を参考にして仏山市南海区の観光開発を行おうとするものである。烏鎮とは、中国浙江省北部の嘉興市桐郷市烏鎮のことで、中国の南北を貫く大運河に面しており、古くからの、あるいは復元された江南の街並みが残る風光明媚なところで、「アジアのヴェネツィア」と呼ばれている⁷²。B区政府は行政村A傘下の全村を含めた4000ムー（ムー＝667平方メートル）を範囲に1000億元を投資し、観光地開発を行おうとしている。南海区区長は会議で、「水に恵まれたA村を、南海区政府が全力を挙げて百年は綿々と続く国家レベルの水をテーマにした観光地にし、全国の城郷融合（筆者注：都市農村の融合）の指標にする」と述べ、「南海区政府は広東省が進める城郷融合という重要な改革の実験地となることを目指している」と述べている⁷³。

「A村小鎮」プロジェクトでは、「観光客を引き付け、元からの住民を引き留める」ことを基本理念とし、「人間本位で、自然を大切に、歴史を掘り起こし、伝統文化を継承する」ことを企画の軸にし、「一核連両翼、一環貫五区」というスローガンを出した（表14参照）。

表14 スローガン「一核連両翼、一環貫五区」⁷⁴

一核	A村小鎮精神核（龍船競漕文化をコアとする）
両翼	都市開放（都市開発）軸と人文精神（ヒューマニズム）軸をプロジェクトの両翼とする
一環	水鎮漫游環（A村小鎮を貫く河によって五つのエリアを巡る）
五区	文化核心区（文化中心区）、 创意办公区（創意起業区）、

⁷¹出典：「南海区「A村小鎮」がこれから広東省文化観光産業のモデルを作る」『仏山日報』

<http://www.foshan.gov.cn/zwgk/zwtd/jryw/content/post_4501287.html>（参照：2020-09-23）

⁷²出典：「烏鎮」<<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E7%83%8F%E9%8E%AE>>（参照：2021-06-20）

⁷³出典：「対标烏鎮！南海文旅新地标，“叠水小镇”来了，超靚！」

<https://www.sohu.com/a/420396175_120053454>（参照：2020-09-23）

⁷⁴出典：「対标烏鎮！南海文旅新地标，“叠水小镇”来了，超靚！」

<https://www.sohu.com/a/420396175_120053454>（参照：2020-09-23）

	商旅配套区（商業旅行区）、 公共服务区（公共サービス区）、 配套居住区（居住区）
--	--

これは、A村小鎮を核（コア）として、都市開発とヒューマニズムをプロジェクトの両翼とすること、また、A村を流れる河が、文化中心区、創意起業区、商業旅行区、公共サービス区、居住区という五つのエリアをつないで流れるようにするというものである。なお、文化中心区には、「十番（伝統広東歌謡の一種）」や龍船競漕というA村の非物質文化遺産、婚礼の宴等の九つのテーマゾーンが設け、A村村民の郷愁を誘うとともに、観光客にエキゾチックな文化旅行体験を指せることを目論んでいる。

「A村小鎮」というプロジェクトについて、個人的には期待している。村落を都市化するが、村落全体を改造するわけではなく、一部を改造するだけであることは、このプロジェクトの革新的な概念であるから、自分は気に入っている。自分はやはりA村のスタイルが好きである。しかし、裏通りの家々がすごくぼろぼろであるから、改造しないと危ないだけでなく、観光客にも悪い印象を与える可能性がある。A村の河は非常に狭いが、河幅を広めることはできない。そのため、河の兩岸の道を広めるしかない。そうすると、龍船競漕大会の時、観光客が観賞しやすくなり、村民にも迷惑が掛からなくなる。また、プロジェクトには、村落の市場を改造してもらいたいと思う。A村の市場はすごく古くて、汚い。市場の現代的な改造がほしい。具体的には、現在の朝食専門店、理髪店、線香店、自転車店、漢方薬店などの店の外観を修繕して、さらにスターバックス、マクドナルドなどのような国際的な店舗を誘致すれば面白くなり、様々な人々をひきつけるようになる。

——A村のTT集落のインフォーマントTさん

しかし、残念なのは、この「A村小鎮」プロジェクトには、村民の参加はなさそうである。

このプロジェクトのことを、われわれはネットで初めて知った。確かに食古不化⁷⁵な村民を扱うことは難問である。（食古不化な村民とは何であるか筆者の問いに対し）つまり、補償金に満足しなかったり、補償金だけでなく新しい住居を要求したりする人、あるいはA村の商業化そのものを拒む人々がいる。しかし、私は開発業者や地元政府にはわれわれ村民の声を聴いてほしい。私たちの声を無視すれば、利益だけ優先され、村落の文化や景観を破壊する可能性があるかもしれない。また、監督機構がなければ、地元政府や開発業者の金の使い道を明らかに

⁷⁵『日中中日辞書』によると、昔の知識を学んでも現在の状況に応じて運用できないこと（参照：2021-06-26）

することができない。最後になって、金も故郷も記憶も居場所も全部なくなってしまったということにもなりかねない。（開発には）期待しながらも心配している。

——A 村の TT 集落のインフォーマント T さん

図 12、13

「A 村龍船アカウント」にて投稿された「A 村小鎮」プロジェクトの最新の情報⁷⁶



2021 年 11 月の月上旬に、「A 村龍船アカウント」には、「A 村小鎮」プロジェクトの最新の情報に関する文章が投稿された。内容からは、村民はこのプロジェクトをあまり評価していないことがわかった。「A 村龍船アカウント」が個人によって運営されるものであるから、村民のコメントの自由度は相対的に高い。「どうして AB 集落の文娛楼の外の牌坊（村落入口の門）を保存しないのですか？きれいなのに、保存してください」、「我々の故郷をどういうふうに改造するつもりですか？こんなふうにしないで、現在のままにしてください、お金を無駄にするな！」、「建物の従来の様子を保ってください」などの書き込みがコメント欄に見られる。一方、筆者は、「A 村龍船アカウント」の運営者、AB 村出身の Y さんに『A 村小鎮』プロジェクトの推進によって、村落の祠堂を解体され、再建する可能性があるか」と聞いた。「敢えて祠堂に「触れる」ような行為は許されないよ。祠堂を改造、再建しようとするなら、永遠に A 村で開発しないように」と答えた。もちろん、Y さんと村民たちは大げさに表現する傾向はあるが、彼らの答えから A 村宗族集団にとって祠堂という建物の重要性、A 村宗族集団の結束力、A 村の宗族文化の影響が見て取れると思う。

4 マスメディアに描き出された A 村の龍船競漕

2020 年、中国中央テレビ局は「郷土中国」と呼ばれるドキュメンタリー番組を製作し

⁷⁶出典：「叠滄老街大升级！一期预计明年完工！」（「A 村小鎮」プロジェクトについて）

<https://mp.weixin.qq.com/s/tHGoY3tok_go0FQ6yJpTtw>（参照：2021-10-26）

た。A 村の龍船競漕もドキュメンタリーの撮影対象とされた。ドキュメンタリーの内容を簡潔に述べると、大体二つの部分に分けられる。前半部分は、A 村の龍船競漕の歴史、日常的な訓練、漕ぎ手個人に対するインタビューなどから構成されている。後半部分は、A 村の龍船競漕を中華民族の伝統文化というレベルまで昇華した内容となっている。具体的な内容は、第四章で挙げながら分析するが、SNS にアップされたこのドキュメンタリーの映像をみると、A 村村民らしき人がドキュメンタリーの内容を批判する弾幕（動画 SNS の画面上で、その画面を覆い尽くすほどのコメント）がついていた。このことについて DF 集落の L さんは次のように語っている。

このドキュメンタリーは、ストーリー性を増やすために、真実を軽視している。DF 集落の活動を TT 村のものにしてしまっている。TT 集落の方が有名かもしれないが、このドキュメンタリーの多くの内容は「偽物」である。

——A 村の DF 集落のインフォーマント L さん

確かに、ドキュメンタリーの内容において、ストーリーの面白さ、見どころを増やすために、多くの内容を美化している傾向がある。これから地元政府が進めようとする「A 村小鎮」プロジェクトには、そういう「創られた文化」も少なくないかもしれない。それに対して、A 村村民はどういうふうに考えているのか考察しなければならないと思う。

2021 年、中国共産党の 100 周年記念を祝うために、南海区政府紀律監察組は龍船競漕と国家の党風廉政建設（清廉な政治を行う党風樹立）⁷⁷をつなげた。

南海区政府紀律監察組は A 村のカーブ龍船競漕に「清廉」の要素を見出した。共産党党员や公職につく人たちは、龍船競漕の精神を受け継ぐだけでなく、初心を忘れず、何事においても先陣を切り、辺境を畏敬し、常に清廉であらねばならない

⁷⁸。

——「A 村の龍船競漕公式アカウント」掲載の「『世界唯一』龍舟のドリフト技術」記事より

A 村の龍船競漕と廉潔政策をつなげたことは中国政府の愛国主義教育の強化と関係しているのかもしれないと考えている。一方、行政組織の末端（村落）まで政府の方針を浸透させるようにという意図も見える。

⁷⁷党風廉政建設：「新時代の党建設の全体的要請に従い、党の政治建設が統率する形で、『中央八項規定』及びその実施細則の精神に従い、全面的に厳格な党内統治の主体责任を履行し、党風廉政建設（清廉な政治を行う党風樹立）に力を入れ、望ましい精神と活動の状態を保つよう無数の党员・幹部を激励し、卓越した成果で建党 100 周年を祝う必要がある」と国家主席が指摘した

出典：「習近平総書記が中共中央政治局常務委員会会議主宰し、活動報告を受ける」

<<http://j.people.com.cn/n3/2021/0108/c94474-9807384.html>>（参照：2021-12-26）

⁷⁸出典：「A 村龍船公式アカウント」掲載の「世界唯一」龍舟のドリフト技術（参照：2021-02-16）

宗族に関する文化は、村の居民委員会や地元政府にとって、政策を推し進める道具である。政府から分かりにくい政策を直接宗族成員に広めることは難しい。そこで、居民委員会は宗族文化を利用して、軋轢や衝突を緩和させながら、ゆっくりと宗族成員に浸透するようにしている。また、景観人類学者の河合が指摘したように、外的景観とは、外部者の表象により政治経済的な目的でイメージされた景観を指し、内的景観とは、実際に生活するものの語り、名付け、記憶などにより浮かび上がる景観である〔河合 2013 : 22〕。2008 年以前、A 村の宗族集団にとって、彼らのシンボルは言うまでもなく宗族に関わる種々の物事であった。そして、2008 年以降は、地元政府（居民委員会）、漕ぎ手、テレビ局・メディア等により、繰り返し龍船競漕を特化させ、シンボル化させてきた。宗族成員、漕ぎ手にとって、龍船競漕は、宗族文化のシンボルである。地元政府にとっては、龍船競漕は、政策をよりよく推進していくための媒体であり、宗族成員と外来移住者を統合させる道具でもある。メディアにとっては、龍船競漕は、中華民族文化の多様性をあらわす事例として取材対象となるのである。このように、龍船競漕が宗族文化のシンボルとなっていく過程では、さまざまなアクターの思いが交差しているが、宗族文化には新たな意味付けと役割が付与され、龍船競漕を中心とする宗族文化の再構築が行われているといえる。

第四章 宗族の再構築とコミュニティの再統合

前の章では、龍船競漕を手がかりにして、都市化が進む珠江デルタにおける宗族文化の活性化の様子や宗族文化をめぐる宗族成員側と農村の改造、振興につなげたい地元政府や上級政府側との思惑のズレや緊張関係、また、外来移住者と宗族成員との関係について考察してきた。

この章では、宗族文化の活性化を生んだより大きな社会的変化を踏まえ、新たに生まれた宗族の政治的、経済的、文化的機能と宗族の再構築の動きについて述べたい。

一 宗族が果たす経済的・政治的・文化的機能と再構築

1 経済的機能——宗族集団の集団経済組織化

1.1 「新集団主義」について

新たに生まれた経済的機能は、宗族集団の結束力と祖先崇拜意識を強化させる傾向にある。従来の宗族研究では、族産がなければ宗族集団は維持できないとする研究者が多かった。建国後の土地改革により、宗族集団の私有地が政府によって収用され、国家所有制ないしは集団所有制になった。その後、改革開放により、農村部では生産責任制が実施され、農民に土地の使用権が認められるようになった。そうしたなかで、本稿で扱っている仏山市南海区では、さらに宗族ごとに集団経済組織を設立し、成員各自の土地使用権を束にして運用するようになっている。このような集団経済組織とは、いわば族産の現代版とも言えるものである。しかし、近年、都市建設の範囲の拡大、商業地区や大規模住宅団地、公共施設などの都市開発の需要に伴い、多くの宗族村落が政府によって土地を収用されるようになった。一般的に、土地収用に対し、政府は村民に補償金を

支払ったり、新たな住居を提供しているが、珠江デルタ地域の宗族集団の中には、リーダーたちが長期的な展望に立って、宗族集団の利益を守るべく政府と交渉するようになっている。

例えば、広州市の中心的な商業地区にあるC村は、30年前は雑姓村の宗族村落であったが、現在のC村は、東部を村民の移転後の居住地とし、北部を国有地に転換させ、その土地売却費がC村村民への補償金となった。南部の土地は村落の集団経済組織の用地とした。また、再建されたC村の祠堂群には他の嶺南民俗文化も加え、嶺南民俗の景観公園となった。要するに、全部の土地を政府、開発業者に売るのではなく、最終的には、政府側は都市開発計画を実施できるし、開発業者はまとまった土地を購入して開発できるし、村民は補償金と新しい住まい、そして集団化した土地の使用権を行使できるというように、全員が利益を享受できるようになった[袁、卢 2011]。現在、多くの村落では、政府に土地を収用される際には、補償金、新たな住まい、使用権を行使できる集団化した土地の保有という三つ条件を政府側に要求するようになっている。

もう一つの例は深圳の文氏宗族である。ワトソンが『移民と宗族』の中で新田文氏宗族の事例を論じたが、実は、中国本土の深圳には、文氏宗族の分節（新田文氏は文天祥の弟・文天瑞の子孫であり、深圳文氏は文天瑞の第五世の子孫である）が居住している。深圳の都市開発に伴い、深圳文氏の村落は土地を収用され、村民は補償金のほかに、新たな住居も提供された。その時、一番高い補償金（1200 万元）を得たのが「釘子戸⁷⁹」だったので、人々を驚かせた。宗族集団の運命は、宗族が所在する地域によっても異なっていることが分かった。

このように、経済的な共通利益を基盤として、宗族集団の凝集性が再び高まっている。表面的には、20 世紀 50 年代の土地改革による宗族の族産の消失、21 世紀に入ってから急激な農村の都市化（土地収用と移住）による宗族成員の分散現象が見られるようになった。しかし、少なくとも珠江デルタ地域では、宗族集団は新たな生産方式を採用ことによって、自集団の共有財産、共同利益を生み出している。そして、集団経済組織の成員であることは集団経済組織といういわば株式会社の株主であり、宗族成員としての帰属意識も強化されるようになっている。村民がもらえる配当金の多寡は、村落の位置づけ、政府の開発計画や村落の土地の価値によって決まってくる。土地収用に伴う補償金や補償条件もより良いものを勝ち取れば勝ち取るほど、その宗族集団、集団経済組織の結束力は強化され、引いては祖先崇拜もより重視される傾向にある。例えば、C村の再建された祠堂では、開基祖の移住史、当該地域の風水学上の良さが強調される。なぜならば、開基祖がこの良き風水の場所を選ばなければ、今の宗族集団の豊かな生活もないからである。それで、祠堂では祖先への感謝の気持ちを述べるとともに、祖先にこれからも宗族集団を守り、繁栄していけるようお願い続けるのである。

宗族文化と現代的な経済改革とが融合した集団経済組織は、宗族集団を時代遅れのものにさせないようにした。仏山市南海区を調査した王は、新集団主義は中国農村社会の

⁷⁹『webllo 中国語』によると、立ち退きに応じないでごねててこずらせる住人のこと

出典：<<https://cjic.webllo.jp/content/釘子戸>>（参照：2021-04-27）

構造に影響を与えたとしている。具体的にいえば、地域性あるいはコミュニティの集団文化（中国語：圈子文化）を強化し、集団内部の成員は、血縁関係によって結ばれているというよりは、経済的利益関係によっても結ばれた「擬似家族団体コネクション」が形成されたとしている〔王 1996〕。新たな経済的基盤は宗族集団の持続と拡大にとって重要な要素となっているが、この点について、昔は、ある宗族成員が外部の者に自分の宗族集団を誇るときに、当該宗族集団の規模や所有する田畑の広さ、海外に在住する宗族成員の人数等を強調したが、現在は、宗族成員が新たな面識を得る相手と挨拶する際、以下のようなやりとりをしている。

「私の親戚の一人は、〇〇村に暮らしています。」

「え！〇〇村ですか？すごい。その村って、毎年一人当たり一万元の配当金があると聞きました。本当ですか？」

「そうですけど、親戚の隣村では、一人当たり二万元もらえると聞きました。羨ましいです。隣村に嫁げば、これから一生、仕事をしなくても問題はないわ。」

——A 村の JT 集落における祠堂で雑談しているおばあさんたちより

このような集団経済組織を可能にしたのは、1992 年からできた「農村株式合作制度」という制度である。この制度で重要になってくるのは成員資格の認定、確認である。南海区の政策によると、集団経済組織の成員身分の取得には、原始取得⁸⁰、法定取得⁸¹や吸納取得⁸²という三つの種類がある。成員資格に関する紛争を解決するために、これまでに「生不増，死不減（新生児が生まれても（成員）株を増やさず、亡くなった人がいても株を減らさない）」、「生増，死不減（新生児が生まれると株を増やし、亡くなった人がいても株を減らさない）」、「生増，死減（新生児が生まれると株を増やし、亡くなった人がいると株を減らす）」などの方法が試されたが、いずれも紛争の解決には至らなかった。その後、亡くなった人や新生児、三元化コミュニティの各集団に属する人々の利益を配慮して、南海区政府は「確権到戸，戸内共享，社内流転，長久不変⁸³」、「家庭内部の株数の均等化」を提唱する改革政策打ち出した。そして、個々の村民の株の管理は集

⁸⁰原始取得：①戸籍がずっと当該集団経済組織の所在地にある人、②在学、兵役、服役期間中、戸籍を当該集団経済組織から転出した人、③生まれた時合法的に引き取られた時から、集団経済組織成員である父母のいずれかに付いて入籍し、これまで転出したことがない人、④2004 年 6 月 30 日までに、元の村に戸籍を戻した人（合法的に出生したか養子とした子どもを含む）、⑤農村集団経済組織成員の資格に符合する婚出した女性とその子どもたち、が成員資格を取得できる範疇〔慕、陈、陈 2018〕

⁸¹法定取得：①所在地に入籍した農村集団経済組織男性成員の妻（初婚）、②一人娘の家庭の入り婿（結婚時に「農村戸籍」であること）、③下放青年など歴史的要因で未解決のままにある人で、集団経済組織の成員株を購入できる人、が取得できる範疇〔慕、陈、陈 2018〕

⁸²吸納取得：成員大会で民主的な投票によって成員資格の取得が認められる範疇〔慕、陈、陈 2018〕

⁸³「確権到戸，戸内共享，社内流転，長久不変」：家庭を単位として株を配布するが、家庭内の人口増減を問わず、株数は不変である。家族成員間での株のやり取りを認める。集団経済組織内部限定で株の売買を認める。この政策は長期間にわたって不変である。

団経済組織が担うことになった。

南海区のXB村を例に具体的に見てみよう。ある家庭に五人の成員がいるとすると、この家庭は合計25株を所有していることになる。このうち一人当たり3株は固定して保有し続け、残りの10株は同じ集団経済組織の他の成員に売ることができる。ただし、各村民の最低限の生活を保障するために、配当金がなくても生活できる場合しか株を売ることができない[舒、尹、黎 2014:126]。なお、近年、集団経済組織の余剰の土地を市場化してもよいという改革も行われている。「特定の人々」(婚出した女性、勉学や軍隊に入隊したために戸籍を転出した人)は、一回の出資で成員株を購入できるが、大部分の外来移住者はこの特殊な人々に属さない。今後村落の集団経済組織が市場化するとしても、「他者」である外来移住者は排除され続けるものと思われる。

南海区における集団経済組織のこのような土地利用からは、従来のような農村と都市、伝統と現代、後進的と先進的というような二項対立的な考え方では農村や宗族を理解できなくなっている。なぜ南海区の土地改革はこういう形で行われてきたかという、村民の結束力、宗族の凝集性が強いからであると考ええる。中国北方など他の地域の分散型村落の場合ならば、結束して政府に権利を訴え、政府に譲歩させ、政府、開発業者、村民の三者がともに利益に与えることは難しい。なお、南海区の集団経済組織は、株主である村民の最低限の生活保障を確保したり、現代的な方法で集団の利益を保護、拡大したり、身分が曖昧であるが、集団の一員であることが認められる人々にも株を購入する機会、集団に加入する機会を提供している。

1.2 観光業によって得られる新たな経済的利益

一方、A村の事例をみると、将来A村村民が得られる経済的利益は、「A村小鎮」という観光地からもたされると思われる。観光地から得られる利益は主に二つの部分からなる。一つ目は、政府や開発業者からA村村民に支払われる補償金、賃金そして就職機会である。二つ目は、政府や開発業者から譲り受けた個人による観光地での小売業を営む権利である。例えば、民宿、お土産店舗などである。A村の村民が観光開発から利益を得て、豊かになれば、転出していったより多くのA村の元住民たちが再びA村に転入することが推測される。それで、珠江デルタの宗族成員の「帰属意識」は、宗族集団が所有する土地資源から得られる利益の有無によって持続されると考えている。

2 政治的機能——宗族成員間の自治

宗族集団の自治的性格は、血縁集団に対する責任感や知り合い社会による行動様式の監督に影響されていると考えている。現在、中央政府は末端行政の村落まで管理するようになった。しかし、宗族集団の自治的な性格は、村落の人間関係の維持、国家権力、法律が調整できない「家事(家庭内部の揉め事)」の解決に役割を果たしているといえる。

2.1 血縁集団に対する責任感

「皇権不下県」について、秦暉は「皇権不下県、県下唯宗族、宗族皆自治、自治靠倫

理、倫理造郷紳」のように続けている。日本語に訳すと、国の権限は県以下に届かず、県以下の統治は宗族に頼っている。宗族はみな自治的組織であり、自治は倫理によって支えられており、その倫理によって郷紳が生まれている。王朝時代の中国では、「皇權統治」と「官權・紳權・宗權共治」による現地空間の重層化現象がみられ、中央と地方との関係は「集權の中の分權」、「分權の中の集權」という循環がみられると陳、森田が指摘した〔陳、森田 2009 : 38〕。中国の中央権力と地方権力との関係は、シーソーのようなバランス関係だと考えられる。国家権力が強ければ強いほど、地方権力が弱まる。建国後、中央権力が末端行政まで浸透し、県以下の村落の自治権が大変弱体化したということは誰もが認めている事実である。一方、封建文化と定義された宗族の管理方式は現代の法治の推進を妨げるものである。地域宗族の権力の拡大を放任すれば、中央政府の管理にとって脅威となる。それで、中国の多くの研究者は、中国の現代化を実現するためには、宗族のような文化を改造、あるいは消滅させねばならないと考えている。筆者の宗族文化に対する見方は、その良し悪しを論じ、持続させるべきかどうかを判断するものではない。本稿の目的は、宗族文化あるいは変容している宗族文化が、中国社会に何か役割を果たしているのかどうか、もし果たしているとしたらどのような役割を果たしているのかを考察することである。宗族文化の中の自治的な性格は地方管理、国家管理に影響を与えていると考えている研究者もいる。そして、宗族自治の核心は、血縁に基づいて、家庭、集団、祖先に対して責任を持つという精神であるとしている〔白 2019〕。

2021 年、世界各地と同じく、南海区も新型コロナウイルスと戦わなければならなくなった。ちょうど端午節前後であったものの、コロナ禍のために、龍船競漕大会は中止になった。A 村の龍船の漕ぎ手は、自発的にボランティア団体を作った。彼らは自分の村の入口付近でテントを立てて、村民の体温を測ったり、人の出入りの管理に協力したりした。その時、ボランティア団体は、自らを村落を守るガードマンに譬えた。こうしたことから、現在の A 村にとって、各龍船チームは各宗族集団を代表していることが分かる。

2.2 個人と国家との間の仲介機能

多くの研究者が、宗族文化を「後進的」なものと見なす最も重要な要素とは、その「情理を重視し、法理を軽視する」という特性である。一方、宗族集団内部の秩序が数百年も持続し、調和がとれている原因は、その自治能力に関わっていると指摘する学者も多い。宗族文化は、本当に法治、公民等を代表する「現代文明」に矛盾する「後進的」なものなのであろうか。

国家は、地方管理の方針、様々な政策を下すが、実行する主体は居民委員会や個人である。もしも個人が宗族集団、コミュニティに対する責任感を持たず、自発的に集団、コミュニティの秩序を守らなければ、国家の方針や政策を推進していくことは難しくなると考えている。血縁関係は依然として中国人社会の最も基礎的なものである。そのため、血縁集団に対し責任を持つ性格は、大多数の中国人の行動様式に表れている。まさに白が指摘し

たように、宗族社会において、各家庭はまず祖先に、宗族に責任を負い、それから、国家に責任を負う。つまり、農村部においては、村民、宗族成員である個人と国家との間にあって、宗族文化が「情理」と「法理」とのバランスをうまくとれるものならば、自治機能を有する宗族集団が仲介的機能を果たし得ると考えている。

2.3 多元化コミュニティの社会統合と宗族集団

中国の社会構造を研究した費孝通は、かつて中国の郷土社会における人間関係について「差序格局」という概念を提示したことがある。それによると、「中国における自己を中心とするような社会関係は、石ころを水に投げ込んで現れた水面の波紋のように、同心円的に広がっていき、次第に遠くなっていく」というものである〔費 1991: 29〕。宗族はまさにこの中心点に近い同心円にあり、宗族が持つ自治機能の淵源にもなっていると言える。従来、宗族集団は「熟人社会（知り合い社会）」として、成員の行動様式を律していた。宗族成員の行動様式を律したのは、村落の知り合いからの「監督」、族譜から除名される「罰」等である。ワトソンが『移民と宗族』で言及した文氏宗族の事例からも分かるように、宗族成員間の経済的活動の秩序を守るために、借金の踏み倒しとか、違約とか、詐欺などの行為をした宗族成員は宗族集団から追放され、族譜から除名される。すなわち、宗族集団には法理がある。

しかし、改革開放以降、大量の外来移住者の流入につれて、村落の「熟人社会」は崩壊しつつある。仮住まいする外来移住者は、原則として村落の慣習法に縛られず、地元政府に管理されないため、外来移住者の行動様式を拘束することは難しい。宗族内部の秩序は「情理」を基礎とする「法理」である。しかし、宗族集団の法理は当該宗族集団内でしか適用できない。宗族集団を離れれば、拘束力がなくなる。宗族内部の「法律」は族譜に書かれていたり、口頭で伝えられたりする。市場主義経済の下、個人は正式な契約によって拘束されるが、法律で書かれていないグレーゾーンにおいて、情理上の拘束がないので、利益を得るために相手を侵す人々が多くなっている。これは、まさに「半熟人社会」や「原子化社会」ゆえの社会危機である。居民委員会にとって今最も重要なことは、龍船競漕のような宗族文化を活用し、多元化した地元コミュニティの人間関係やつながりを見直し、再構築することであるが、社会統合を図るうえで、宗族集団の自治機能と排他性との間でどう折り合いをつけるかが課題になろう。この点については今後も注視していきたい。

3 文化的機能——より広い郷土文化として

3.1 集合的記憶と帰るべき故郷の創造

まず、「南海精神」を見てみよう。「南海精神」は三つの部分から構成され、それぞれは①海納百川という包容精神（海のように受容性に富む——「南海」に関連する）、②敢為人先という有為精神（勇気をもって取り組む——戊戌変法のリーダー康有為に関連する）、③団結奮発という龍獅精神（一丸となって突き進む——龍舟競渡、獅子舞いに関連する）である。「南海精神」は、2005年に市区政府によって初めてまとめられた。南海区区長によると、「南海精神」は、南海人の実践から抽出され、南海の歴史、現在の南海、未来の

南海を代表する市民の性格である⁸⁴。「南海精神」は、政府によって、地域の民俗文化、伝統文化から地域的な性格を練り上げたものである。そして、こういう地域の性格を三元化、ないし多元化コミュニティに適用して、当該地域、地元出身者、外来移住者を問わず、住民の身体、行動様式を規律化させようとしている。仏山市南海区の住民は、繰り返し強調されるなかで、南海人としてのアイデンティティ、集合的記憶を形成するようになるものと思われる。龍船競漕文化は、正に仏山市南海区の伝統文化として、南海人の郷愁を誘うモノと言えよう。

今年の端午節に、A 村の「龍船競漕」は学習強国アプリ⁸⁵に投稿された。河で龍船を漕がせることで、「同舟共済、齊心協力⁸⁶」の精神が十分に発揮された。……龍船競漕活動は、南海人が鉄筋コンクリートばかりの都市の中において、郷愁を誘う最適なものとなった。賑やかな活動で、人々の都市発展の中で閑却されたアイデンティティを蘇らせた。これは、まさに、都市の中の温かみの表れである。

龍船競漕が終わった後の活動は「龍船出海」である。これは、農耕時代において、九江人（南海区の行政村の一つで、仏山市の龍船競漕の発祥地だと考えられている）は農作物が順調に成長できるようにと、風雨の順調を祈るときに行う活動だと思われる。ただし、龍船競漕は、農耕時代の雨乞い、龍に対する民俗信仰の表象だけでなく、他の多くの精神が付与されている。

例えば、漁船で商いを行っていた九江人にとって、河で商売する時に知り合った人々が友人となる。そして、血縁関係のない友人とさらに関係を深めるために、義理の兄弟関係を結ぶ。この習俗が基になって、現在、多くの龍船競漕活動を行っている村落間では、義理の兄弟関係を保っている。龍船競漕活動を行うホスト村落は、義理の兄弟村落関係にある村の人たちを誘って、村で食事会を楽しむ習俗がある。そのため、龍船競漕活動は、血縁集団、擬制親族集団、本土と海外の親族集団の結節点となっている。

南海区九江鎮には、400 年を超える古い龍船が保存されている。南海の龍船は数百年の歴史を経験してきた。しかし、何といても、南海龍船は、南海人のように強靱で、困難に直面しても、自発的に変容しながら新しい姿で生き抜いていく。龍船競漕

⁸⁴出典：「南海致力弘扬“南海精神”」<<http://news.sohu.com/20050519/n225623600.shtml>>（参照：2021-10-27）

⁸⁵中国共産党中央宣伝部が主管して、中国共産党中央委員会総書記習近平の講話と習近平による新時代の中国の特色ある社会主義思想を主な内容とする教育プラットフォーム

出典：学習強国<<https://ja.wikipedia.org/wiki/学習強国>>（参照：2021-10-16）

⁸⁶同舟共済、齊心協力：同じ舟に乗って河を渡る時、大風が吹いて来ると互いに助け合い、一致協力して難関を切り抜ける。

出典：同舟共済<<https://cjjc.weblio.jp/content/同舟共済>>（参照：2021-05-26）

は、南海人にとって共有の記憶である。

——「扒龙船——南海人守望乡愁的文化认同（龍船競漕——南海人は郷愁の文化的アイデンティティを守っている）⁸⁷」

この記事からみると、龍船競漕文化がいかに南海人の郷愁を誘うものかがわかった。長い歴史を持つ龍船競漕は、農耕時代における伝統的な民俗信仰である。現在、珠江デルタの大多数の村落はすでに農業生産に頼らなくなっている。しかし、農耕文明の性格が依然として骨の髄に刻まれている。また、昔から祖先は漁船を使って商売を行い、他の宗族集団の祖先と付き合っており、各地域の宗族集団、村落の間には、義理の兄弟関係が結ばれてきたという歴史がある。そして、「漕ぎ手たちが一丸となって困難に立ち向かい、より速く漕げ」という南海精神が南海人の共有の記憶であり、南海人のアイデンティティを作り出した。龍船競漕があるところが南海人にとっての故郷だと言えよう。

都市化の進展に伴い、多くの農民は農村から立ち退いていった。彼らにとっての帰るべき故郷や郷土の文化が消えつつある。「故郷を離れ、数十年にわたって、勤勉に働いて仏山市に莫大な経済発展、労働力をもたらした。しかし、ここの地元の住民は、働いてなくても貸し出した土地から得られる配当金がある。お金を儲けて故郷に戻りたいが、故郷がすでに改造され、帰りづらくなっている」という話は、仏山市で生活している外来移住者からよく聞こえてくる。つまり、三元化コミュニティの社会統合のためには、ここで生活している外来移住者にも仏山市南海区を故郷と思ってもらえる必要がある。そのことによって三元化社会の安定を実現させることができるのである。

なぜ A 村に暮らし続けている宗族の人々の間に強いつながりを形成したかという点、前に言及した集団経済のためだけでなく、彼らは生まれてから龍船競漕に関する集合的記憶を共有しているからである。A 村の龍船競漕文化は、宗族文化、伝統文化、地域文化という三つのカテゴリーが重なった文化である。しかし、宗族文化として宣伝すれば、宗族成員しか共有できない。広東歌謡を宣伝しても、龍船競漕のような一丸となる精神は生まれない。そこで、地元政府は、伝統文化と地域文化という方面から、龍船競漕文化を再構築してきた。地元政府が主導する「郷村振興計画」の実施で、村落の民家の壁にグラフィティを描くことはすでに前の章で言及した。A 村の民家の壁に描かれたのは、A 村の龍船競漕大会の数々の場面である。毎日、繰り返して河沿いの道を行きかう際に民家の壁に描かれた龍船競漕のグラフィティを見ることになる。それで、龍船競漕に参加する機会がない外来移住者も、龍船競漕文化の重要性和試合の雰囲気を感じることができるようになる。一方、A 村に暮らしていない宗族成員も、A 村に戻るたびに、龍船競漕に関する記憶を呼び覚まされるようになる。グラフィティが描かれたことにより、龍船競漕が A 村のシンボルだという認識と記憶が強化されるようになったと思う。筆者の希望的観測かもしれない。

⁸⁷出典：「扒龙船——南海人守望乡愁的文化认同」（龍船競漕——南海人は郷愁の文化的アイデンティティを守っている）

<<https://nanhaitoday.com/nhxww/articles/2019/06/13/a9164d4b0fd24c12a6ca984966ac88e7.html>>

（参照 2021-10-24）

ないが、やがて龍船競漕が三元化コミュニティA村の集合的記憶となり、A村が宗族成員、外来移住者、都市民すべての居住者にとっての「故郷」となることを願っている。

3.2 愛国主義教育の一環としての新たな意味づけ

「南雄珠璣巷伝承」によると、広東、香港に暮らしている大多数の宗族集団の祖先は、中原から広東省北部の南雄に移住してきて、その後、戦争のため再び南下し、広東省の各地に分散して定住し始めた。そのため、南雄珠璣巷は、「広東始祖」の居住地として、広東、香港本地の宗族集団が自分の祖先の出自、由緒をたどる根拠地である[瀬川 2008]。改革開放以降、香港、珠江デルタの宗族集団、宗親会や地元政府は、南雄珠璣巷において、大規模な歴史公園を建てた。南雄珠璣巷の諸宗族集団の中に、鄧小平などのような新中国建設に貢献した人物もいることから、南雄珠璣巷は絶好の愛国主義教育拠点となった。南雄珠璣巷は、文化面で、祖先の出自をたどる手がかりとなったり、愛国主義教育という機能を果たしているといえる[瀬川 2008、2012]。

A村の龍船競漕がいま果たしている文化的機能は、南雄珠璣巷のそれに似ている。宗族文化は、本来はA村の宗族集団しか共有できない文化、記憶であるが、伝統文化とされる宗族文化の一部の龍船競漕は、様々な人々と共有できる文化だと考えている。仏山市政府、中央政府は政治的イデオロギー、例えば、愛国主義教育、社会主義教育、国家主席の思想などをA村の龍船競漕文化に関する紹介に加わえている。

A村の龍船競漕は、歴史的な変革下における人文主義的な心遣いと奮闘精神を表し、嶺南文化を発展させ、永続させることに貢献している。龍船競漕において、漕ぎ手（宗族成員）が体現しているのは、まさに中華民族の求心力と凝集力である。龍船競漕において、チームメンバーが一致団結し、互いに競い合い、尊敬し合っている。中国の伝統的な民俗活動を継承、発展させながら、同時に友愛、奮闘の精神、進取の気性、力を合わせて戦う心を表している⁸⁸。

——「郷土中国——世界唯一の龍船競漕」ドキュメンタリーの結語

「郷土中国——世界唯一の龍船競漕」ドキュメンタリーの放送に伴い、南海区政府はこのドキュメンタリーの内容をWeChatにおける区政府の公式アカウントに転載し、A村の龍船競漕と嶺南の記憶、愛国主義教育、社会主義教育をつなげた文章を掲載した。では、その文章⁸⁹をみてみよう。

順調にカーブを曲がり、レースを完走できるのは、絶対に漕ぎ手の中の「好漢（豪傑）」である。

⁸⁸ 出典：A村のWeChat公式アカウントに掲載されたドキュメンタリー『扒龙船』（参照 2021-02-16）

⁸⁹ 出典：「爆红的叠滔龙船，进击的南海精神」<https://www.thepaper.cn/newsDetail_forward_8053200>（参照：2021-11-01）

南海区 A 村は、「中国における龍船競漕競技の故郷」として、そのスピードにおいてすでに輝かしい成績をおさめており、その難易度においてドリフト技術の妙技を世界に知らしめている。

典型的な嶺南水郷として、A 村であれ、南海区であれ、龍船は現地の人々の骨に刻まれた文化的なシンボルであり、精神的なトーテムである。「団結一致、知難而進、奮勇当先（一丸となり、困難と知りながら進んでやる、勇躍先頭に立つ）」という龍船競漕の精神は、A 村の人々によってその極致まで高められた。この龍船競漕の精神は、南海区の「有為精神⁹⁰」という区のイデオロギーと合致している。

南海区九江鎮には、400 年を超えた古い龍船が保存されている。南海の龍船は数百年の歴史、いろいろな困難を経験した。しかし、なんといっても、南海龍船は、南海人のように強靱で、困難に直面しても、自発的に変容しながら新しい姿で生きていく。

KB さんは数年にわたって香港に在住した。2019 年、初めて A 村の龍船競漕大会に参加した KB さんは、記者たちにビデオを送った。「私は今日、龍船競漕に参加した。太鼓を打っているのは私だよ！郷愁はもっとも重要なものであると思う」

——「扒龙船——南海人守望乡愁的文化认同（龍船競漕——南海人は郷愁、アイデンティティを守っている）⁹¹」

「我々は、ドリフトすらできる A 村の龍船競漕から、南海区の人々はいかなることもできるのではないかと期待する」ということばを結語としており、このことから、A 村の龍船競漕文化は南海区のイデオロギーに、さらには国家イデオロギーにまで昇華していると言える。

これらの記事からみると、龍船競漕には多様な意味づけがされるようになった。とくに KB さんの話は、瀬川が執筆した「南雄珠璣巷伝承」の事例に類似すると言える。「このような宗親会組織の本土回帰は、明らかに 1997 年の香港の本土復帰という政治的なイベントと関わりをもっている。…さらに香港の本土復帰という歴史的な出来事に際し、宗親会は香港宗親と母村地域の宗族を包括する組織の形成を模索することを通じて、香港という存在を社会的に本土へと再統合するためのひとつの回路を提供した」と瀬川が指摘している[瀬川 20012]。香港在住者の KB さんは A 村の宗族村落と親族関係を持っているから、

⁹⁰有為精神の「有為」は、戊戌変法のリーダーの一人、康有為を指す。康有為は、南海区出身である。康有為と代表する有為精神は、南海区精神の精髓である。敢えて人々の先頭に立ってやる有為精神の核心は、変化を求め、真実を求め、発展を求めることである。

出典：<<http://www.fsonline.com.cn/p/271331.html>>（参照：2021-11-01）

⁹¹出典：「扒龙船——南海人守望乡愁的文化认同」（龍船競漕——南海人は郷愁、アイデンティティを守っている）

<<https://nanhaitoday.com/nhxww/articles/2019/06/13/a9164d4b0fd24c12a6ca984966ac88e7.html>>

（参照：2021-10-24）

宗族集落を代表して龍船競漕に参加した。KB さんの報道からは、香港在住者は香港と中国本土との統合を望み、中国本土の人々も彼らとの統合を望んでいるというメッセージが伝わってくる。

3.3 観光資源化

小林は、中国福建省において、観光資源化された客家土楼を事例として、メディアと「伝統文化」との関係を論じた。具体的に言えば、「福建土楼」は世界文化遺産に登録されたが、メディアは、現地の文脈から離れ、新たな民俗知識、伝統文化を創生する傾向にあるという [小林 2021 : 77-94]。筆者は、小林の論から、資源化の過程においては、①地元住民の意向が忠実に反映されるとは限らないこと、②現地の民俗知識が適切な形で文化遺産として登録されるわけでないことに気付いた。3.1、3.2 で述べたように、南海区でもメディアは龍船競漕文化の意義を国家の政策やイデオロギーに沿う形で「豊富」にしていることわかった。

「A 村小鎮」プロジェクトによると、A 村の多くの伝統文化を観光客に見せるパフォーマンスの項目としていく計画だが、A 村の伝統文化に属さないものもパフォーマンスに入るようである。「A 村小鎮」観光地には、嶺南水郷、嶺南文化に関するエリアが設置されるため、A 村の龍船競漕文化だけでなく、嶺南文化に属する演劇、獅子舞などの伝統文化も披露される。そのため、メディア、政府は A 村の龍船競漕文化、宗族文化などの伝統文化を南海区や仏山市のローカルな文化としてではなく、嶺南文化という上位文化の一部として宣伝しようとしている。前の章で言及した AB 村の牌坊の再建事件（元通りに忠実に再建しなかった事件）で、政府、開発業者はあまり A 村の地域文化、伝統文化に忠実ではなく、村民の本音に耳を傾けていなかったことが分かった。しかし、村民の抵抗は、個人運営の WeChat アカウントで文句を言うことしかできなかった。しかし、「A 村小鎮」は、まだ計画段階にあるので、本論文で詳しく論じることはいできないが、今後、A 村村民がどういう形で村落の伝統文化、民俗文化の真正性を守っていくのか注視していきたい。

4 社会福祉的機能——高齢社会への対応

中国には「養兒防老、積谷防飢（子供を育てるのは老後に備えるためであり、穀物を貯蔵するのは飢饉に備えるためである⁹²）」ということわざがあるが、中国人にとって老後の備えが子供を育てる目的の一つであった。伝統社会において、人々が宗族集団を頼った理由は、宗族集団の相互扶助という不文律である。配偶者がなくなった人とか、両親がいなくなった子供とか、扶養者がなく年を取った人とかは生活が苦しいときに、宗族集団から援助がもらえる。建国前、A 村の宗族集団のお金持ちは多くの福祉施設を建て、宗族成員の弱者に福祉援助を与えた [孔 2006 : 56]。

一人っ子政策のため、現在中国の家庭構造は、四人の祖父母、二人の父母と一人の若者から構成されていることが多い。子供時代から甘やかされる若者は、個人の利益、気

⁹²出典：『白水社 中国語辞典』 <<https://cjjc.weblio.jp/content/养儿防老, 积谷防饥>>（参照：2021-06-22）

持ちを追求しすぎ、親戚、家族関係の維持に関心を持たず、「モラル低下の個体」となりつつあると考えられている。一方、農業生産から脱した宗族の若者は、都会において生活することに慣れていて、どんどん宗族村落から都市へ移住していった。伝統的な宗族村落は「空洞化」しつつあり、残されたお年寄りが、同じ村落に暮らす大規模な外来移住者に対して、マイノリティとなっている。しかし、珠江デルタの集団経済組織のお年寄りは、他のところのお年寄りと比べ、豊かな生活を送っていることが分かった。集団経済組織の成員は、集団経済組織の株を持っていて、亡くなるまで毎年配当金がもらえる。

なお、珠江デルタの宗族集団のお年寄り同士は依然として村落に定住している。集まり住む習慣のため、毎日馴染み深い親友、友達と楽しんで生活できる。そのため、多くのお年寄りは、若者について都市へ移住していくことを拒む傾向にある。20 世紀の 80 年代以降、祠堂という宗族集団の公共的な場所が再開され、再利用されるようになると、宗族のお年寄りにとっては格好の「居場所」になっていった。現在、珠江デルタにおける多くの宗族村落の祠堂は、娛樂室という役割を果たしている。定期的に祖先の位牌に線香を上げる以外、お年寄りは普段、祠堂に集まって新聞や図書を閲覧したり、雑談したり、運動したり、マージャンをしたりする。なお、外来移住者は祠堂に入ることは許されておらず、移住者の方も入りづらいことがある。そこで、居民委員会は祠堂とは別に「文娛楼」（文化楼ともいう）のような公共施設を建てて、村落に暮らす全ての住民に開かれるようにした。文娛楼は居民委員会が区政府の指示に従い、コミュニティの文化娛樂施設として建てた公共施設であり、宗族の高齢者だけでなく、外来移住者も利用しているようである。多元化コミュニティの社会統合問題の解決の糸口になるかもしれないと筆者は考えている。

二 多元化コミュニティの社会統合に向けて

宗族の族譜を研究した瀬川は、1980 年代の宗族再生現象で再編された族譜が、社会的・政治的な文脈の中で新たな価値を付与され、地域コミュニティの再統合、歴史意識の再構築、民族的アイデンティティの再編など、新たな機能性を帯びて編纂されていると述べている。具体的にいうと、宗族復元の段階において、香港、海外在住者は東南中国の故郷に戻って、祠堂の再建、族譜の再編、祖先祭祀活動の再開等に力を入れた。彼らは宗族再生の活動の中で、中華文明の歴史の中で自分の家系の位置づけを辿ったり、東南中国に暮らす親戚、同姓団体と二次的・擬制的社会団体関係を築いたりした。なお、中国本土の同姓宗族集団と香港の同姓宗族集団との間に形成された「宗親会」等のような組織は、香港という存在を社会的に本土へ再統合するための一つの回路であると瀬川が指摘した〔瀬川 2012〕。要するに、80 年代以降の宗族再生に伴い、宗族文化は文化資源として絶えず社会的・政治的な都合により新たな価値を付与され、さらには、宗族文化が社会統合、コミュニティ統合に大きな役割を果たすことになった。

1 外来移住者の二代目のアイデンティティと学校のカリキュラム

中国では一般的に、外来移住者と外来移住者の子供たちは、つねに社会のマイノリティ、よそ者と見なされている。ただし、一代目の外来移住者は、出稼ぎ先の社会に帰属意識を感じないことは理解しやすい。しかし、二代目である外来移住者の子供が依然としてよそ者と見なされることは、社会的に付与されたアイデンティティであると考えられる。外来移住者の子どもたちをめぐる社会問題に注目している熊は、マックス・ウェーバーの理論を引用して論じた。マックス・ウェーバーの表現をまねるならば、農民工子女は単なる「共同生活の機会」(Common Life Chances)がある人的集合体であり、真の社会グループではない。それは紙上(政策文書、報道媒体)に存在するグループであり、「Group-on-paper」であって、「Group-in-reality」ではない[熊 2010:78]。我々が、彼らが外来移住者の二代目だということを強調しすぎたのではないか、過度の配慮が外来移住者の子どもたちに差別をもたらしたともいえると思う。例えば、政府は都市に生活している外来移住者と彼らの子供の心理的問題、地元社会に統合させる問題に注目し、外来移住者の子供のために子どもセンターを開設した。この子どもセンターを利用するのは全部外来移住者の子供である。つまり、彼らに再び閉鎖的な外来移住者コミュニティを作り出したことになる。子供たちによそ者というアイデンティティを植え付けさせてしまい、地元のコミュニティに溶け込めないままになってしまう。

社会の安定性は中国政府がもっとも重視することである。仏山市南海区も三つの集団を統合することこそ、穏やかな社会関係が維持でき、農村・都市の一体化が促進できると考えている。南海区政府は、外来移住者の二代目のアイデンティティの再構築に役立つような工夫を学校のカリキュラムのなかに取り入れている。

現在、大部分の南海区の学校において、外来移住者の子弟の人数は地元住民の子弟の人数をはるかに超えている。地元住民は、マジョリティからマイノリティとなりつつある。そういう厳しい状況で、地域文化の継承と外来移住者の統合は重要な課題となっている。

A村に仮住まいしている外来移住者は、A村の地元のコミュニティと距離感を持っている。A村小学校、A村中学校はいわば学校版三元化コミュニティだと言える。すなわち、A村小学校、A村中学校に在学中の学生は、A村宗族成員、外来移住者、付近の市民たちの子供から構成されている。A村にとって、三元化コミュニティを統合する回路の一つは、龍船競漕という伝統文化を他者にも共有してもらうことである。同様に、南海区政府、A村の居民委員会は、学校のカリキュラムによって、各身分の子供たちが地元の文化を身に着けることで、地元への帰属意識を高め、南海人としてのアイデンティティを構築してもらおうとしている。具体的にいえば、家庭—学校—コミュニティという「1+1+N」の教育理念に基づいて、A村中学校のカリキュラムでは、学生、学生の父母、居民委員会、地元の人々が龍船競漕文化を共有できるような教育方針を採っている。「A村の伝統文化を継承し、発展させることは、我々がやるべき任務である。豊かな地域特色が盛り込まれたカリキュラムを通じて、学生たちは美意識を養い、家、故郷、国家を愛する意識を育てることができる。さらには、在学する外来移住者の子供たちと地元の子供たちがともに、A村のコミュニティに対する認識を深め、A村のコミュニティの一員であるという意識を

強化させ、仏山市、南海区に対する帰属意識を持ってもらうようにすることが、我々がこのカリキュラムを開設する目的である」と校長先生が指摘した⁹³。

図 14、15 A 村の龍船競漕をめぐる親子活動の開催⁹⁴



龍船競漕だけでなく、先生は学生たちを率いて定期的に、村落の祠堂を見学したり、宗族の族訓（お年寄りを尊敬し、年下、弱い人を助けるなどのような現代社会にも適用できる訓示）や広東語の歌謡を学ばせている。

A 村小学校、A 村中学校のカリキュラムの事例から、宗族文化の一部、伝統文化、郷土文化は、地域のコミュニティを統合するよい道具として活用されている。地域文化を様々な人と共有することで、当該地域に生活している人々の帰属意識が構築されることが期待できる。再構築されたアイデンティティを持てば、当該地域に生活する人々が統合されることが期待できる。

2 祠堂や文娛樓の利用について

祠堂、牌坊などの建物は、村民にとって集合的記憶が埋め込まれた「場所」である。そのため、A 村村民は「A 村小鎮」プロジェクトの改造計画に怒っている。

祠堂とは、宗法制度と父系親族の団体に基づいて村にやってきた最初の共通始祖（開基祖）を祀ったり、共通始祖からの系譜を保存したり、宗族成員を集めたり、祝日または宗族成員の吉事を行う施設である〔瀬川 2004：118-120〕。漢族の風水学に従って、祠堂が常に村落の「心臓」というところに位置づけられる。建国前、宗族文化が盛んであった時に、不動の建物である祠堂は宗族集団、宗族分節の可視化された象徴物であり、およそ六つの機能を果たしていた。最も重要なのは、祖先祭祀機能である。宗族の再生につれて、祖先祭祀活動も復興された。祖先祭祀活動の規模、宗族集団の信心深さはつねに当該宗族集団の「運命」に関わっている。例えば、前の章で言及した広州の商業中心地区にある C 村は全体的に改造され、いくつかの宗族集団の祠堂はある地域に「祠堂群」という形で建

⁹³出典：A 村中学校の特色カリキュラム＜<https://3g.163.com/ntes/article/GH9VT5JA04179HUN.html>＞
（参照：2020-10-02）

⁹⁴出典：「【活动回顾】感受传统文化魅力，叠滘龙船文化亲子体验活动」
＜https://mp.weixin.qq.com/s/bkCvH3HFdbzjeNu_cMaihQ＞（参照：2020-10-02）

て直された。D氏の祠堂に入ってみると、線香が立てられている。祠堂の紹介には、開基祖が宗族村落の所在地に定住したことを長い文章で顕彰していた。内容を簡潔に言うと、開基祖がここに定住したからこそ、この土地が都市の商業中心地区になり、後代が豊かな生活を送れるようになった。宗族成員、編纂者は巧みに風水学と賢明な祖先の決定を関連付けて、宗族集団の好運を説明し、さらに後代には祖先のことを忘れずに感謝することを説いている。そのため、宗族集団が発展すればするほど、祖先崇拜、祖先祭祀が重視されるようになる。二つ目、三つ目の機能は、経済機能と政治機能である。祠堂は、宗族成員を集める場所であるから、宗族集団の経済的・政治的な事務はつねにリーダーたちによって祠堂で処理されていた。しかし、現在、村落の事務は、地元政府の職員によって扱われるようになってきているため、村民委員会、居民委員会が祠堂に代わって経済・政治機能を果たしている。四つ目は象徴機能である。祠堂の外観の美しさ、大きさは、宗族集団の豊かさ、規模に関わっている。そして祠堂には、代々の祖先の位牌が置かれ、祖先の偉業を後代に銘記させている。教育機能と社交機能は現在弱まってしまったとはいえ、形を変えながら機能している。教育機能については、従来の宗族成員は、儒教に基づく宗族の族規を守らなければならなかった。他の宗族成員の戒めるとするために、族規を破った宗族成員に対する懲罰は祠堂で行われた。祠堂に掲示されていた族規は、現在では社会主義の核心的価値観や、中国の伝統的な道德教育などのスローガンに置き換えられている。社交機能については、本来は祠堂は宗族集団の所有物であったが、現代社会に適応しながら、祠堂の機能も多様化している。そのため、祠堂には従来宗族成員しか入れなかったが、現在は出入りの規則がそれほど厳しくなくなった。しかし、宗族集団に属さない人々は今も理由もなく気軽には入らない。毎日、A村にある各祠堂には、お年寄りの宗族成員が集まって麻雀をやったり、雑談をしたり、祖先祭祀を行ったりしている。

外来移住者の大量流入につれて、小さな、荘厳な祠堂が多様化のコミュニティのニーズを満たせなくなっている。そこで、多様な機能を果たせる建物、例えば、文娛楼（コミュニティの活動センター）をつくることが重要になる。A村の地図（図 11 参照）からみると、多くの宗族集団の祠堂の隣には文娛楼という建物があることが分かった。文娛楼は文化楼とも呼ばれ、珠江デルタの多くの農村において見られる。文娛楼の建設は、政府の村落に対する評価、「文明村落」の選評にも関わっている。2002 年までに、A村の 14 個の自然村（宗族村落）はすべて「文明村落」のレベルに達した。A村（南）村民委員会（旧称）は、南海区の「文明村落の垂範単位」と評価された。「文明村落」、「文明家庭」などの選評活動で、A村はおおよそ 5400 万元（2002 年の貨幣価値）を投入した。その中で、A村村民は大量の資金を寄付していることが分かった（表 15 参照）。

図 11 A 村における祠堂、文娛楼、居民委員会、学校、市場などの公共施設の分布図⁹⁵



表 15 A 村における文娛楼（文娛館、文化室、文娛中心とも呼ばれる）⁹⁶

文娛楼	竣工時期	文娛楼	竣工時期	文娛楼	竣工時期
CJ 文化室	1984 年	JT 文化室	1980 年	DS 文娛館 2	1987 年
LQ 文化室	1989 年	NJ 第一文娛楼	1982 年	DS 文娛館 3	1988 年
ZS 文娛楼	1992 年	NJ 第二文娛楼	1994 年	TT 文化室	1989 年
CF 文娛楼	1982 年	QY 文娛館	1990 年	TT 文娛館	1990 年
ST 文娛楼	1988 年	CT 文娛館	1989 年	SY 文娛中心	1993 年
DF 文娛楼	1993 年	AB 文化室	1990 年		
JB 文娛中心	1991 年	DS 文娛館 1	1987 年		

現地で調査する際に、文娛楼ではほとんど人を見かけることはなかったが、祠堂には数十人のお年寄りが集まっていた。なぜかという、外来移住者であれ、若い村民であれ、彼らにとって、普段は非常に忙しくて余暇を楽しむ時間はほぼない。そのため、文娛楼は居民委員会が活動を行うときにしか開かれない。そういう時に、文娛楼は、どんな身分であれ使え、楽しめる場所となる。現段階では、政策的に建てられた文娛楼は、三元化コミ

⁹⁵図 11 の製作：筆者

⁹⁶出典：孔樹（2006）『A 村志』A 村乡志编纂领导组、p135.

コミュニティのいずれの団体にとってもいわば「外的景観⁹⁷」であり、祠堂は、地元の村民、とくにお年寄りにとっては「内的景観」、「場所⁹⁸」である。しかし、文娛楼は、村民が集まったり、楽しんだりする場所を提供しており、コミュニティの統合に寄与していると筆者は考えている。

文娛楼には、読書室、運動施設などの施設が設置されている。香港の親族集団、地元政府が出資して建てられたものである。誰でも入ることができる。村落に関する様々なお知らせ、例えば、選挙会、配当金、食事会の開催、食事会の申し込みなどのことが文娛楼の掲示板に書かれている。なお、居民委員会はつねに文化楼で活動を行う。

もちろん、宗族成員以外の人々が我々の祠堂に入って来ても、宗族成員は構わない。私は毎日祠堂を開け、祖先に線香をあげるといふ仕事をしている。観光客が来られるときにも、彼らと村落の歴史や面白いことを話し合う。

——TT 集落の祠堂で村民同士と雑談しているおばあさんより

今も祠堂は依然として宗族成員が集まる場所であるが、もはや厳めしい場所ではなくなっている。生活習慣の変化に伴い、宗族成員が気軽に祠堂を利用している。ただし、村落に暮らしている外来移住者にも日常活動を行う場所を提供するために、地元政府は文娛楼という建物を作り出した。A 村の事例から分かるように、文娛楼は次第に祠堂の一部の機能を果たすようになっていく。文娛楼という建物は、祠堂に類似するが、今後は宗族成員と他者である外来移住者が共有できる活動場所としての役割を果たしていくものと考えている。

3 三元化コミュニティから多元化コミュニティへ

珠江デルタの大多数の農村（特に城中村）と同様に、A 村は従来の「熟人社会（知り合い社会）」から「見知らぬ人社会」、三元化コミュニティへと変わってきた。また、A 村の龍船競漕チームメンバーのインタビューから分かるように、A 村宗族成員は、依然として強い排他性をもっている。特に A 村に暮らし続けている人々の「内と外の人」に関する分類方法はむしろより細かくなっているように見える。彼らは A 村に暮らしている時間の長さ、龍船が漕げるかどうか、出自の純正性などを分類の要と見なしている。一方、外来移住者が自集団の文化の「純正性」を破壊したと考える村民もいる。T さんのような

⁹⁷外的景観とは、学者、芸術家、実業家、プランナー、施政者などの他者が、政治的権威や経済的利益を得るために、一部の「特殊な」文化を拾い出し、それを環境に付与することで形成される景観である。内的景観とは、内的景観とは、実際に生活する者の語り、名づけ、記憶などにより浮かび上がる景観である [河合 2016 : 23]。

⁹⁸歴史、記憶、物語、愛着、アイデンティティなどが埋め込まれた環境を専門用語で「場所 (place)」という [河合 2020 : 16]。

宗族成員が外来移住者に対する強い「排他性」をもっている原因は彼らのアイデンティティに関わっていると考えている。「私」の認識は、他者を媒介として、「私」自身を対象化し、新たな「私」を創発していく動的な過程である〔井上 2005 : 3〕。従来、A村宗族成員のみが龍船競漕に参加し、A村宗族成員のみが祠堂に入ることを許され、A村宗族成員のみが配当金をもらえた。また、A村宗族成員が外来移住者に家屋を貸し出すという賃貸関係のため、宗族成員は外来移住者に対し特別な優越感を持つようになっている。

しかし、三元化コミュニティだけで南海区の現状を把握したことにはならない。例えば、A村の宗族成員と言っても、A村に暮らし続けている人と他所で暮らしている人がいる。A村に暮らしていない宗族成員の大多数は、改革開放の機会をとらえて豊かになり、現在は都市の高級マンションに住んでいる。彼らは依然としてA村の村籍を持っていて、A村の政治、経済に関する会議にも参加する。しかし、彼らと彼らの子供たちは、あまりA村の龍船競漕に参加しておらず、関連する記憶も少ない。同じ宗族成員であっても、帰属意識に温度差が生じている可能性がある。なお、A村の各集落の位置づけの差異によって、土地の価値、村民がもらえる配当金も異なり、宗族間での格差がみられる。

一方、外来移住者についても、広東省内の移住者と湖南省、広西省、四川省など遠隔地から出稼ぎにきた移住者に分けられる。また、南海区に戸籍があるかどうか、住宅を購入したかどうか、月給の多寡、職種の違いなどにより様々なカテゴリーに分類される。さらには、政府や開発業者も多元化するコミュニティのアクターである。地域の発展状況が地元政府の実績のバロメーターとなり、財政収入にも影響してくる。そして、開発業者は地域の発展状況によって当該地域に投資するかどうかの判断をする。ここ南海区では、上記のような様々なアクターが時には協力し、時には競合しながら相互に依存する多元化コミュニティへと変貌しつつある。

常に宗族集団側がマジョリティで、外来移住者がマイノリティというような固定的な関係にあるわけではなく、ローカルな広東語を話し、人口的にも逆転しかねない地元住民である宗族集団のほうがマイノリティとなりつつある。南海区政府が「南海精神——海納百川」というイデオロギーを打ち出したのも、多元化しつつある南海区の各エスニック・グループが共生できる社会の構築を目指すゆえである。外来移住者の増加につれて、仏山市南海区は今後深圳市のようなユニークな移民都市になるかどうかについては筆者はまだ懐疑的である。なぜかという、「南海精神」のなかには、一定の閉鎖性を残した宗族文化を含めた伝統文化、地域文化を基礎としているからである。もちろん、自集団の文化を守りながら自発的に宗族文化を現代的な要素と融合させて、「ゲスト」をオープンに受け入れられるかどうかは「ホスト」である地域住民である宗族成員側の努力次第である。

おわりに

本研究の目的は、都市化が進む珠江デルタの宗族村落において、宗族文化が新たな機能を持ち、宗族が再構築される様子と、地元政府が目指す三元化コミュニティの社会統合に宗族文化が果たす役割を明らかにすることである。そして、都市化が進む村落社会と宗族文化との関係に焦点を当てている点が、宗族の先行研究にはない本研究の特徴である。

1980年代に入り、改革開放政策が実施されて以降、宗族の再生現象が見られるようになったことは瀬川、川口らによって指摘されているところであるが、宗族を取り巻く環境は大きく変わってきている。経済面では、20世紀80年代以降に土地の使用権が認められたこと、政治面では、農村の都市化を推進するために戸籍制度が改革され、農民は身分転換に伴い、多くの人の生業形態や生活方式が変わったこと、文化面では、伝統文化の復興、地域文化の保護と維持などの政策が打ち出され、従来排除されてきた宗族文化が新たな意味づけをされて再生していることなどである。

本研究で調査地としたのは珠江デルタに位置する仏山市南海区の行政村 A である。珠江デルタ地域は中国でもいち早く宗族の復元、復興が見られるようになった地域であり、宗族の結束力が強い地域である。また、南海区は各方面の改革のパイオニアであり、都市化の進展に伴い移民問題が生まれており、社会統合が大きな課題になっている地域でもある。

現地では、行政村 A の宗族文化を代表する龍船競漕と関連する活動を調査したが、①宗族村落のシンボルとして龍船競漕活動が再び活性化していること、②ドリフト技術や龍船を使った結婚式、ネットでの受発信など、龍船競漕が現代社会にマッチした活動内容になっていること、③都市化と「郷村振興計画」を進め、移住者問題の解決も図りたい地元政府や上級政府は、本来は宗族の活動である龍船競漕を利用しようとしていることなどが分かった。また、宗族の活動として龍船競漕を行うことにこだわる宗族集団側と地域管理者として農村改造を進める政府側との間に思惑のズレが生じていること、外来移住者と宗族成員との間には同じ住居に住む大家と借家人という密な関係があるが、龍船の漕ぎ手には外来移住者をなかなか入れておらず、両者には一定の距離感があることも分かった。

現地での調査を通して、宗族文化としての龍船競漕が活性化した背景にはより大きな社会変化と宗族の変容があることも分かってきた。仏山市南海区では、農村株式合作制度により宗族村落ごとに集団経済組織を設立し、まとまった土地を企業や工場に貸して、その賃貸料の収入から各成員に配当金を給付するようになった。これにより宗族は新たな経済的機能を有することになった。また、宗族は元来血縁集団に対する責任感から村落レベルでの自治機能を有していたが、新中国になり、中央政府が末端行政の村落まで管理するようになり、宗族や宗族文化は唾棄すべきものであるとされたこともあった。しかし、21世紀に入って上記のように新たに集団化したことにより、結束力と凝集性を高め、宗族村落内の人間関係の維持、調整などの自治機能を再び持つようになった。また、個人と国家との間に立って仲介的な役割を担うようになったことが、21世紀に入って、珠江デルタ仏山市南海区でみられるようになった。

なお、改革開放以降、大量の外来移住者の流入により、人口の逆転現象が起こっている。宗族村落は、もはや互いに見知った者どうしからなる「熟人社会」から見知らぬ者どうしからなる「半熟人社会」へと変貌しつつある。地元政府や上級政府はこのような多元化したコミュニティの再統合のために、本来は宗族文化の一部であった龍船競漕を活用しようとしているが、宗族が持つ排他性とどう折り合いをつけられるかが課題である。一方、地元政府や上級政府は、本来 A 村の宗族文化の一部である龍船競漕をより広い南海地域の

郷土文化として位置づけ、包容力に富みながらも、一丸となって果敢に立ち向かっていく「南海精神」を提唱するようになっている。これは南海地域が元の農民(宗族村落の成員)、元からの都市民、外来移住者などからなる多元化社会になっているなか、出自の違いに関係なく、龍船競漕を南海人の集合的記憶にし、南海人としてのアイデンティティを形成させようとする意図があるからだと考察した。

また、地元政府や上級政府は社会統合を推し進めるため、小中学校のカリキュラムのなかに、龍船競漕文化、宗族文化を共有できるプログラムを入れたり、各宗族村落ごとに祠堂とは別に文娛楼(コミュニティの活動センター)を建設して誰にでも利用できるようにしていることや、龍船競漕というローカルな宗族文化を国家が進める愛国社会主義教育や観光資源化などにつなげようとしていることについても指摘したが、これらの点については今後より深く考察していく必要がある。

本論文は、都市化が進む珠江デルタの宗族村落を事例にして、現代中国における、特に21世紀に入ってから宗族が、政治、経済、文化面でさまざまな機能を加えながら再構築されている状況を考察した。多元化する村落社会において、宗族文化に由来するものが社会統合の機能を果たせるかどうか今後も見えていく必要がある。また、農村の都市化は全国的に展開されており、珠江デルタ地域以外における状況を把握することが今後の課題である。

謝辞

本研究の遂行に当たり、終始熱心なご指導を頂いた指導教員曾士才先生に感謝致します。修士二年間には、曾先生から調査のやり方、関連する研究の考察の方法、論理的な文章の書き方など、細部にわたるご指導ご鞭撻を頂きまして、感謝の念に絶えません。本当にありがとうございました

副指導教員として石森大知先生、国際文化研究科の先生の方々には本論文作成に当たり、ご助言を賜りました。国際文化研究科の皆様、先輩たちには、修士二年間の授業において研究に多くのコメント、質問を頂きまして、ありがとうございました。

コロナ時期にも、調査地における現地調査を精神的に支えてくれた両親、友人、また熱心にインタビューに答えてくださったインフォーマントの方たちに心から感謝の意を表します。

参考文献：

＜日本語文献＞：

- 井上 俊、船津 衛編（2005）『自己と他者の社会学』東京、有斐閣アルマ
- エリック・ホブズボウム、テレンス・レンジャー編；前川 啓治、梶原 景昭他訳（1992）『創られた伝統』東京、紀伊國屋書店
- 岡本 信広編（2018）『中国の都市化と制度改革』千葉、アジア経済研究所
- 小野寺 淳（2018）「都市開発にともなう土地所有関係の変化——広州市珠江新城獵徳村に注目して」『中国華南の地域構造の再編に関する地理学的調査研究』京都府、京都大学
- 賈 海濤（2018）「沿海部の都市化——珠江デルタの都市化モデル」岡本 信広編『中国の都市化と制度改革』千葉、アジア経済研究所
- 河合 洋尚（2013）「景観人類学：認知とマテリアリティのはざま：共同研究【若手】：ランドスケープの人類学的研究—視覚化と身体化の視点から（2012-2014）」『民博通信』大阪、国立民族学博物館
- 河合 洋尚編（2016）『景観人類学——身体・政治・マテリアリティ』東京、時潮社
- 河合 洋尚（2020）『景観人類学入門』東京、風響社
- 韓 敏（1995）「宗族の再興」曾 士才、西澤 治彦、瀬川 昌久編『アジア読本・中国』東京、河出書房新社
- 川口 幸大（2004）「龍舟競渡にみる現代中国の「伝統文化」——広東省珠江デルタのフィールドから」『中国 21』Vol. 20、pp. 209-226
- 川口 幸大（2013）『東南中国における伝統のポリティックス——珠江デルタ村落社会の死者儀礼・神祇祭祀・宗族組織』東京、風響社
- 川口 幸大（2014）「中国の村落における地域のつながり、祖先とのつながり」東北大学大学院文学研究科出版企画委員会編『「地域」再考—復興の可能性を求めて』仙台、東北出版社、pp. 73-99
- 小林 宏至（2021）『「伝統文化」をめぐるメディア人類学のフィールド：中国客家社会における福建土楼を事例として』藤野陽平、奈良雅史、近藤祉秋編『モノとメディアの人類学』京都、ナカニシヤ出版、pp. 77-94
- ジェームズ・ワトソン；瀬川 昌久訳（1995）『移民と宗族——香港とロンドンの文氏一族』京都、阿吽社
- 瀬川 昌久（1991）『中国人の村落と宗族：香港新界農村の社会人類学的研究』東京、弘文堂
- 瀬川 昌久（2004）『中国社会の人類学——親族・家族からの展望』京都、世界思想社
- 瀬川 昌久（2008）「南雄珠璣巷をめぐる広東ローカライズムと中華ナショナリズム」塚

- 田 誠之編『民族表象のポリティクス：中国南部における人類学・歴史学的研究』東京、風響社
- 瀬川 昌久（2012）「氏姓のポリティクス——現代中国における文化資源としての族譜とその活用」『東北アジア研究』16、pp. 205-222
- 瀬川 昌久（2014）「現代中国における宗族の再生と文化資源化」『東北アジア研究』18、pp. 81-98
- 瀬川 昌久・川口 幸大編（2016）『＜宗族＞と中国社会——その変貌と人類学的研究の現在』東京、風響社
- 田中 重好（2006）「中国社会構造の変動と社会的調整メカニズムの喪失」『アジア遊学』vol. 83、pp. 25-39
- 田中 信行（2011）「中国から消える農村：集団所有制解体への道のり」『社会科学研究』第62巻第56合併号、pp. 69-95
- 陳 雲、森田 憲（2009）「中国における分税制下の中央地方関係——立憲的地方自治制度のすすめ」『広島大学経済論叢』33(1)、pp. 1-48
- 符 衛民（2006）「中国の土地所有制度 Land Ownership System in China」『千葉大学社会文化科学研究』Vol. 12、pp. 99-108
- モーリス・フリードマン；田村 克己、瀬川 昌久訳（1987）『中国の宗族と社会』東京、弘文堂
- モーリス・フリードマン；末成 道男、小熊 誠、西沢 治彦訳（1991）『東南中国の宗族組織』東京、弘文堂
- 松村 嘉久（2018）「広州市における都市空間とグラフィティの諸相」小野寺 淳編『中国華南の地域構造の再編に関する地理学的調査研究』京都府、京都大学
- 熊 易寒；許 慈恵、張 建訳、石津 みなと訳（2018）『都市化の子ども達：農民工子女の身分生産と政治的社会化』東京、星雲社
- 羅 欽鎮（2019）「書評 李 強編著（蒋芳婧訳、橋谷弘解説）『多元的都市化と中国の発展』」『中国経済経営研究』3巻2号、pp. 62-65
- 李 強；蒋 芳婧訳（2013）『多元的都市化と中国の発展』東京、日本経済評論社
- ＜中国語文献＞
- 白雪娇（2019）『血缘与地缘：以家、房、族、保为单元的宗族社会治理』北京，中国社会科学出版社
- 包弼德（2004）『地方传统的重建——以明代的金华府为例』李伯重，周生春编『江南的城市工业与地方文化』北京，清华大学
- 储冬爱（2012）『城市化进程中的都市民间信仰——以广州“城中村”为例』《民族艺术》第

- 1 期, pp. 69-75
- 费孝通《乡土中国 生育制度》北京, 北京大学出版社
- 冯尔康(1996)《中国古代的宗族和祠堂》北京, 商务印书馆
- 冯尔康(2009)《中国宗族史》上海, 上海人民出版社
- 冯江(2010)《祖先之翼——明清广州府的开垦, 聚族而居与宗族祠堂的衍变》北京, 中国建筑工业出版社
- 傅晨(2006)《广东城市化发展战略》广东, 广东人民出版社
- 高崇(2005)〈都市化进程中华南宗族的演变动态:以南景村为例〉《浙江大学学报(人文社会科学版)》第3期, pp. 137-144
- 高飞(2105)〈“三元化社区”治理张力及其消解——广东省南海区的经验表达〉湖北, 华中师范大学社会学院, 博士论文
- 广东省人民政府地方志办公室(2019)《全粤村情·佛山市南海区卷. 四》广东, 华南理工大学
- 贺雪峰(2003)《新乡土中国——转型期乡村社会调查笔记》广西, 广西师范大学出版社
- 贺雪峰(2012)〈论中国农村的区域差异——村庄社会结构的视角〉《开放时代》第10期, pp. 108-129
- 侯功挺(2009)《传统的再造》福建, 厦门大学, 硕士论文
- 科大卫(2010)《皇帝和祖宗: 华南的国家与宗族》江苏, 江苏人民出版社
- 孔树(2006)《A村志》佛山, A村乡志编纂领导小组
- 赖瑛(2010)《珠江三角洲广府民系祠堂建筑的研究》广东, 华南理工大学
- 李建民, 董磊明(2019)〈经济分化与宗族的“外强-中干”——以珠三角地区为研究对象〉《中国农业大学学报(社会科学版)》第36卷第3期
- 李培林(2014)《村落的终结: 羊城村的故事》北京, 中国社会科学出版社
- 林怀策(2020)〈强宗族社会语境下乡村发展机制与治理研究〉南京, 南京大学, 硕士论文
- 刘风(2018)〈社会资本变迁中的流动人口社会融合研究〉湖北, 华中师范大学, 博士论文
- 刘晖, 梁励韵(2005)〈珠江三角洲城市边缘聚落的城市化〉《城市问题》第3期, pp. 43-46
- 刘晖(2010)《珠江三角洲城市边缘传统聚落的城市化》北京, 中国建筑工业出版社
- 刘梦琴, 傅晨(2010)〈城中村国内研究文献评述〉《城市观察》第6期, pp. 177-185
- 陆琦(2008)《广东民居》广东, 中国建筑工业出版社
- 麻国庆(1999)《家与中国社会结构》北京, 文物出版社
- 慕卫东, 陈松虎, 陈海素(2018)〈经济发达地区农村集体产权制度改革的实践〉《农村经济与科技》第29期, pp. 1-3
- 祁军(2011)《南海历史文化系列丛书——南海龙狮》广东, 中山大学出版社
- 沈慧敏(2020)〈乡村振兴战略背景下墙绘艺术表现研究〉安徽, 安徽财经大学, 硕士论文

- 苏拉米兹·帕特, 杰克·帕特著、杨榕生译 (1995) 〈宗族与集体: 结构与实践〉《史林》第 4 期, pp.84-94
- 熊易寒 (2010) 《城市化的孩子: 农民工子女的身份产生与政治社会化》上海, 上海人民出版社
- 王沪宁 (1991) 《当代中国村落家族文化: 对中国社会现代化的一项探索》上海, 上海人民出版社
- 王铭铭 (1996) 《社区的历程——溪村汉人家族的个案研究》天津, 天津人民出版社
- 王朔柏, 陈意新 (2004) 〈从血缘化到公民化: 共和国时代安徽农村宗族变迁研究〉《中国社会科学》第 1 期, pp. 180-193
- 汪洋 (2001) 《国民经济和社会发展第十个五年计划城镇化发展重点专项规划》北京, 中国计划出版社
- 王颖 (1994) 〈新集体主义与泛家族制度——从南海看中国乡村社会基本单元的重构〉《战略与管理》第 1 期, pp. 91-95
- 王颖 (1996) 〈新集体主义与乡村现代化〉《读书》第 10 期, pp. 59-64
- 许烺光 (2001) 《祖荫下: 中国乡村的亲属·人格与社会流动》台北, 南天书局
- 阎云翔 (2012) 《中国社会的个体化》上海, 上海译文出版社
- 杨华 (2021) 《陌生的熟人》广西, 广西师范大学出版社
- 杨善华, 侯红蕊 (1999) 〈血缘、姻缘、亲情与利益——现阶段中国农村社会中“差序格局”的“理性化”趋势〉《宁夏社会科学》第 6 期, pp.51-58
- 袁征, 卢道典 (2011) 〈广州猎德城中村改造模式思考〉《中国名城》第 12 期, pp.17-21
- 赵佳妮 (2013) 〈论中国农村土地所有制的发展历史及改革方向〉《社会发展》第 7 期, pp.86-87
- 郑杭生 (2012) 《多元利益诉求统筹兼顾与社会管理创新: 来自南海的“中国经验”》湖北, 华中科技大学出版社
- 郑杭生, 杨敏 (2010) 《社会互构论: 世界眼光下的中国特色社会学理论的新探索》北京, 中国人民大学
- 中共中央办公厅、国务院办公厅 (2017) 《关于实施中华优秀传统文化传承发展工程的意见》北京
- 周大鸣 (2004) 〈泛都市区与珠江三角洲城市化未来发展方向〉《广西民族学院学报 (哲学社会科学版)》第 2 期, pp. 2-7
- 周大鸣 (2005) 〈动荡中的客家族群与族群意识——粤东地区潮客村落的比较研究〉《广西民族学院学报 (哲学社会科学版)》第 5 期, pp. 19-26
- 周大鸣, 孙箫韵 (2006) 〈城市化与宗族变迁——以深圳凤东社区为例〉《中国研究》第 2 期, pp. 142-166

周大鸣（2015）《中国乡村都市化再研究——珠江三角洲的透视》北京、社会科学文献出版社

周大鸣（2016）〈从乡村宗族到城市宗族——当代宗族研究的新进展〉《思想战线》第2期 第42卷，pp. 1-7

周大鸣（2019）《移民和城市化》广州，中山大学

周彝馨（2015）《佛山传统建筑研究》广东，中山大学出版社